

# 令和3年度 第1回市民意識調査 報告書

調査期間:令和3年6月25日(金)～7月9日(金)

## テーマ

- 1 さっぽろえきバスナビについて
- 2 さぽーとほっと基金について
- 3 応急手当について
- 4 消防団について
- 5 札幌市における自殺対策について

札幌市

# 目 次

1	調査実施の概要	
(1)	目的	2
(2)	項目	2
(3)	設計	2
(4)	回収結果	2
(5)	回答者の特性	2
(6)	集計・分析上の注意事項	3
2	調査結果の詳細	
(1)	さっぽろえきバスナビについて	
	普段利用している交通手段	6
	さっぽろえきバスナビの認知度	7
	さっぽろえきバスナビの利用場面	8
	さっぽろえきバスナビの利用頻度	9
	さっぽろえきバスナビが役に立つか否か	10
	さっぽろえきバスナビの便利な機能	11
	さっぽろえきバスナビを利用していない理由	12
	さっぽろえきバスナビに必要な機能	13
(2)	さぼーとほっと基金について	
	さぼーとほっと基金の認知度	14
	さぼーとほっと基金の認知方法	15
	さぼーとほっと基金への寄付の有無	16
	さぼーとほっと基金に寄付をしたいか否か	17
	寄付をする際に重要だと思うこと	18
	寄付をする先として興味・関心の高いまちづくり活動の分野・テーマ	19
(3)	応急手当について	
	応急手当講習を受けたいか否か	20
	応急手当講習を受けたくない理由	21
	どのような応急手当講習が良いと思うか	22
	応急手当講習の受講しやすい開催方法	23
	WEB会議システムの使用の有無	24
	使用している（今後使用したい）WEB会議システムの種類	25
	心臓や呼吸の止まった人のそばに居合わせて119番通報をしたときにほしい手助け（支援）	26

(4) 消防団について	
地域防災への関心の有無-----	27
地域防災に関心がない理由-----	28
ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける支援をしたいか否か-----	29
ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける支援をしたいと思わない理由----	30
消防団の認知度-----	31
消防団の活動で認知している内容-----	32
消防団のPRの認知度-----	33
消防団の立場や待遇の認知度-----	34
消防団に入団した場合に関わってみたいこと-----	35
消防団に入団した場合に不安に感じること-----	36
消防団を身近に感じるきっかけ-----	37
(5) 札幌市における自殺対策について	
自殺対策の取り組みの認知度-----	38
自殺対策の取り組みを認知した方法-----	39
ゲートキーパーの認知度-----	40
悩んでいる人にきづいたときの対応方法-----	41
依存症に関する考え方	
ア 依存症は病気であり、本人の性格や意志の問題ではない-----	42
イ お酒やギャンブルはストレスを発散することにはつながらない-----	42
ウ 借金などのトラブルを家族が肩代わりをして解決するべきではない-----	42
エ 本人の意志だけでやめることは難しく、専門機関に相談することが大切----	42
オ 本人が依存の問題を認めることから回復が始まる-----	42
カ 依存症の回復には長い時間がかかる-----	42
悩みや苦勞、ストレスを感じる問題	
ア 家庭の問題・・・家族の不和、子育て、介護・看病など-----	43
イ 健康の問題・・・自分の病気、体の悩み、心の悩みなど-----	44
ウ 経済的な問題・・・倒産、借金、失業、生活困窮など-----	45
エ 勤務関係の問題・・・転勤、仕事不振、職場の人間関係など-----	46
オ 恋愛関係の問題・・・失恋、結婚の悩みなど-----	47
カ 学校の問題・・・いじめ、学業不振、進路、学校での人間関係など----	48
キ その他-----	49
悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときの対処方法-----	50
死のうとした、死のうと思った経験-----	51
死のうとした、死のうと思った原因-----	52
死のうとした、死のうと思った際に思いとどまった理由-----	53
死のうとした、死のうと思った際にあればよかった（もの）こと-----	54
資料：令和3年度第1回市民意識調査票-----	57



# 調査実施の概要

# 1 調査実施の概要

## (1) 目的

この調査は、昭和49年度から毎年実施しており、市政や市民生活に関して、市民の意識、関心、要望の傾向などを測定し、市政の参考とするものである。令和3年度第1回調査では、「さっぽろえきバスナビ」「さぽーとほっと基金」などをテーマとして設問を構成している。

## (2) 項目

- ① さっぽろえきバスナビについて
- ② さぽーとほっと基金について
- ③ 応急手当について
- ④ 消防団について
- ⑤ 札幌市における自殺対策について

## (3) 設計

- ① 調査地域 札幌市内
- ② 調査対象 満18歳以上の男女個人
- ③ 標本数 5,000人
- ④ 調査方法 調査票を郵送し、返信用封筒で回収
- ⑤ 調査期間 令和3年(2021年)6月25日(金)～7月9日(金)
- ⑥ 抽出方法 住民基本台帳から「等間隔無作為抽出」  
(対象者の抽出は、本市の電算システムにて行う。)

## (4) 回収結果

発送数 5,000  
回収数(率) 2,672 (53.4%)

## (5) 回答者の特性

区分	実数	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)	その他	比率(%)	無回答	比率(%)	合計	比率(%)
対象者全体	2,672	100.0	1,051	39.3	1,604	60.0	4	0.1	13	0.5	2,672	100.0
【性別】												
男性	1,051	39.3	1,051	100.0	-	-	-	-	-	-	1,051	100.0
女性	1,604	60.0	-	-	1,604	100.0	-	-	-	-	1,604	100.0
その他	4	0.1	-	-	-	-	4	100.0	-	-	4	100.0
無回答	13	0.5	-	-	-	-	-	-	13	100.0	13	100.0
【年代】												
29歳以下	220	8.2	93	42.3	125	56.8	2	0.9	-	-	220	100.0
30～39歳	319	11.9	111	34.8	207	64.9	1	0.3	-	-	319	100.0
40～49歳	456	17.1	161	35.3	294	64.5	1	0.2	-	-	456	100.0
50～59歳	444	16.6	185	41.7	259	58.3	-	-	-	-	444	100.0
60～69歳	526	19.7	207	39.4	318	60.5	-	-	1	0.2	526	100.0
70歳以上	691	25.9	292	42.3	397	57.5	-	-	2	0.3	691	100.0
無回答	16	0.6	2	12.5	4	25.0	-	-	10	62.5	16	100.0
【居住区】												
中央区	316	11.8	116	36.7	198	62.7	1	0.3	1	0.3	316	100.0
北区	379	14.2	150	39.6	228	60.2	1	0.3	-	-	379	100.0
東区	335	12.5	136	40.6	198	59.1	-	-	1	0.3	335	100.0
白石区	280	10.5	109	38.9	171	61.1	-	-	-	-	280	100.0
厚別区	178	6.7	71	39.9	107	60.1	-	-	-	-	178	100.0
豊平区	288	10.8	116	40.3	170	59.0	1	0.3	1	0.3	288	100.0
清田区	158	5.9	72	45.6	86	54.4	-	-	-	-	158	100.0
南区	202	7.6	85	42.1	117	57.9	-	-	-	-	202	100.0
西区	323	12.1	121	37.5	201	62.2	1	0.3	-	-	323	100.0
手稲区	193	7.2	74	38.3	119	61.7	-	-	-	-	193	100.0
無回答	20	0.7	1	5.0	9	45.0	-	-	10	50.0	20	100.0

区分	実数	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)	その他	比率(%)	無回答	比率(%)	合計	比率(%)
対象者全体	2,672	100.0	1,051	39.3	1,604	60.0	4	0.1	13	0.5	2,672	100.0
【職業】												
会社員	741	27.7	408	55.1	333	44.9	-	-	-	-	741	100.0
公務員	116	4.3	71	61.2	45	38.8	-	-	-	-	116	100.0
自営業	144	5.4	93	64.6	51	35.4	-	-	-	-	144	100.0
パート・アルバイト	400	15.0	67	16.8	332	83.0	1	0.3	-	-	400	100.0
主婦・主夫	504	18.9	6	1.2	497	98.6	-	-	1	0.2	504	100.0
学生	76	2.8	38	50.0	36	47.4	2	2.6	-	-	76	100.0
無職	552	20.7	303	54.9	247	44.7	1	0.2	1	0.2	552	100.0
その他	103	3.9	57	55.3	46	44.7	-	-	-	-	103	100.0
無回答	36	1.3	8	22.2	17	47.2	-	-	11	30.6	36	100.0
【同居家族】												
配偶者	1,649	61.7	718	43.5	929	56.3	-	-	2	0.1	1,649	100.0
乳幼児(0～2歳程度)	128	4.8	42	32.8	86	67.2	-	-	-	-	128	100.0
就学前児童(3～5歳程度)	145	5.4	52	35.9	93	64.1	-	-	-	-	145	100.0
小学生(6～12歳程度)	254	9.5	97	38.2	157	61.8	-	-	-	-	254	100.0
中学生(13～15歳程度)	139	5.2	53	38.1	86	61.9	-	-	-	-	139	100.0
高校生(16～18歳程度)	163	6.1	50	30.7	112	68.7	1	0.6	-	-	163	100.0
大学(院)・専門学校生	120	4.5	42	35.0	78	65.0	-	-	-	-	120	100.0
65歳以上の高齢者	398	14.9	147	36.9	251	63.1	-	-	-	-	398	100.0
上記「1」～「8」以外の方	559	20.9	200	35.8	358	64.0	1	0.2	-	-	559	100.0
いない	452	16.9	176	38.9	272	60.2	3	0.7	1	0.2	452	100.0
無回答	40	1.5	6	15.0	24	60.0	-	-	10	25.0	40	100.0

### (6) 集計・分析上の注意事項

報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で標記している。また、図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%になっていない場合がある。

なお、個々の選択肢比率を合算する場合(「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計など)は、個々の回答者数の合計をNで除して百分率を求め、小数第2位を四捨五入した。このため、本文やグラフの比率を単純合計したものにはならない場合がある。





## 調査結果の詳細

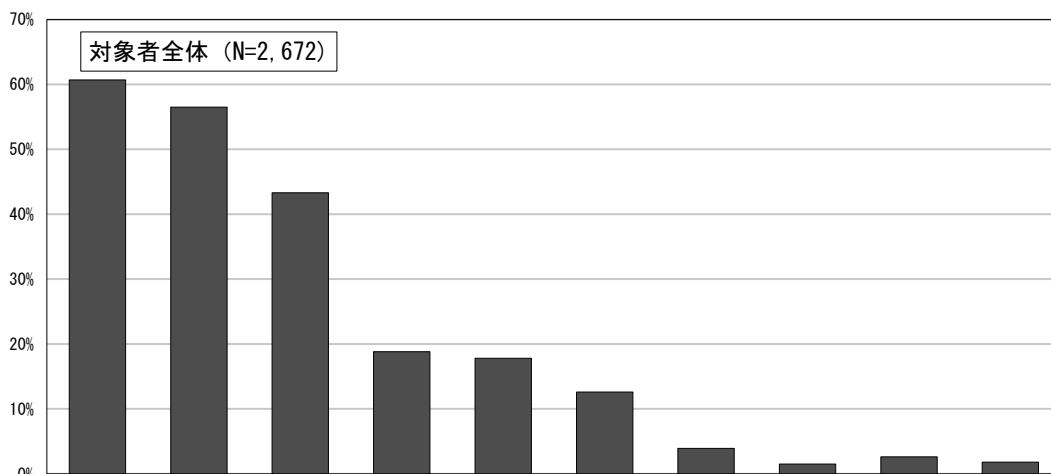
## 2 調査結果の詳細

### (1) さっぽろえきバスナビについて

#### ◇ 普段利用している交通手段

問1 あなたが、普段利用している交通手段は何ですか。よく利用しているものに3つまで○をつけてください。

普段利用している交通手段は「地下鉄」と回答した人が 60.7%



		対象者数	地下鉄	自家用車	バス	JR (鉄道)	自転車	タクシー	路面電車 (市電)	その他	利用していない	無回答
		(%)										
対象者全体		2,672	60.7	56.5	43.3	18.8	17.8	12.6	3.9	1.5	2.6	1.8
性別	男性	1,051	57.7	62.7	37.4	18.2	17.6	10.8	3.4	1.8	3.0	1.6
	女性	1,604	62.8	52.7	47.4	19.3	17.8	13.7	4.2	1.2	2.4	1.8
	その他	4	75.0	25.0	25.0	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-
年代別	29歳以下	220	66.4	43.2	34.1	30.0	25.9	5.5	5.0	-	3.2	1.8
	30~39歳	319	53.3	61.8	29.2	15.7	21.3	7.5	4.7	1.9	3.4	1.6
	40~49歳	456	54.4	65.4	31.8	17.8	27.0	7.0	2.6	1.1	2.0	1.1
	50~59歳	444	59.0	64.4	39.2	20.7	15.1	8.6	2.9	1.8	2.7	2.7
	60~69歳	526	58.7	60.5	46.2	19.8	15.4	10.1	2.5	1.7	1.9	1.0
	70歳以上	691	69.0	45.2	60.8	15.3	11.0	25.6	5.8	1.6	3.0	2.2

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 普段利用している交通手段は、「地下鉄」が 60.7%、「自家用車」が 56.5%、「バス」が 43.3%となっている。

【性別】 「地下鉄」、「バス」は女性が男性より 5.0 ポイント以上高くなっている。また、「自家用車」は男性が 62.7%と、女性の 52.7%より 10.0 ポイント高くなっている。

【年代別】 29歳以下と70歳以上では「地下鉄」が、30歳代~60歳代では「自家用車」が最も高くなっている。

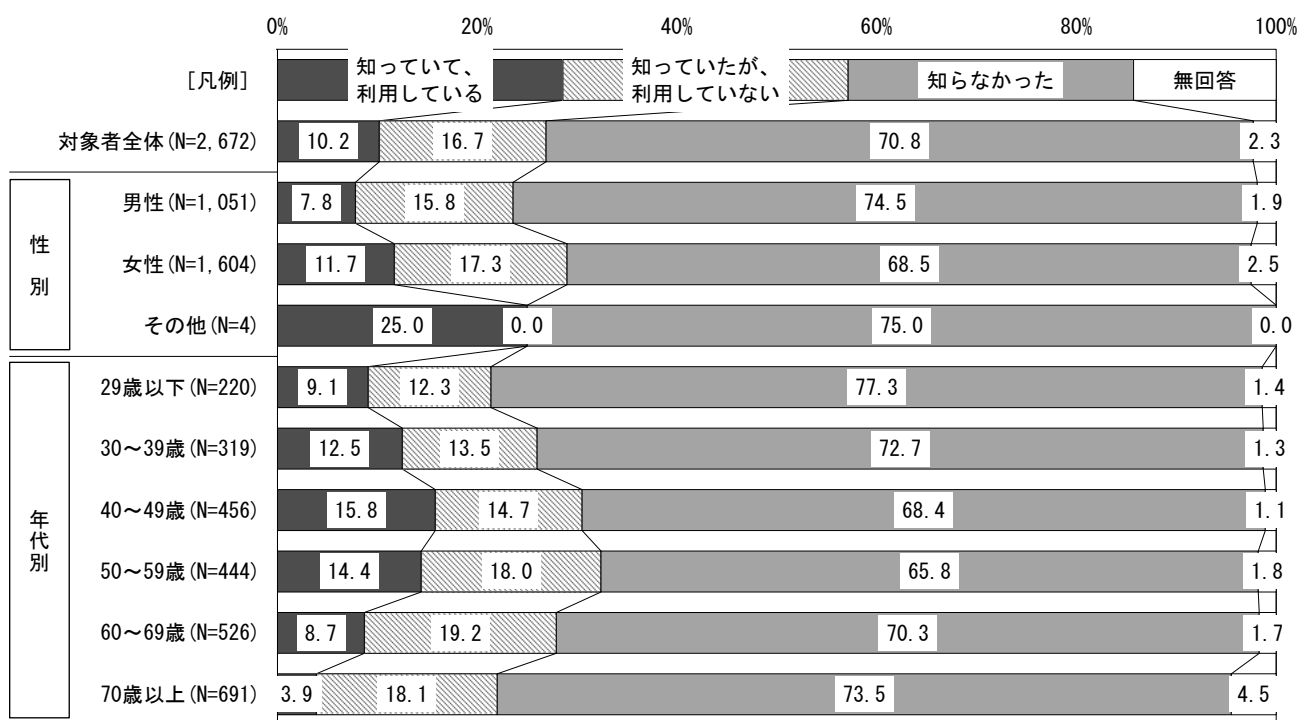
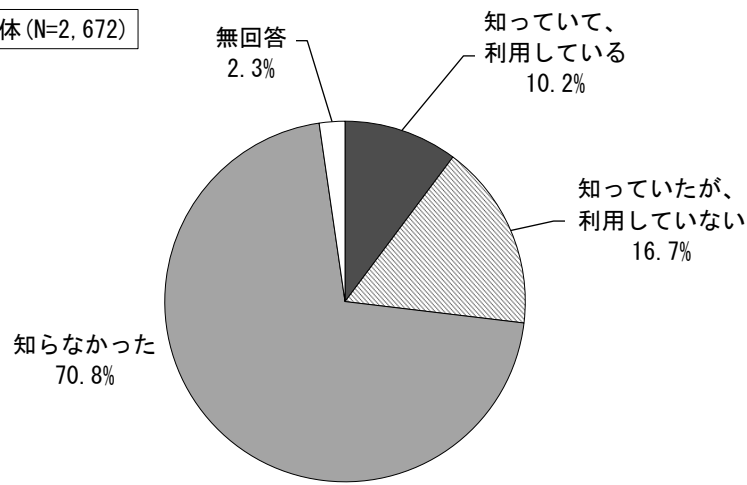
## ◇さっぽろえきバスナビの認知度

**問2** あなたは、さっぽろえきバスナビを知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さっぽろえきバスナビを“知っている”人は26.9%

※ “知っている”（「知っていて、利用している」＋「知っていたが、利用していない」）

対象者全体 (N=2,672)



**【全体】** さっぽろえきバスナビについて、「知っていて、利用している」が10.2%、「知っていたが、利用していない」が16.7%、合わせると26.9%となっている。一方、「知らなかった」が70.8%となっている。

**【性別】** 「知らなかった」が男性で74.5%と、女性の68.5%より6.0ポイント高くなっている。

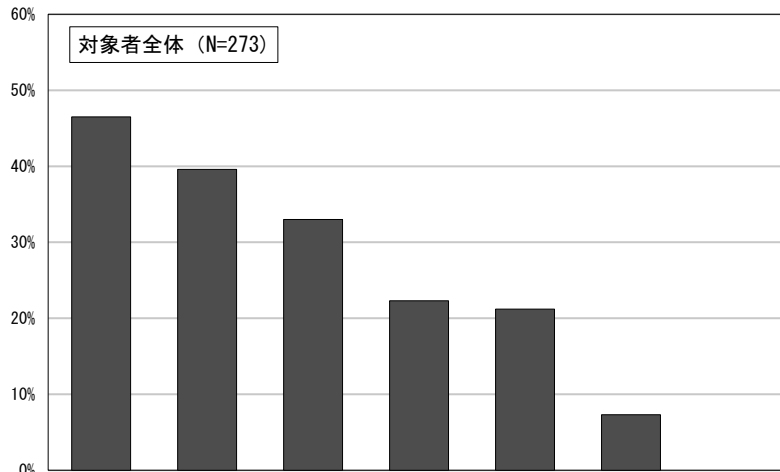
**【年代別】** 「知っていて、利用している」が40歳代（15.8%）で最も高く、次いで50歳代（14.4%）、30歳代（12.5%）となっている。

## ◇さっぽろえきバスナビの利用場面

《問2で「1 知っていて、利用している」と答えた方にお聞きします。》

**問2-1** あなたは、どのような場面でさっぽろえきバスナビを利用していますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

さっぽろえきバスナビの利用場面は「買い物」と回答した人が46.5%



		対象者数	買い物	レジャー・外食	通勤・通学	仕事上の外出	通院	その他	無回答
		(%)							
対象者全体		273	46.5	39.6	33.0	22.3	21.2	7.3	-
性別	男性	82	35.4	39.0	34.1	30.5	14.6	3.7	-
	女性	188	51.6	39.9	32.4	19.1	23.4	9.0	-
	その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	20	60.0	40.0	55.0	15.0	10.0	5.0	-
	30～39歳	40	40.0	37.5	42.5	25.0	15.0	5.0	-
	40～49歳	72	34.7	43.1	43.1	23.6	19.4	8.3	-
	50～59歳	64	43.8	35.9	25.0	31.3	14.1	14.1	-
	60～69歳	46	56.5	43.5	26.1	17.4	23.9	4.3	-
	70歳以上	16	66.7	37.0	7.4	11.1	48.1	-	-

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 さっぽろえきバスナビの利用場面は、「買い物」が46.5%、「レジャー・外食」が39.6%、「通勤・通学」が33.0%となっている。

【性別】 「買い物」、「通院」は女性が男性より8.0ポイント以上高くなっている。また、「仕事上の外出」は男性が30.5%と、女性の19.1%より11.4ポイント高くなっている。

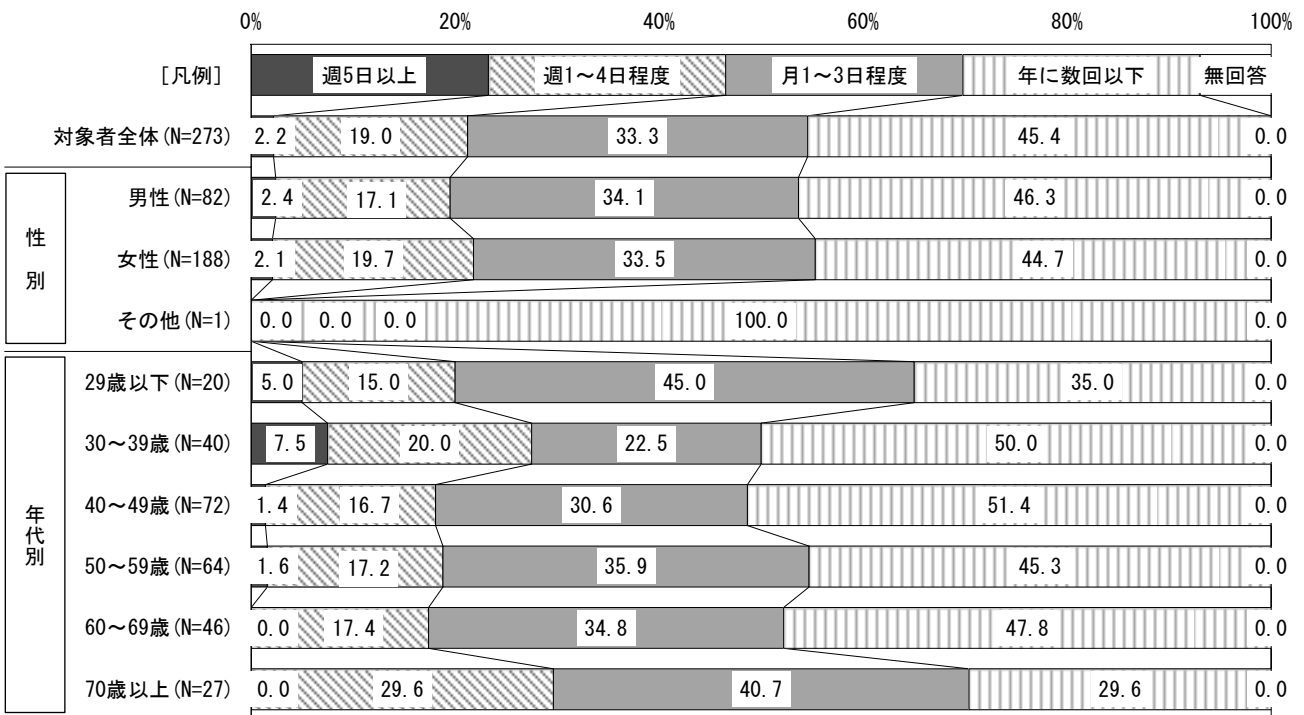
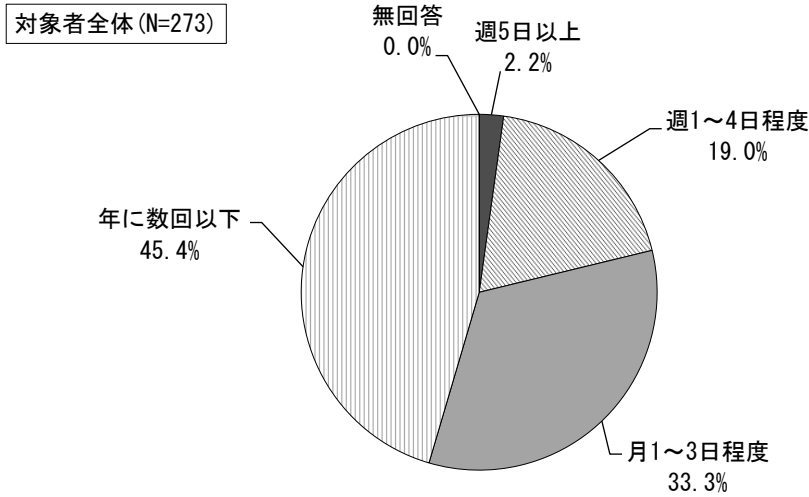
【年代別】 29歳以下と50歳以上では「買い物」が、30歳代では「通勤・通学」が、40歳代では「レジャー・外食」、「通勤・通学」が最も高くなっている。

◇さっぽろえきバスナビの利用頻度

《問2で「1 知っていて、利用している」と答えた方にお聞きします。》

**問2-2** あなたは、さっぽろえきバスナビをどのくらいの頻度で利用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さっぽろえきバスナビの利用頻度は「年に数回以下」と回答した人が45.4%



【全体】 さっぽろえきバスナビの利用頻度は、「週5日以上」が2.2%、「週1~4日程度」が19.0%、「月1~3日程度」が33.3%、「年に数回以下」が45.4%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

【年代別】 29歳以下と70歳以上では「月1~3日程度」が、30歳代~60歳代では「年に数回以下」が最も高くなっている。

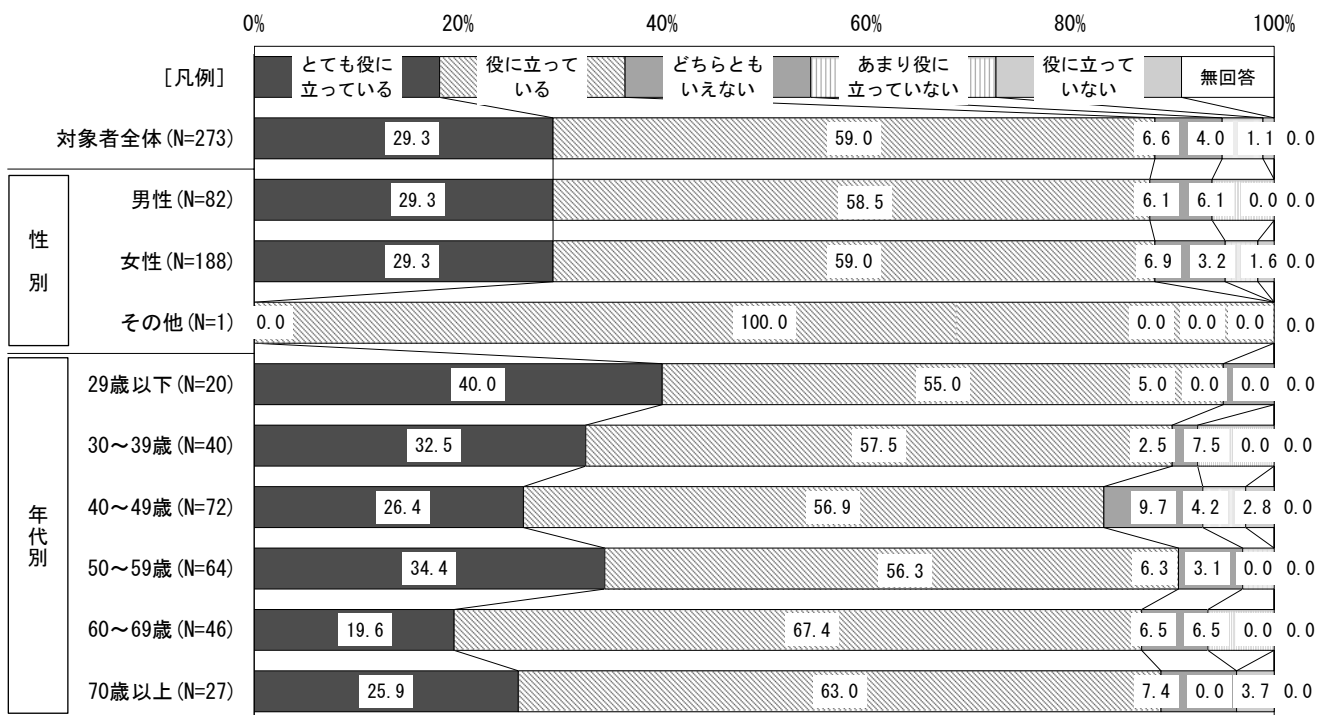
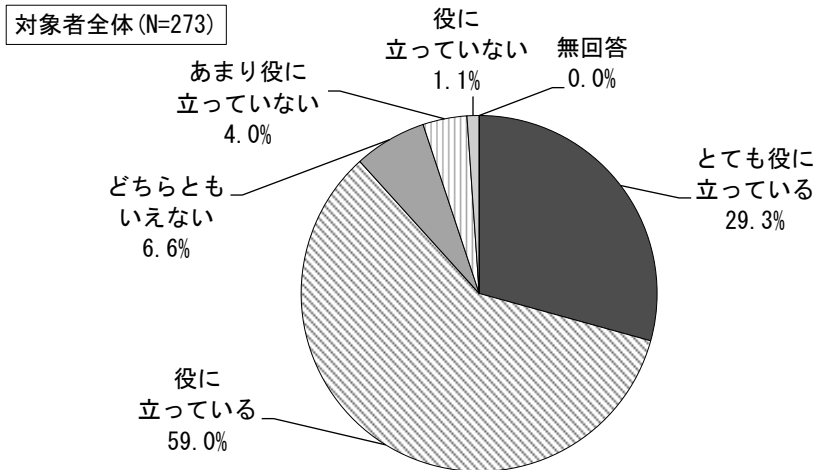
## ◇さっぽろえきバスナビが役に立つか否か

《問2で「1 知っていて、利用している」と答えた方にお聞きします。》

**問2-3** あなたが札幌市内を移動するにあたって、さっぽろえきバスナビは役に立っていると思いますか。  
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さっぽろえきバスナビが“役に立っている”人は88.3%

※ “役に立っている”（「とても役に立っている」＋「役に立っている」）



【全体】 さっぽろえきバスナビが役に立つか否かは、「とても役に立っている」が29.3%、「役に立っている」が59.0%、合わせると88.3%となっている。一方、「あまり役に立っていない」が4.0%、「役に立っていない」が1.1%、合わせると5.1%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

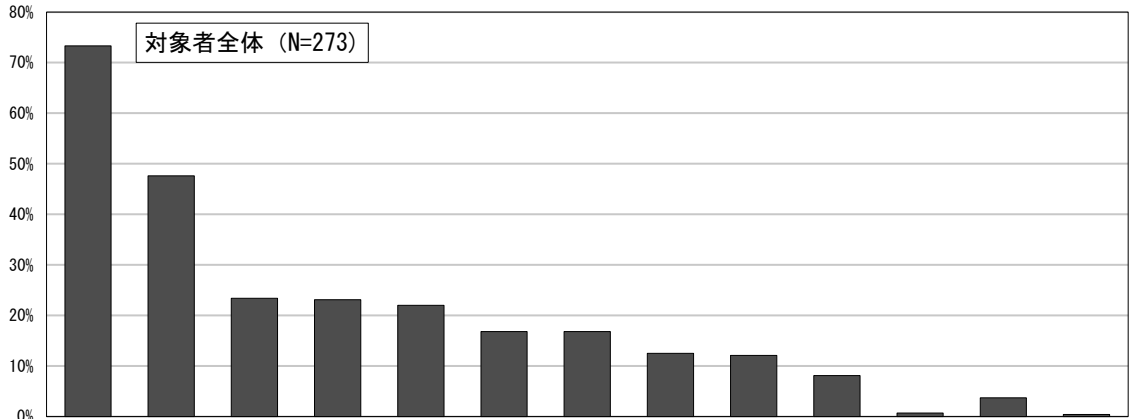
【年代別】 “役に立っている”が29歳以下（95.0%）で最も高く、次いで50歳代（90.6%）、30歳代（90.0%）となっている。

## ◇さっぽろえきバスナビの便利な機能

《問2で「1 知っていて、利用している」と答えた方にお聞きします。》

**問2-4** あなたが、さっぽろえきバスナビでよく利用する、または便利と感じる機能は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

さっぽろえきバスナビの便利な機能は「発着地を自分で入力して乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能」と回答した人が73.3%



対象者数 (%)		発着地を自分で入力して乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能	特定の停留所や駅の時刻表を検索する機能	バスの現在位置や到着予測時間を検索する機能	発着地を地図から選択し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能	発着地を路線図から選択し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能	施設や住所を発着地に設定し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能	停留所の位置を地図上に表示する機能	よく利用する検索内容をお気に入りに登録する機能	GPS機能を活用して近隣の駅や停留所を発着地に近接した乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能	地下鉄運休情報を配信する機能	その他	特にない	無回答	
対象者全体		273	73.3	47.6	23.4	23.1	22.0	16.8	16.8	12.5	12.1	8.1	0.7	3.7	0.4
性別	男性	82	74.4	35.4	22.0	26.8	23.2	14.6	7.3	13.4	11.0	7.3	-	3.7	-
	女性	188	72.9	52.7	24.5	21.8	21.8	18.1	21.3	12.2	12.8	8.0	1.1	3.2	0.5
	その他	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
年代別	29歳以下	20	85.0	30.0	25.0	20.0	10.0	10.0	15.0	10.0	10.0	15.0	-	-	-
	30～39歳	40	80.0	47.5	20.0	27.5	12.5	15.0	17.5	12.5	12.5	7.5	-	5.0	-
	40～49歳	72	75.0	43.1	19.4	20.8	26.4	19.4	15.3	11.1	6.9	5.6	-	2.8	-
	50～59歳	64	78.1	57.8	31.3	31.3	31.3	17.2	23.4	12.5	20.3	7.8	1.6	1.6	-
	60～69歳	46	69.6	56.5	26.1	17.4	17.4	19.6	17.4	15.2	15.2	8.7	2.2	-	-
	70歳以上	27	44.4	37.0	18.5	18.5	22.2	14.8	7.4	7.4	-	7.4	-	14.8	3.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 さっぽろえきバスナビの便利な機能は、「発着地を自分で入力して乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能」が73.3%、「特定の停留所や駅の時刻表を検索する機能」が47.6%、「バスの現在位置や到着予測時間を検索する機能」が23.4%となっている。

【性別】 「特定の停留所や駅の時刻表を検索する機能」、「停留所の位置を地図上に表示する機能」は女性が男性より14.0ポイント以上高くなっている。また、「発着地を地図から選択し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能」は男性が26.8%と、女性の21.8%より5.0ポイント高くなっている。

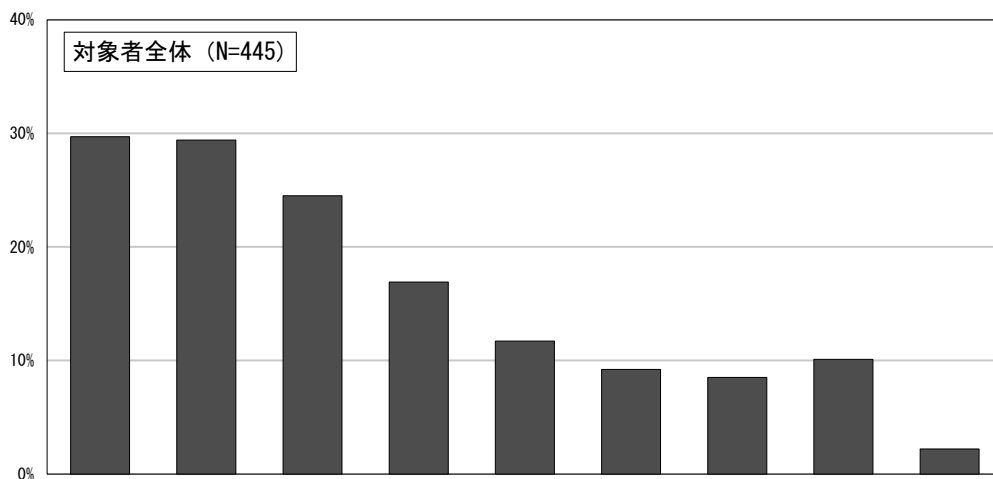
【年代別】 「発着地を自分で入力して乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能」が29歳以下(85.0%)で最も高く、最も低い70歳以上(44.4%)と比べると40.6ポイントの差となっている。

## ◇さっぽろえきバスナビを利用していない理由

《問2で「2 知っていたが、利用していない」と答えた方にお聞きします。》

**問2-5** あなたが、さっぽろえきバスナビを利用していない理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

さっぽろえきバスナビを利用しない理由は「他の検索アプリなどを利用しているため」と回答した人が29.7%



		対象者数 (%)	他の検索アプリなど	紙の時刻表	必要がないため	公共交通機関	利用方法がわからない	過去に利用したが、	インターネット	その他	無回答
対象者全体		445	29.7	29.4	24.5	16.9	11.7	9.2	8.5	10.1	2.2
性別	男性	166	25.9	21.7	27.1	22.9	11.4	4.8	7.8	9.6	3.0
	女性	277	32.1	33.9	22.7	13.4	11.9	11.9	9.0	10.1	1.8
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	27	63.0	11.1	11.1	22.2	3.7	11.1	-	3.7	-
	30～39歳	43	51.2	11.6	16.3	25.6	7.0	18.6	-	9.3	-
	40～49歳	67	40.3	14.9	19.4	23.9	7.5	11.9	3.0	14.9	-
	50～59歳	80	40.0	30.0	18.8	15.0	8.8	17.5	5.0	6.3	-
	60～69歳	101	20.8	35.6	29.7	17.8	11.9	5.0	6.9	10.9	-
	70歳以上	125	10.4	41.6	31.2	9.6	19.2	2.4	20.0	11.2	8.0

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 さっぽろえきバスナビを利用しない理由は、「他の検索アプリなどを利用しているため」が29.7%、「紙の時刻表を利用しているため」が29.4%、「経路や時刻などを覚えており、利用する必要がないため」が24.5%となっている。

【性別】 「他の検索アプリなどを利用しているため」、「紙の時刻表を利用しているため」、「過去に利用したが、利用しにくかったため」は女性が男性より6.0ポイント以上高くなっている。また、「公共交通機関を利用しないため」は男性が22.9%と、女性の13.4%より9.5ポイント高くなっている。

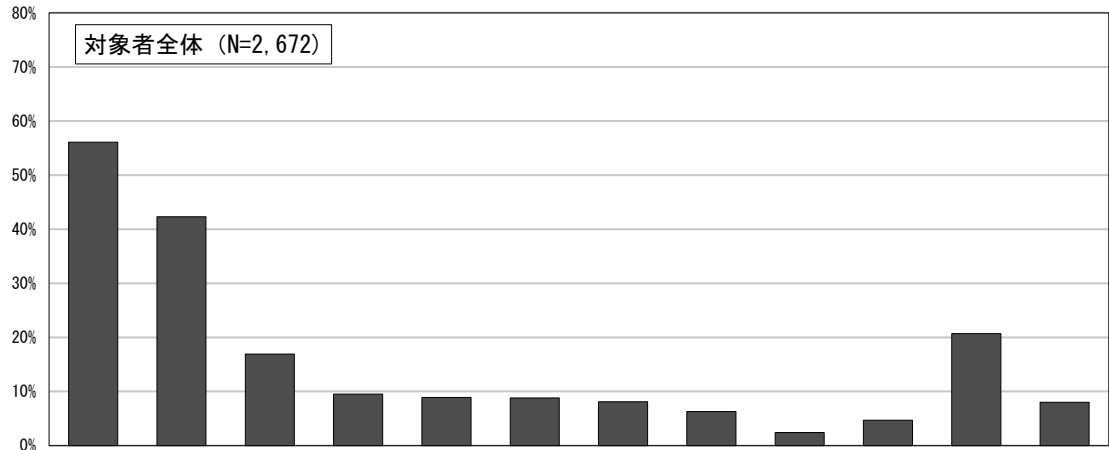
【年代別】 「他の検索アプリなどを利用しているため」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。また、「紙の時刻表を利用しているため」、「利用方法がわからないため」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。



◇さっぽろえきバスナビに必要な機能

問3 あなたが、今後さっぽろえきバスナビを利用する、または利用しようとする場合に、必要な機能等は何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

さっぽろえきバスナビに必要な機能は「より簡単に乗継経路や時刻・運賃などが検索できる操作性の向上」と回答した人が 56.1%



対象者数 (%)	対象者数	より簡単に乗継経路や時刻・運賃などが検索できる操作性の向上	現在位置から駅や停留所までの経路の表示など地図機能との連動強化	ダイヤ改正日の数日前から、新しいダイヤを検索できる機能の追加	よく利用する検索内容をお気に入りに登録する機能の追加（現在表示のみ提供）	発着地に設定できる施設の充実	市近郊まで拡大情報掲載範囲を札幌	大型ディスプレイなどによる公共交通機関の運行情報等の提供	タクシーや公共施設などの予約や決済ができる機能の追加	検索など最新の情報を活用した検索機能の追加	対話（チャット）型の検索機能	その他	現状どおりで良い（特にない）	無回答
		(%)												
対象者全体	2,672	56.1	42.3	16.9	9.5	8.9	8.8	8.1	6.3	2.4	4.7	20.7	8.0	
性別														
男性	1,051	54.7	42.8	13.3	9.5	9.4	9.5	8.8	7.1	3.2	5.3	23.5	6.7	
女性	1,604	57.0	42.0	19.1	9.6	8.5	8.3	7.6	5.8	1.8	4.4	18.8	8.8	
その他	4	75.0	25.0	75.0	-	-	-	25.0	-	25.0	-	25.0	-	
年代別														
29歳以下	220	69.1	52.7	26.4	18.6	8.6	11.4	11.8	4.5	3.6	2.3	10.5	3.2	
30～39歳	319	63.3	52.7	20.4	13.5	11.9	5.3	6.3	9.1	2.8	4.4	16.9	3.8	
40～49歳	456	64.3	50.9	18.4	12.1	8.1	10.1	6.8	4.8	2.2	4.6	15.8	4.6	
50～59歳	444	64.6	49.3	18.9	8.1	7.0	11.5	5.9	7.0	2.3	4.5	15.1	3.8	
60～69歳	526	55.5	37.5	16.0	8.4	7.8	8.9	10.3	4.6	1.3	5.1	24.1	6.5	
70歳以上	691	38.4	28.1	10.7	4.9	10.1	6.9	8.5	7.5	2.9	5.6	29.4	17.5	

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 さっぽろえきバスナビを利用する場合に必要な機能は、「より簡単に乗継経路や時刻・運賃などが検索できる操作性の向上」が 56.1%、「現在位置から駅や停留所までの経路の表示など地図機能との連動強化」が 42.3%、「ダイヤ改正日の数日前から、新しいダイヤを検索できる機能の追加」が 16.9%となっている。

【性別】 「ダイヤ改正日の数日前から、新しいダイヤを検索できる機能の追加」が女性で 19.1%と、男性の 13.3%より 5.8ポイント高くなっている。

【年代別】 「より簡単に乗継経路や時刻・運賃などが検索できる操作性の向上」は 29歳以下が 69.1%だが、70歳以上では 38.4%となっている。

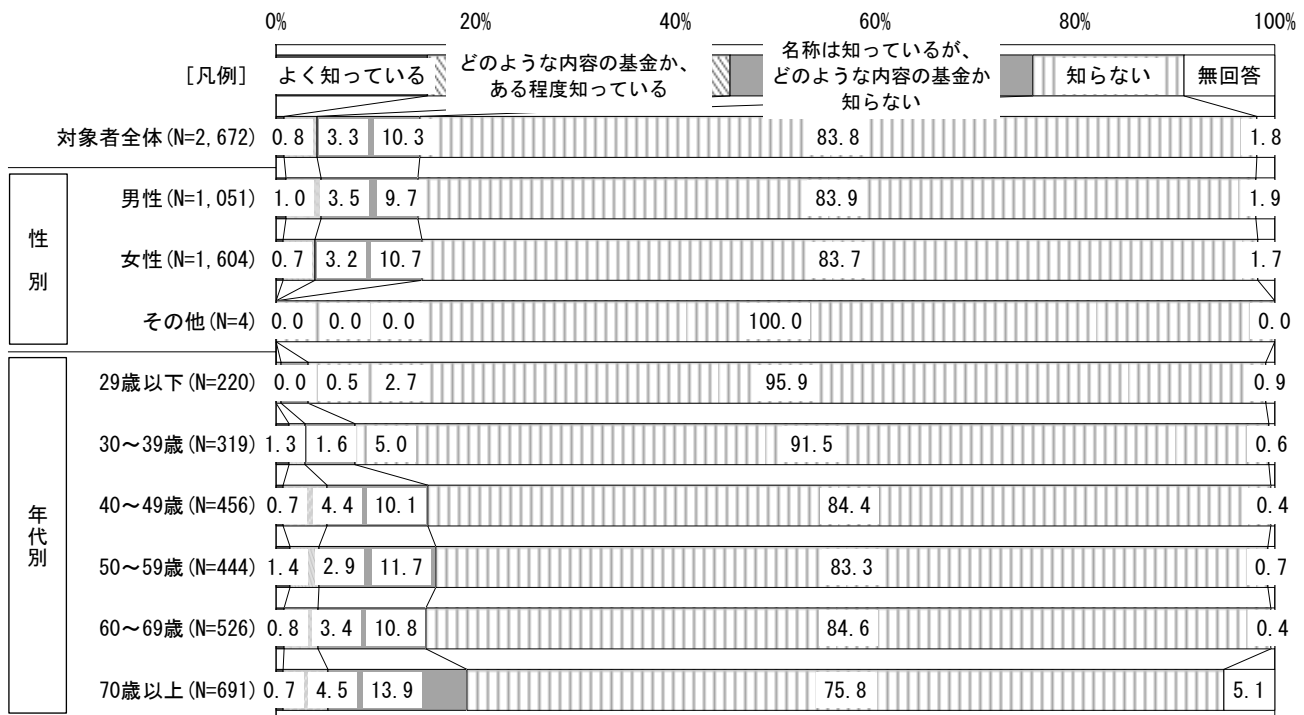
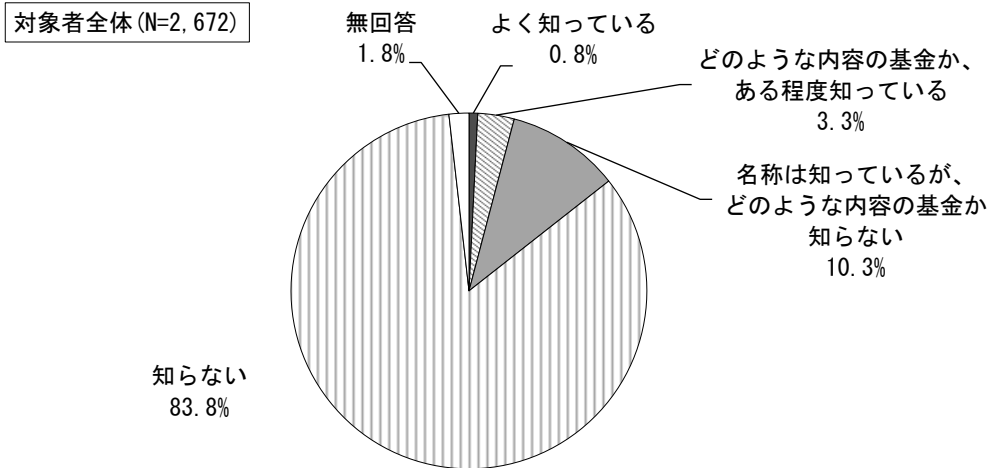
## (2) さぼーとほっと基金について

### ◇さぼーとほっと基金の認知度

問4 あなたは、さぼーとほっと基金を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○を付けてください。

#### さぼーとほっと基金を“知っている”人は14.4%

※ “知っている”（「よく知っている」+「どのような内容の基金か、ある程度知っている」+「名称は知っているが、どのような内容の基金か知らない」）



【全体】 さぼーとほっと基金について、「よく知っている」が0.8%、「どのような内容の基金か、ある程度知っている」が3.3%、「名称は知っているが、どのような内容の基金か知らない」が10.3%、合わせると14.4%となっている。一方、「知らない」が83.8%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

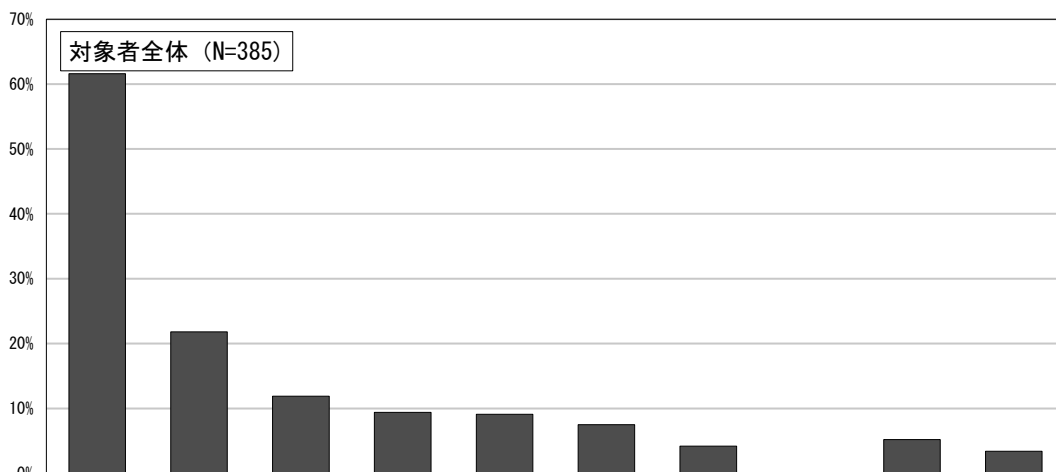
【年代別】 “知っている”が70歳以上(19.1%)で最も高く、次いで50歳代(16.0%)、40歳代(15.2%)となっている。

## ◇さぼーとほっと基金の認知方法

《問4で「1よく知っている」、「2どのような内容の基金か、ある程度知っている」、「3名称は知っているが、どのような内容の基金か知らない」と答えた方にお聞きします。》

**問4-1** あなたが、さぼーとほっと基金を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

さぼーとほっと基金の認知方法は「札幌市が発行している冊子やパンフレット」と回答した人が61.6%



対象者数 (%)		冊子やパンフレット	テレビ・ラジオ・新聞	札幌市公式ホームページ	活動を通しての企業に寄付している	イベントや展示など	家族や知人からの口コミ	市民まちづくり活動を行っている団体から紹介された	その他の窓口などで紹介された	その他	無回答	
対象者全体		385	61.6	21.8	11.9	9.4	9.1	7.5	4.2	-	5.2	3.4
性別	男性	149	62.4	26.8	20.8	8.1	5.4	4.7	6.7	-	4.0	3.4
	女性	234	61.1	18.8	6.4	10.3	11.5	9.4	2.6	-	6.0	3.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	7	57.1	28.6	28.6	-	-	-	14.3	-	14.3	-
	30～39歳	25	64.0	16.0	4.0	4.0	8.0	-	-	-	12.0	-
	40～49歳	69	65.2	8.7	11.6	13.0	10.1	10.1	2.9	-	5.8	2.9
	50～59歳	71	53.5	16.9	15.5	9.9	7.0	5.6	5.6	-	8.5	2.8
	60～69歳	79	57.0	20.3	8.9	10.1	10.1	8.9	2.5	-	3.8	5.1
	70歳以上	132	66.7	33.3	12.9	8.3	9.8	8.3	5.3	-	2.3	3.0

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 さぼーとほっと基金の認知方法は、「札幌市が発行している冊子やパンフレット」が61.6%、「テレビ・ラジオ・新聞」が21.8%、「札幌市公式ホームページ」が11.9%となっている。

【性別】 「テレビ・ラジオ・新聞」、「札幌市公式ホームページ」は男性が女性より8.0ポイント以上高くなっている。また、「イベントや展示など」は女性が11.5%と、男性の5.4%より6.1ポイント高くなっている。

【年代別】 「テレビ・ラジオ・新聞」が70歳以上(33.3%)で最も高く、最も低い40歳代(8.7%)と比べると24.6ポイントの差となっている。

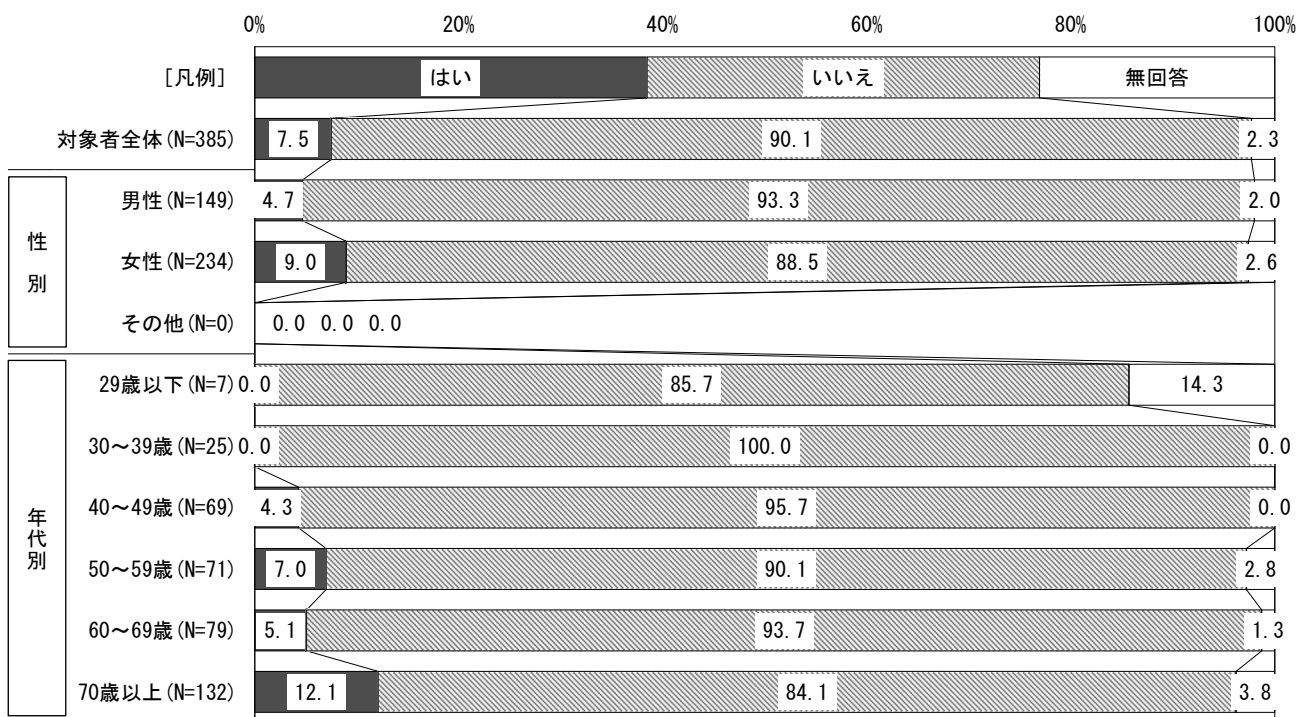
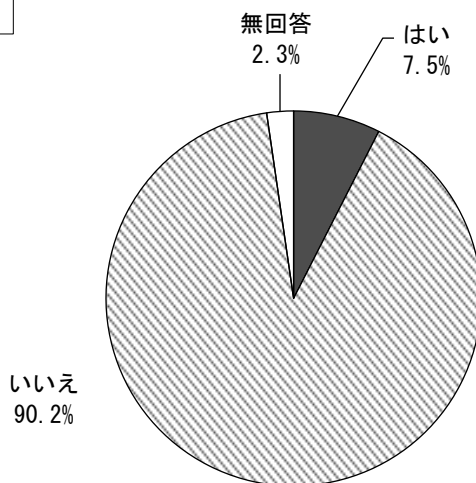
### ◇さぽーとほっと基金への寄付の有無

《問4で「1 よく知っている」、「2 どのような内容の基金か、ある程度知っている」、「3 名称は知っているが、どのような内容の基金か知らない」と答えた方にお聞きします。》

**問4-2** あなたは、さぽーとほっと基金に寄付をしたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さぽーとほっと基金に寄付したことがある人は7.5%

対象者全体 (N=385)



【全体】さぽーとほっと基金の寄付の有無について、「はい」が7.5%となっている。一方、「いいえ」が90.1%となっている。

【性別】大きな差は見られない。

【年代別】「はい」が70歳以上（12.1%）で最も高く、次いで50歳代（7.0%）、60歳代（5.1%）となっている。

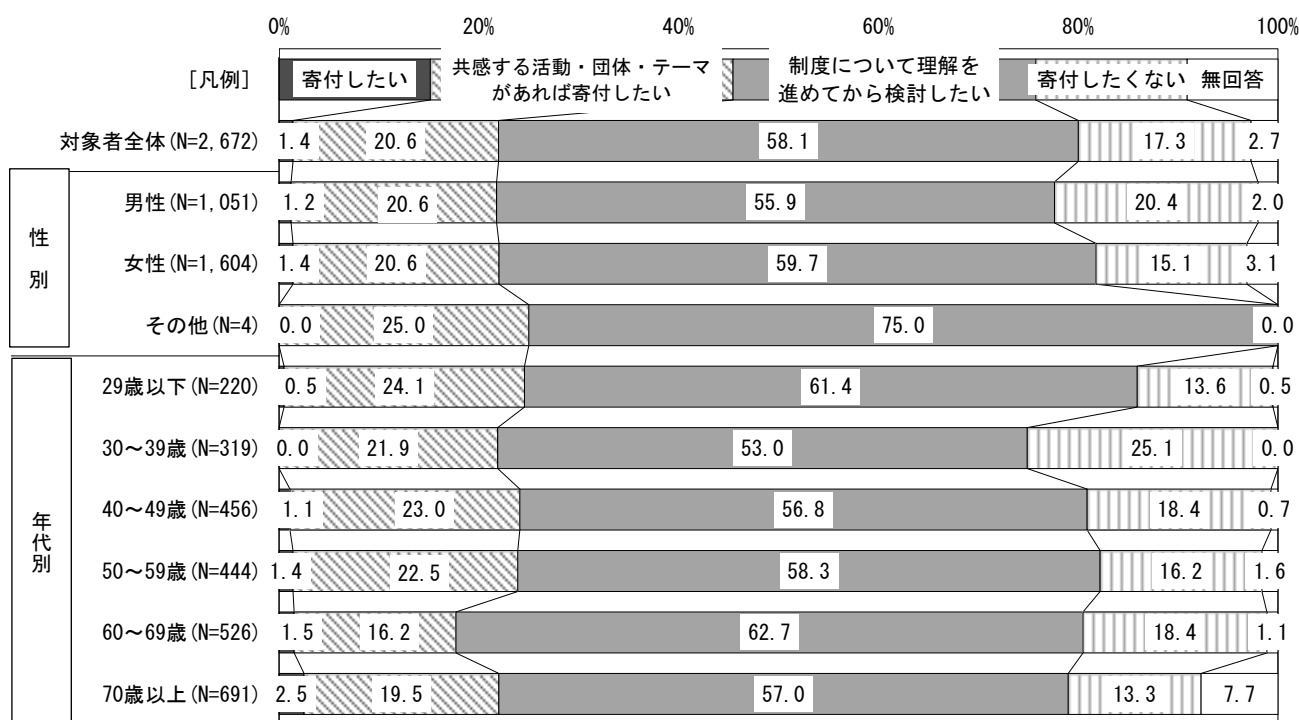
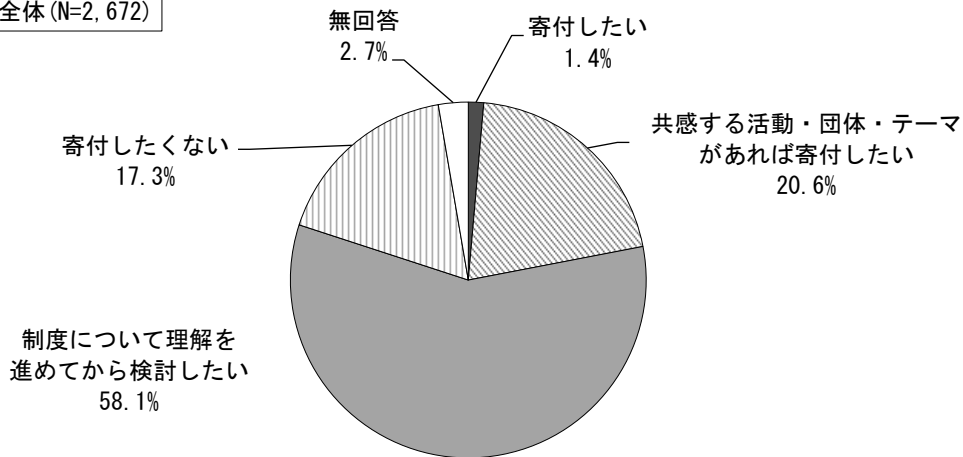
◇さぼーとほっと基金に寄付をしたいか否か

問5 あなたは、今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

今後さぼーとほっと基金に“寄付したい”人は22.0%

※ “寄付したい”（「寄付したい」＋「共感する活動・団体・テーマがあれば寄付したい」）

対象者全体(N=2,672)



【全体】 今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいか否かについては、「寄付したい」が1.4%、「共感する活動・団体・テーマがあれば寄付したい」が20.6%、合わせると22.0%となっている。一方、「制度について理解を進めてから検討したい」が58.1%、「寄付したくない」が17.3%となっている。

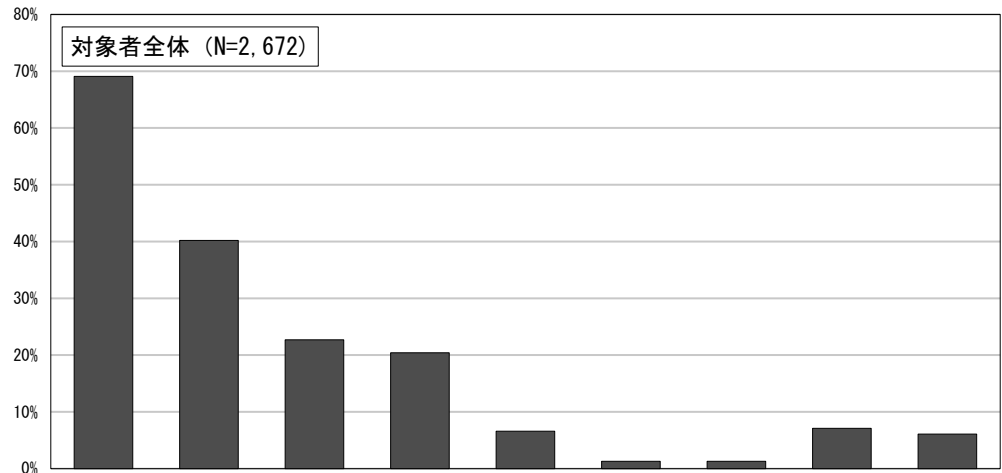
【性別】 「寄付したくない」が男性で20.4%と、女性の15.1%より5.3ポイント高くなっている。

【年代別】 “寄付したい”が29歳以下(24.5%)で最も高く、次いで40歳代(24.1%)、50歳代(23.9%)となっている。

◇寄付をする際に重要だと思うこと

問6 あなたが、寄付をする際に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つまで○をつけてください。

寄付をする際に重要だと思うことは「使い道の透明性が担保されている」と回答した人が 69.1%

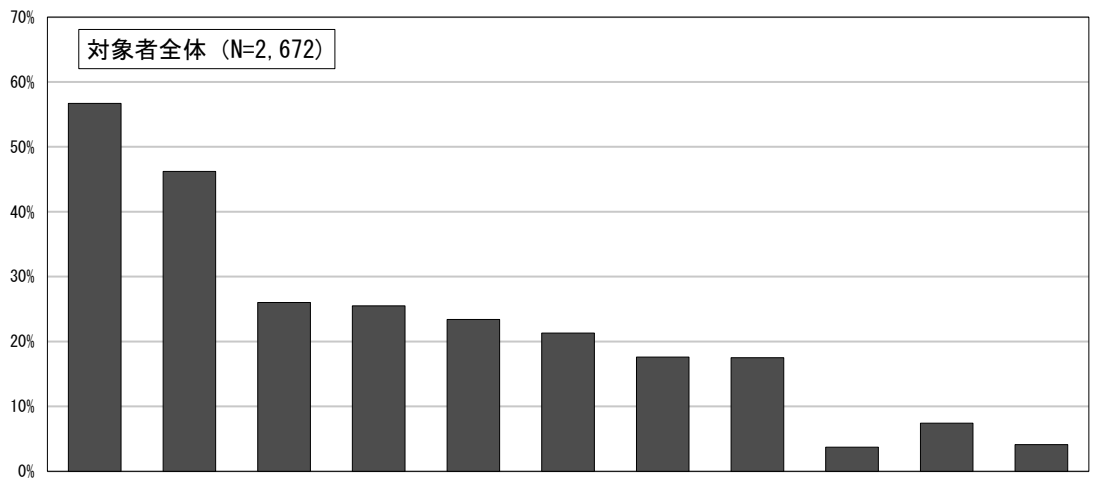


対象者数		(%)	使	活	情	活	親	状	そ	特	無
対象者数		(%)	さい	動	報	動	身	寄	の	に	回
対象者数		(%)	道	内	信	成	近	付	他	ない	答
対象者数		(%)	の	容	・	果	に	す			
対象者数		(%)	透	に	報	が	活	る			
対象者数		(%)	明	共	告	具	動	感			
対象者数		(%)	性	感	が	体	し	謝			
対象者数		(%)	が	で	し	的	て	あ			
対象者数		(%)	担	き	っ		い	あ			
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								
対象者数		(%)	性								
対象者数		(%)	が								
対象者数		(%)	担								
対象者数		(%)	保								
対象者数		(%)	さ								
対象者数		(%)	れ								
対象者数		(%)	て								
対象者数		(%)	い								
対象者数		(%)	る								
対象者数		(%)	透								
対象者数		(%)	明								

◇寄付をする先として興味・関心の高いまちづくり活動の分野・テーマ

問7 あなたが、寄付をする先として興味・関心の高いまちづくり活動の分野・テーマを教えてください。  
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

寄付をする先として興味・関心の高いまちづくり活動の分野・テーマは「保健、医療、福祉の増進を図る活動」と回答した人が 56.7%



		対象者数	保健、医療、福祉の増進を図る活動 (%)	子どもの健全育成を図る活動 (%)	新型コロナウイルス感染症対策市民活動 (%)	文化・経済等の振興を促す活動 (%)	まちづくりの推進を図る活動 (%)	北海道胆振東部地震被災者支援 (%)	東日本大震災被災者支援 (%)	その他の災害被災者支援 (%)	その他 (%)	興味のある活動はない (%)	無回答 (%)
対象者全体		2,672	56.7	46.2	26.0	25.5	23.4	21.3	17.6	17.5	3.7	7.4	4.1
性別	男性	1,051	52.6	45.4	22.5	31.0	27.3	16.7	13.9	15.4	3.2	9.3	3.1
	女性	1,604	59.5	46.9	28.3	22.1	20.9	24.4	20.0	18.8	3.9	6.0	4.7
	その他	4	25.0	-	25.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-
年代別	29歳以下	220	51.8	49.5	35.9	30.0	23.6	30.9	29.5	18.2	6.4	5.5	1.4
	30~39歳	319	53.3	59.9	26.3	27.9	26.3	24.1	20.4	15.0	5.0	5.3	1.9
	40~49歳	456	53.3	54.2	25.0	29.4	25.0	22.8	16.9	14.7	3.3	8.6	0.2
	50~59歳	444	58.1	38.5	25.2	24.3	23.6	21.4	17.6	20.7	4.1	8.6	2.7
	60~69歳	526	60.1	40.7	23.8	26.0	20.5	20.0	16.2	19.6	2.7	9.5	3.4
	70歳以上	691	59.0	42.8	25.3	21.0	22.9	17.2	14.0	16.8	2.9	5.6	9.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】寄付をする先として興味・関心の高いまちづくり活動の分野・テーマは、「保健、医療、福祉の増進を図る活動」が 56.7%、「子どもの健全育成を図る活動」が 46.2%、「新型コロナウイルス感染症対策市民活動」が 26.0%となっている。

【性別】「保健、医療、福祉の増進を図る活動」、「新型コロナウイルス感染症対策市民活動」、「北海道胆振東部地震被災者支援」、「東日本大震災被災者支援」は女性が男性より 5.0 ポイント以上高くなっている。また、「文化・スポーツ・観光・経済等の振興を促す活動」、「まちづくりの推進を図る活動」は男性が女性より 6.0 ポイント以上高くなっている。

【年代別】29歳以下と50歳以上では「保健、医療、福祉の増進を図る活動」が、30歳代と40歳代では「子どもの健全育成を図る活動」が最も高くなっている。

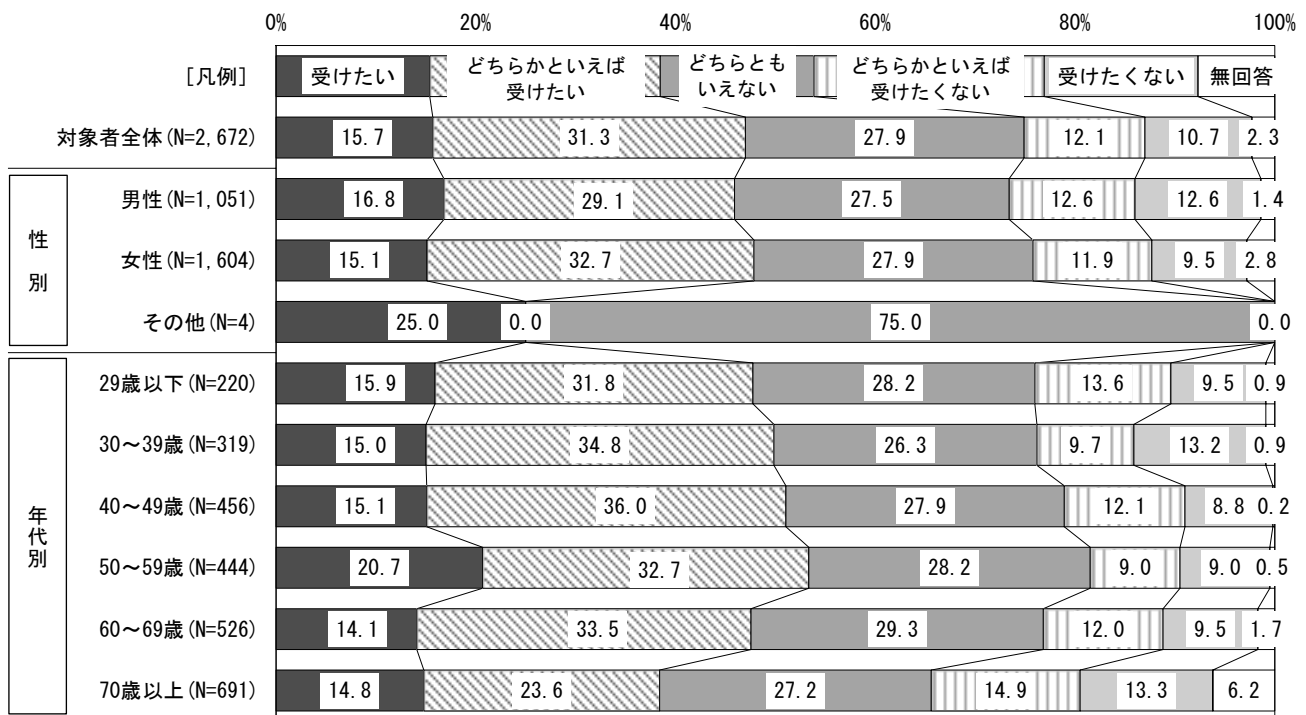
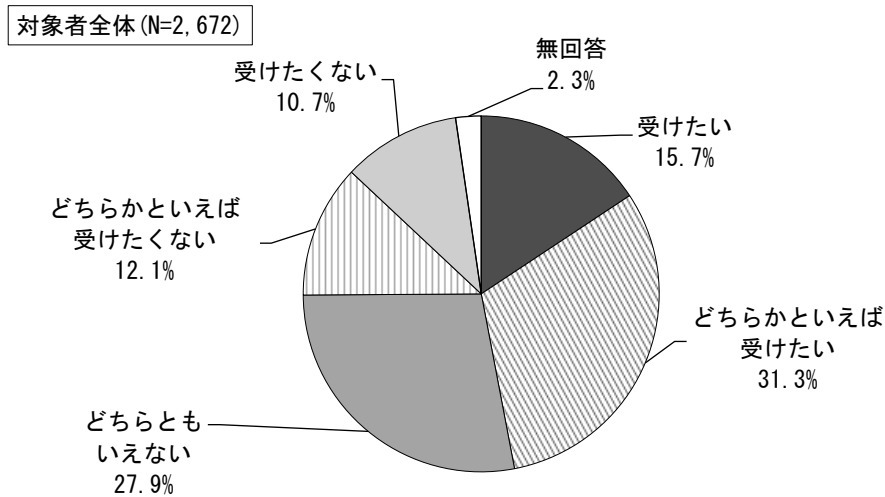
### (3) 応急手当について

◇ 応急手当講習を受けたいか否か

問8 あなたは今後、応急手当講習を受けたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

応急手当講習を“受けたい”人は47.0%

※ “受けたい”（「受けたい」＋「どちらかといえば受けたい」）



【全体】 応急手当講習を受けたいか否かは、「受けたい」が15.7%、「どちらかといえば受けたい」が31.3%、合わせると47.0%となっている。一方、「どちらかといえば受けたくない」が12.1%、「受けたくない」が10.7%、合わせると22.8%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

【年代別】 69歳以下では「どちらかといえば受けたい」が、70歳以上では「どちらともいえない」が最も高くなっている。

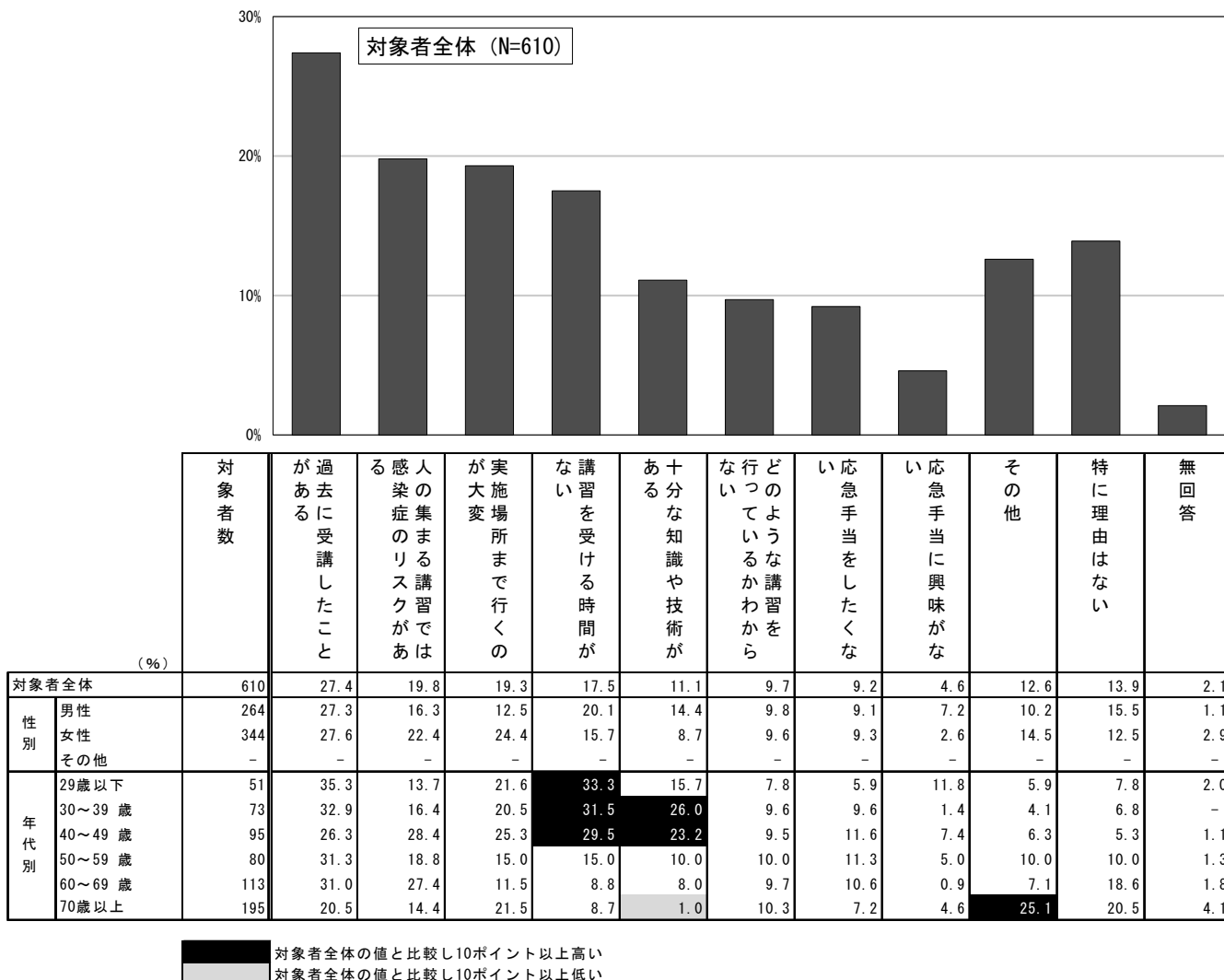


## ◇応急手当講習を受けたくない理由

《問8で「4 どちらかといえば受けたくない」または「5 受けたくない」と答えた方にお聞きします。》

**問8-1** あなたが、受けたくない理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

応急手当講習を受けたくない理由は「過去に受講したことがある」と回答した人が27.4%



【全体】 応急手当講習を受けたくない理由は、「過去に受講したことがある」が27.4%、「人の集まる講習では感染症のリスクがある」が19.8%、「実施場所まで行くのが大変」が19.3%となっている。

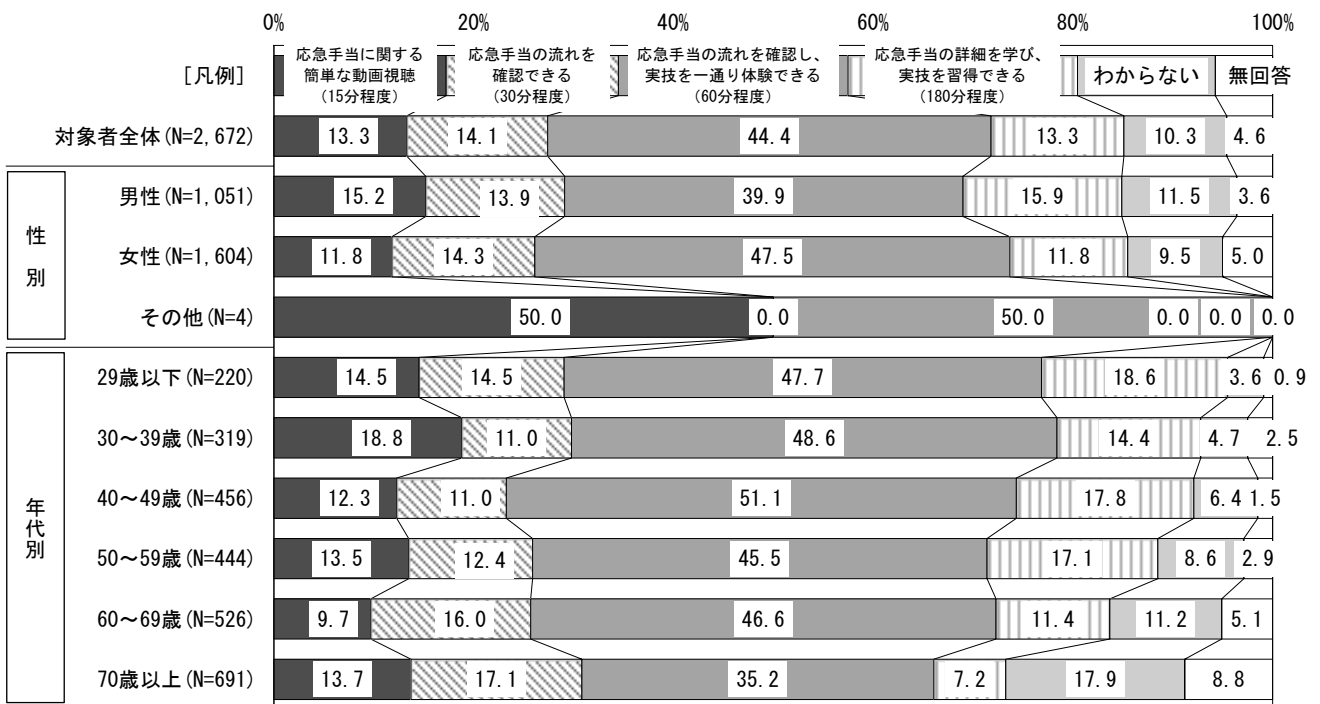
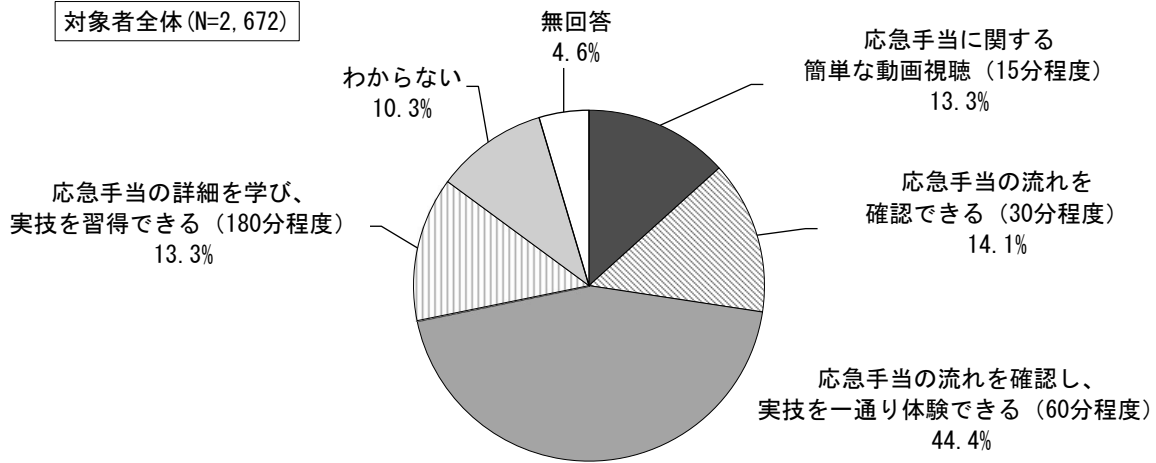
【性別】 「人の集まる講習では感染症のリスクがある」、「実施場所まで行くのが大変」は女性が男性より6.0ポイント以上高くなっている。また、「十分な知識や技術がある」は男性が14.4%と、女性の8.7%より5.7ポイント高くなっている。

【年代別】 「過去に受講したことがある」が29歳以下(35.3%)で最も高く、次いで30歳代(32.9%)、50歳代(31.3%)となっている。

◇どのような応急手当講習が良いと思うか

問9 あなたは、どのような講習内容が良いと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

応急手当講習の内容は「応急手当の流れを確認し、実技を一通り体験できる（60分程度）」が良いと回答した人が44.4%



【全体】 どのような応急手当講習が良いと思うかは、「応急手当に関する簡単な動画視聴（15分程度）」が13.3%、「応急手当の流れを確認できる（30分程度）」が14.1%、「応急手当の流れを確認し、実技を一通り体験できる（60分程度）」が44.4%、「応急手当の詳細を学び、実技を習得できる（180分程度）」が13.3%となっている。

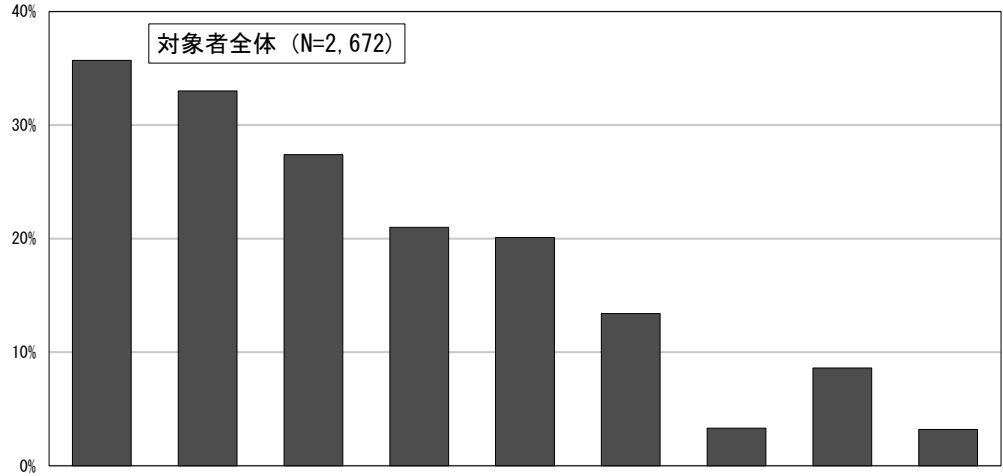
【性別】 「応急手当の流れを確認し、実技を一通り体験できる（60分程度）」が女性で47.5%と、男性の39.9%より7.6ポイント高くなっている。

【年代別】 「応急手当の流れを確認し、実技を一通り体験できる（60分程度）」が40歳代（51.1%）で最も高く、最も低い70歳以上（35.2%）と比べると15.9ポイントの差となっている。

◇応急手当講習の受講しやすい開催方法

問10 応急手当に関する講習について、あなたが受講しやすいと思う開催方法は何か。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

応急手当講習の受講しやすい開催方法は「町内会等への講師派遣型の講習」と回答した人が35.7%



対象者数 (%)		町内会等への講師派遣型の講習	動画共有サービス (YouTube等) で応急手当動画を視聴する講習	市民防災センターで開催する講習	ショッピングセンター等のイベントでの講習	スマートフォン等で応急手当のアプリケーションをダウンロードして実施する講習	WEB会議システムにより、オンラインで講師が指導する講習	その他	特にない	無回答	
対象者全体		2,672	35.7	33.0	27.4	21.0	20.1	13.4	3.3	8.6	3.2
性別	男性	1,051	35.2	32.6	29.7	18.2	20.1	14.1	2.8	10.8	2.5
	女性	1,604	36.2	33.0	25.9	22.9	20.2	12.8	3.7	7.0	3.6
	その他	4	25.0	100.0	25.0	25.0	50.0	75.0	-	-	-
年代別	29歳以下	220	17.7	55.9	21.8	20.5	31.8	23.2	5.0	3.6	0.5
	30~39歳	319	19.7	49.8	23.5	22.3	30.7	19.7	3.8	4.7	1.9
	40~49歳	456	29.4	48.0	28.3	23.9	28.3	20.4	5.3	2.6	0.2
	50~59歳	444	30.9	39.0	34.5	25.0	21.4	19.1	4.5	7.0	0.7
	60~69歳	526	41.3	25.9	31.4	22.8	16.7	10.1	1.7	8.7	2.1
	70歳以上	691	51.8	10.0	22.4	15.1	8.1	1.9	1.9	16.6	8.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 応急手当講習の受講しやすい開催方法は、「町内会等への講師派遣型の講習」が35.7%、「動画共有サービス (YouTube等) で応急手当動画を視聴する講習」が33.0%、「市民防災センターで開催する講習」が27.4%となっている。

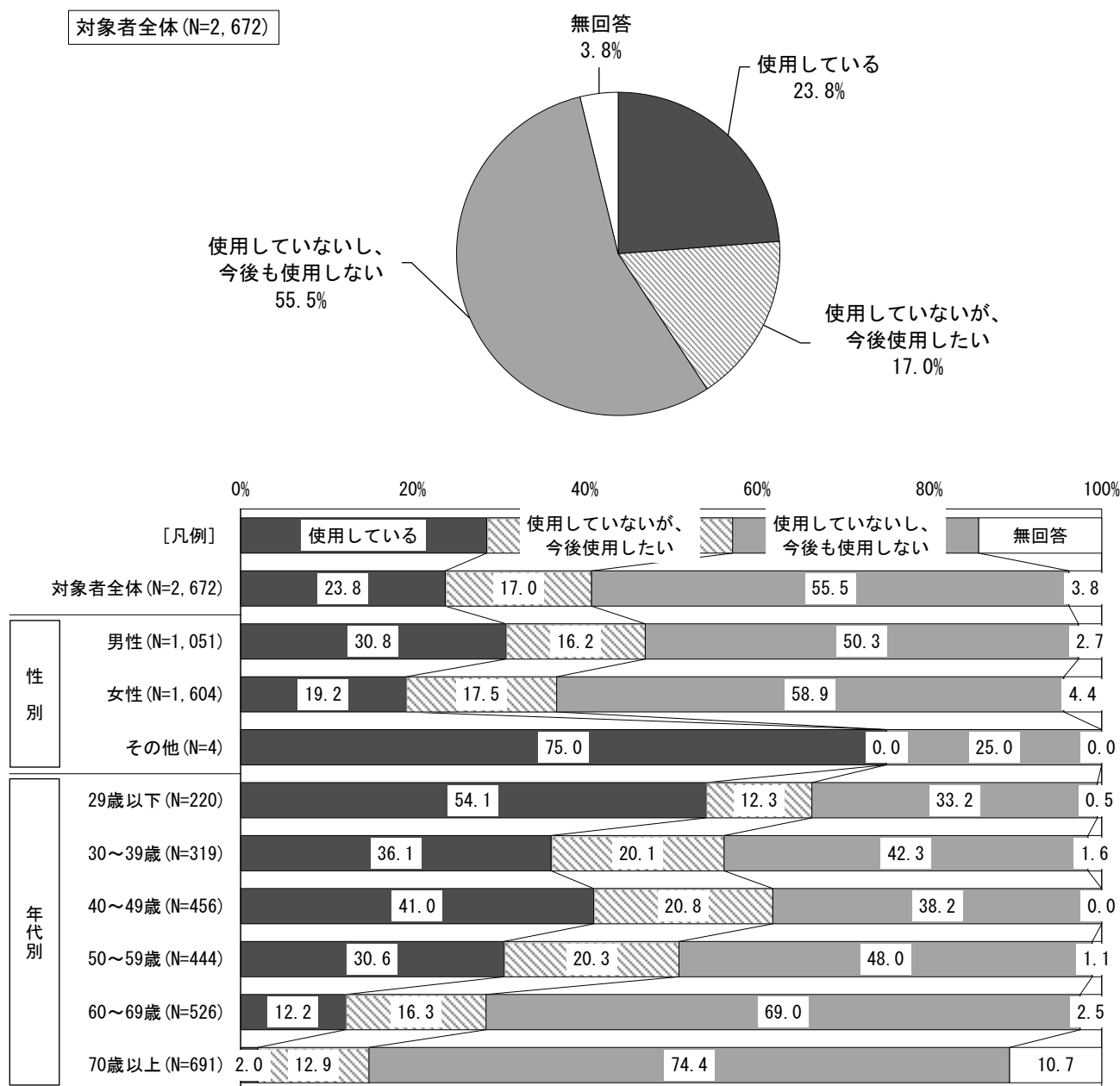
【性別】 大きな差は見られない。

【年代別】 「町内会等への講師派遣型の講習」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。また、「動画共有サービス (YouTube等) で応急手当動画を視聴する講習」、「スマートフォン等で応急手当のアプリケーションをダウンロードして実施する講習」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

## ◇WEB 会議システムの使用の有無

問 1 1 あなたは普段、WEB 会議システムを使用していますか。または使用したいと考えていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

WEB 会議システムを「使用している」人は 23.8%



【全 体】 WEB 会議システムを使用の有無は、「使用している」が 23.8%、「使用していないが、今後使用したい」が 17.0%となっている。一方、「使用していないし、今後使用しない」が 55.5%となっている。

【性 別】「使用している」が男性で 30.8%と、女性の 19.2%より 11.6 ポイント高くなっている。また、「使用していないし、今後使用しない」は女性が 58.9%と、男性の 50.3%より 8.6 ポイント高くなっている。

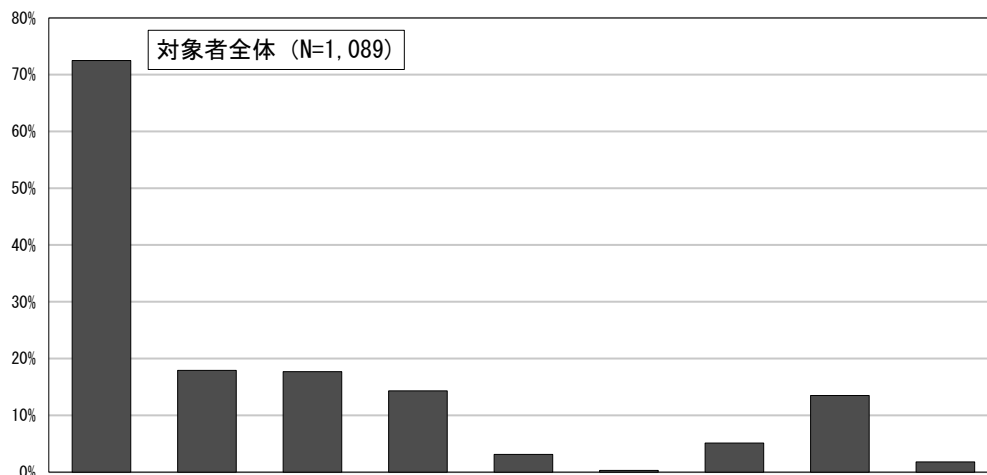
【年代別】 29 歳以下と 40 歳代では「使用している」が、30 歳代と 50 歳以上では「使用していないし、今後使用しない」が最も高くなっている。

## ◇使用している(今後使用したい)WEB 会議システムの種類

《問11で「1 使用している」または「2 使用していないが、今後使用したい」と答えた方にお聞きします。》

**問11-1** あなたは、どのようなWEB 会議システムを使用していますか。または使用したいと考えていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

使用している(今後使用したい)WEB 会議システムの種類は「Zoom (ズーム)」と回答した人が72.5%



		対象者数	Zoom (ズーム)	Microsoft Teams (マイクロソフト チームス)	skype (スカイプ)	Google Meet (グーグル ミート)	Remote Meeting (リモート ミーティング)	Colling (コーリング)	その他	わからない	無回答
		(%)									
対象者全体		1,089	72.5	17.9	17.7	14.3	3.1	0.3	5.1	13.5	1.8
性別	男性	494	69.0	25.7	19.4	16.4	3.0	0.2	6.7	12.6	1.8
	女性	588	75.3	11.6	16.5	12.4	3.2	0.3	3.7	14.5	1.9
	その他	3	100.0	-	-	33.3	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	146	93.2	18.5	13.0	21.9	-	-	8.2	1.4	-
	30~39歳	179	83.2	26.3	24.6	8.9	1.1	-	6.1	3.9	0.6
	40~49歳	282	82.6	18.8	16.3	19.1	1.4	0.7	6.4	7.8	0.4
	50~59歳	226	72.6	19.9	19.0	10.6	4.9	-	2.2	15.0	-
	60~69歳	150	53.3	11.3	18.7	10.7	6.7	-	4.0	26.0	3.3
	70歳以上	103	24.3	5.8	12.6	13.6	6.8	1.0	2.9	41.7	12.6

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】使用しているWEB 会議システムの種類は、「Zoom (ズーム)」が72.5%、「Microsoft Teams (マイクロソフト チームス)」が17.9%、「skype (スカイプ)」が17.7%となっている。

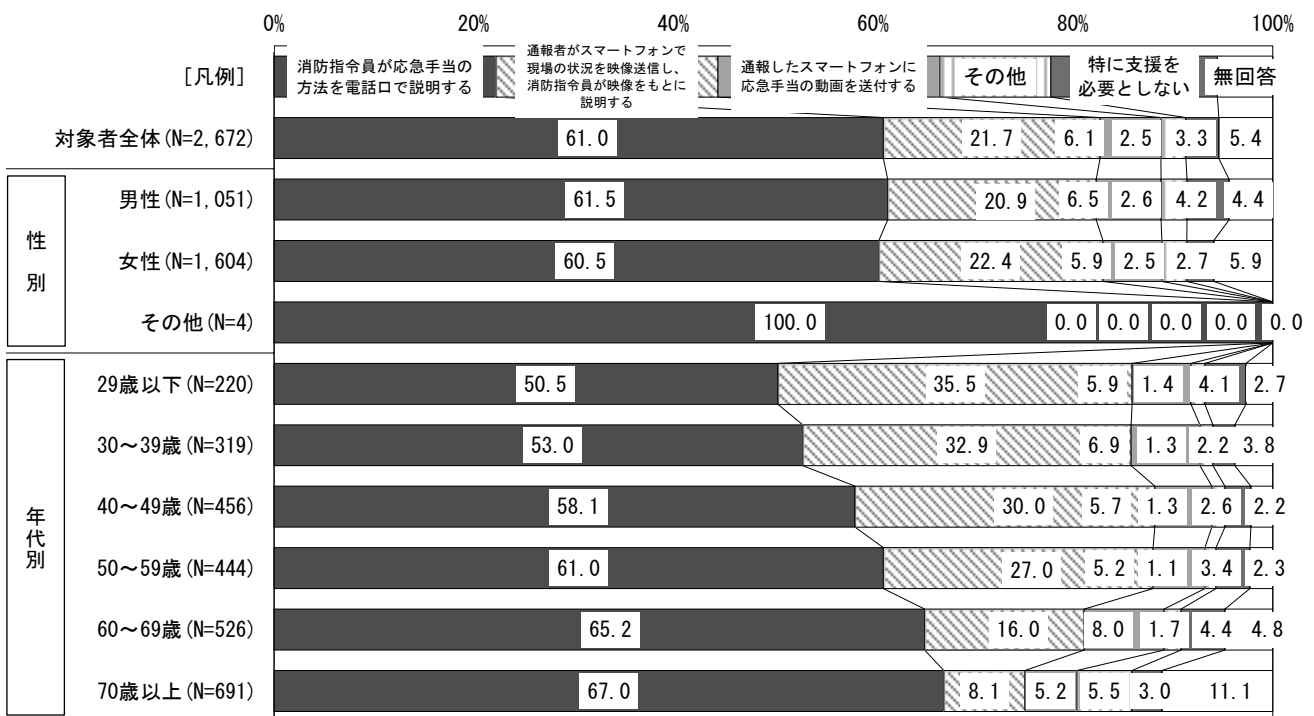
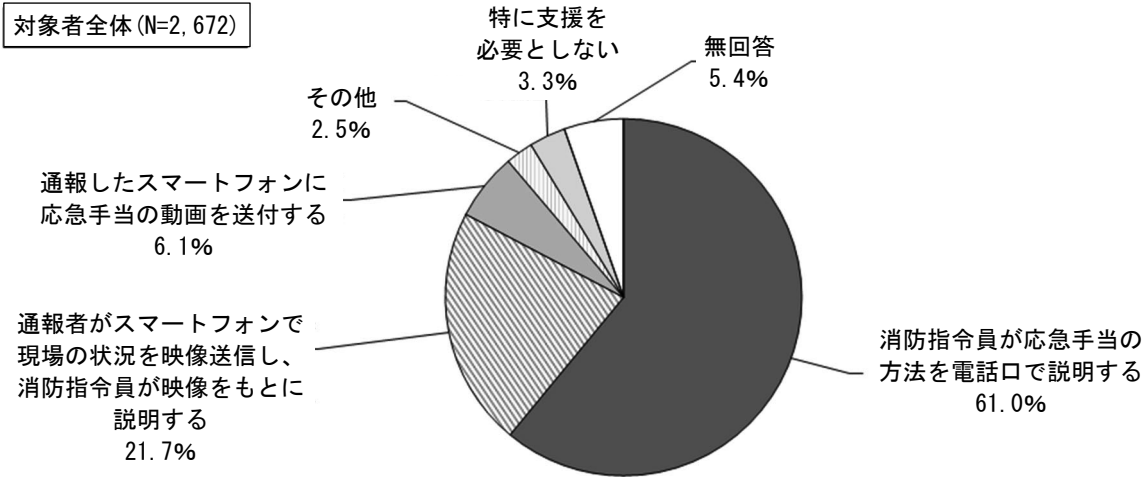
【性別】「Zoom (ズーム)」が女性で75.3%と、男性の69.0%より6.3ポイント高くなっている。また、「Microsoft Teams (マイクロソフト チームス)」は男性が25.7%と、女性の11.6%より14.1ポイント高くなっている。

【年代別】「Zoom (ズーム)」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇心臓や呼吸の止まった人のそばに居合わせて 119 番通報をしたときにほしい手助け(支援)

問 1 2 あなたは、心臓や呼吸の止まった人のそばに居合わせて 119 番通報をしたとき、どのような手助け(支援)がほしいですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

心臓や呼吸の止まった人のそばに居合わせて 119 番通報をしたときにほしい手助け(支援)は「消防指令員が応急手当の方法を電話口で説明する」と回答した人が 61.0%



【全体】心臓や呼吸の止まった人のそばに居合わせて 119 番通報をしたときにほしい手助け(支援)は、「消防指令員が応急手当の方法を電話口で説明する」が 61.0%、「通報者がスマートフォンで現場の状況を映像送信し、消防指令員が映像をもとに説明する」が 21.7%、「通報したスマートフォンに応急手当の動画を送付する」が 6.1%となっている。

【性別】大きな差は見られない。

【年代別】「消防指令員が応急手当の方法を電話口で説明する」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。また、「通報者がスマートフォンで現場の状況を映像送信し、消防指令員が映像をもとに説明する」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

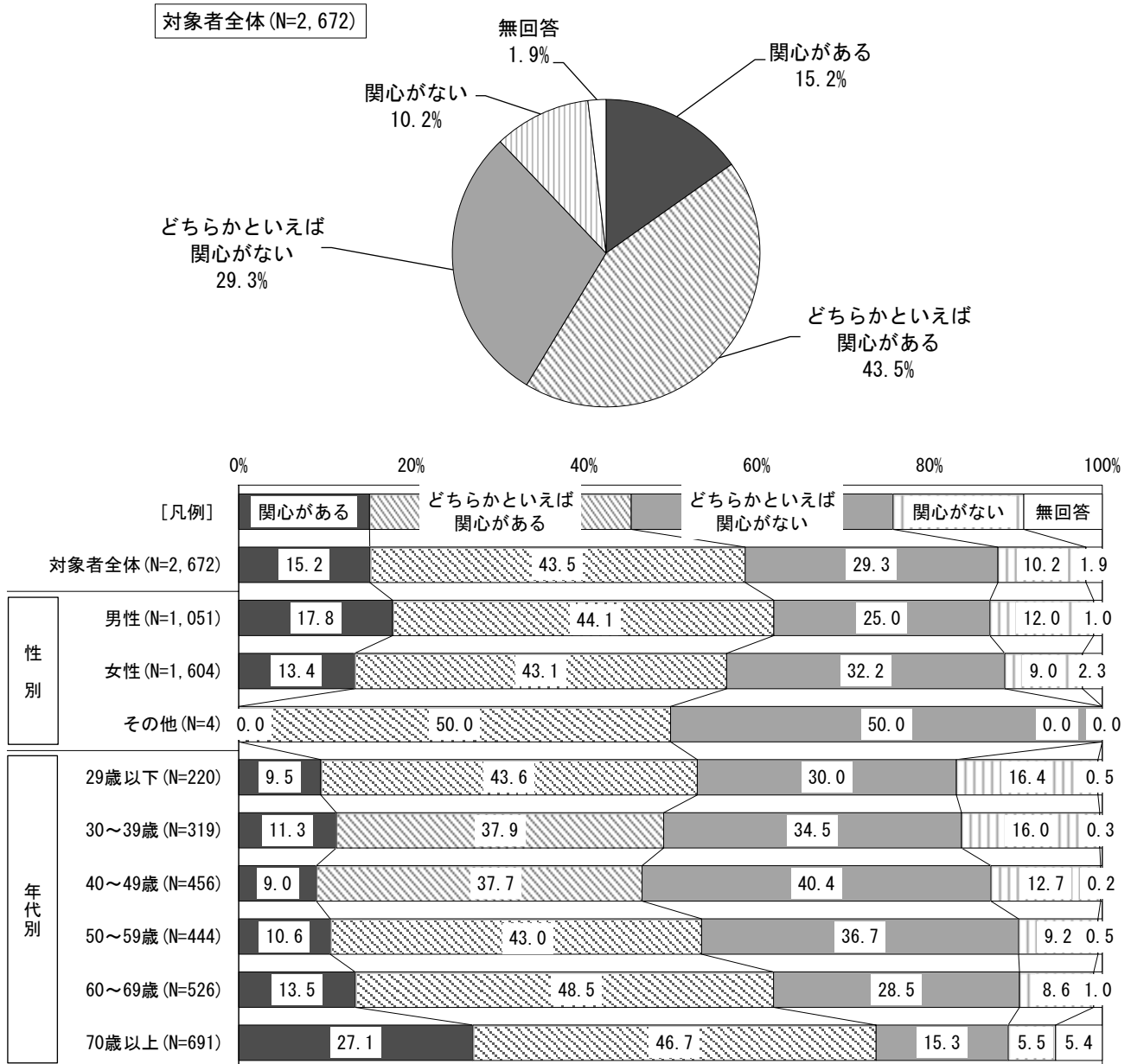
## (4) 消防団について

### ◇地域防災への関心の有無

問 1 3 あなたは、地域防災について関心がありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

地域防災に “関心がある” 人は 58.7%

※ “関心がある” (「関心がある」 + 「どちらかといえば関心がある」)



【全 体】 地域防災への関心の有無は、「関心がある」が 15.2%、「どちらかといえば関心がある」が 43.5%、合わせると 58.7%となっている。一方、「どちらかといえば関心がない」が 29.3%、「関心がない」が 10.2%、合わせると 39.4%となっている。

【性 別】 「どちらかといえば関心がない」が女性で 32.2%と、男性の 25.0%より 7.2 ポイント高くなっている。

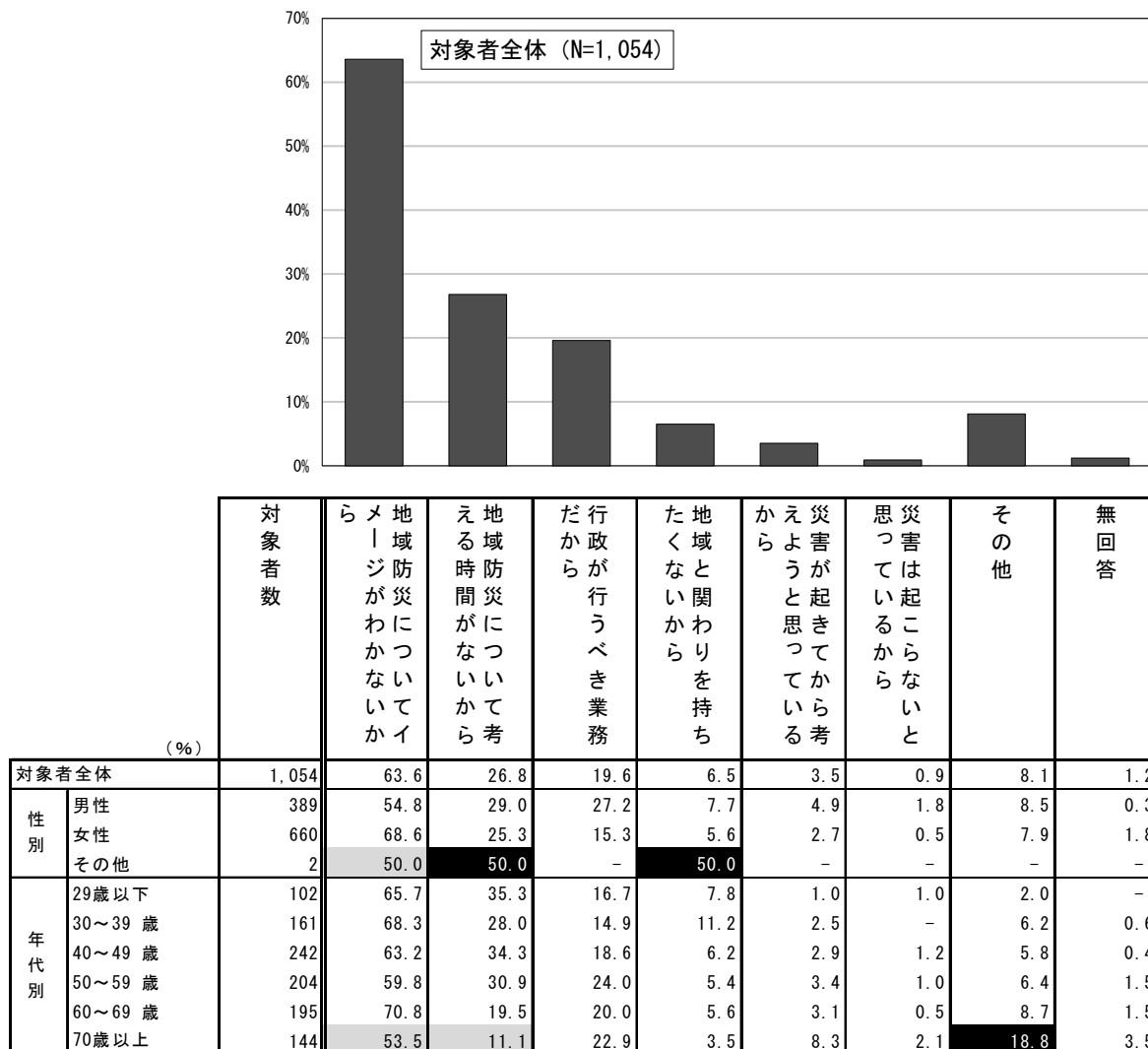
【年代別】 39 歳以下と 50 歳以上では「どちらかといえば関心がある」、40 歳代では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

## ◇地域防災に関心がない理由

《問13で「3 どちらかといえば関心がない」または「4 関心がない」と答えた方にお聞きします。》

問13-1 あなたが、関心がない理由はなんですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

地域防災に関心がない理由は「地域防災についてイメージがわからないから」と回答した人が 63.6%



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】地域防災に関心がない理由は、「地域防災についてイメージがわからないから」が63.6%、「地域防災について考える時間がないから」が26.8%、「行政が行うべき業務だから」が19.6%となっている。

【性別】「地域防災についてイメージがわからないから」が女性で68.6%と、男性の54.8%より13.8ポイント高くなっている。また、「行政が行うべき業務だから」は男性が27.2%と、女性の15.3%より11.9ポイント高くなっている。

【年代別】「地域防災についてイメージがわからないから」が60歳代（70.8%）で最も高く、最も低い70歳以上（53.5%）と比べると17.3ポイントの差となっている。



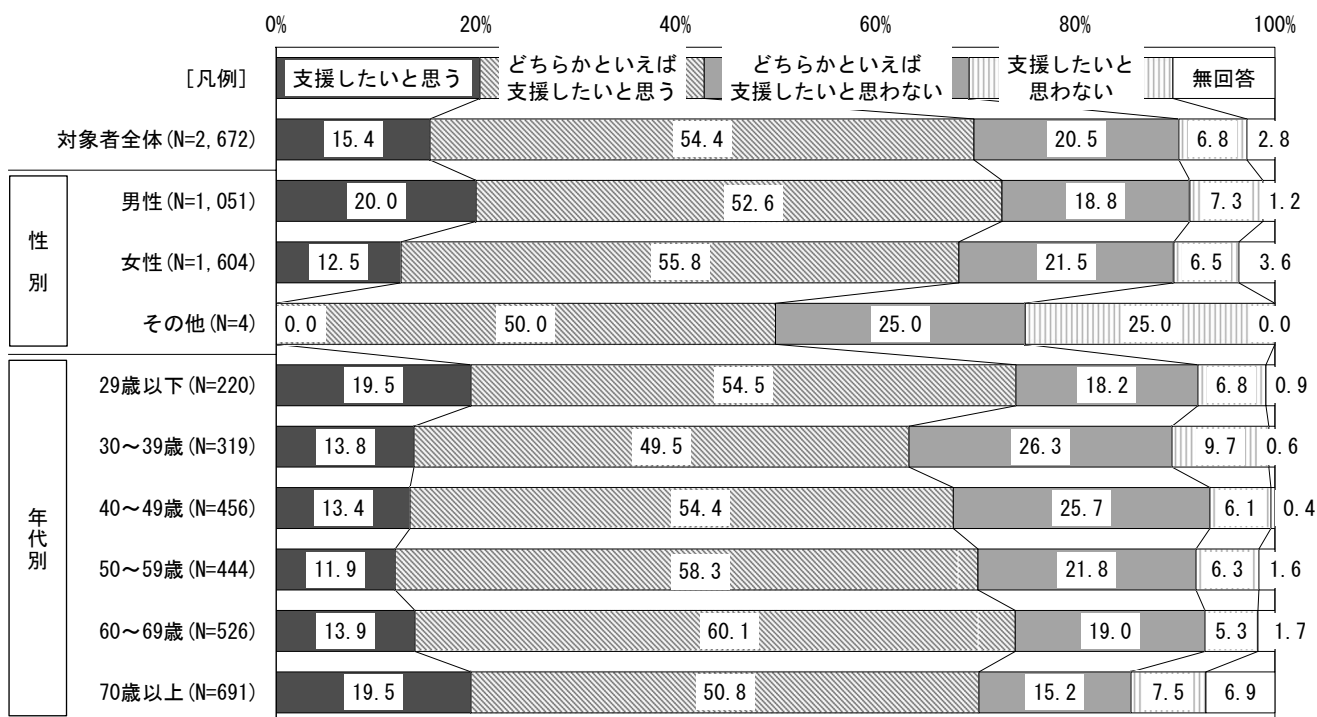
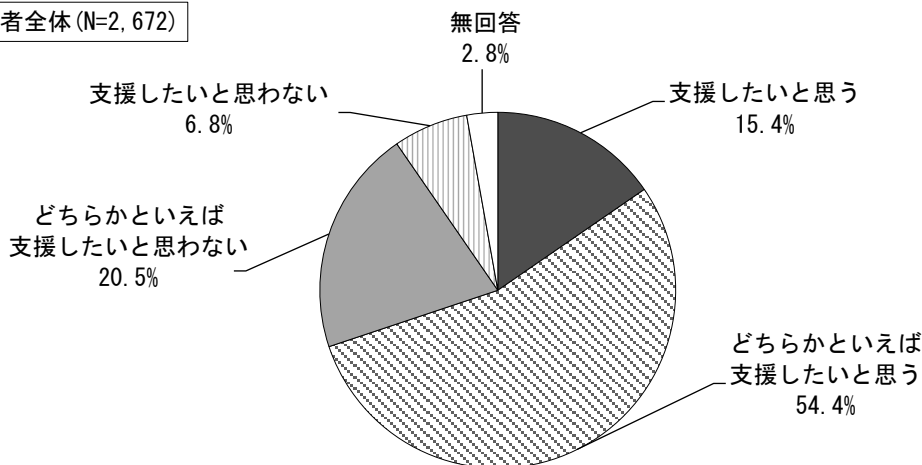
◇ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける支援をしたいか否か

問14 あなたは、ボランティアで地域貢献をしたり、災害時に地域住民を助ける支援をしたいと思いませんか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける“支援をしたいと思う”人は69.8%

※“支援したいと思う”（「支援したいと思う」＋「どちらかといえば支援したいと思う」）

対象者全体 (N=2,672)



【全体】 ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける支援をしたいか否かは、「支援したいと思う」が15.4%、「どちらかといえば支援したいと思う」が54.4%、合わせると69.8%となっている。一方、「どちらかといえば支援したいと思わない」が20.5%、「支援したいと思わない」が6.8%、合わせると27.3%となっている。

【性別】 「支援したいと思う」が男性で20.0%と、女性の12.5%より7.5ポイント高くなっている。

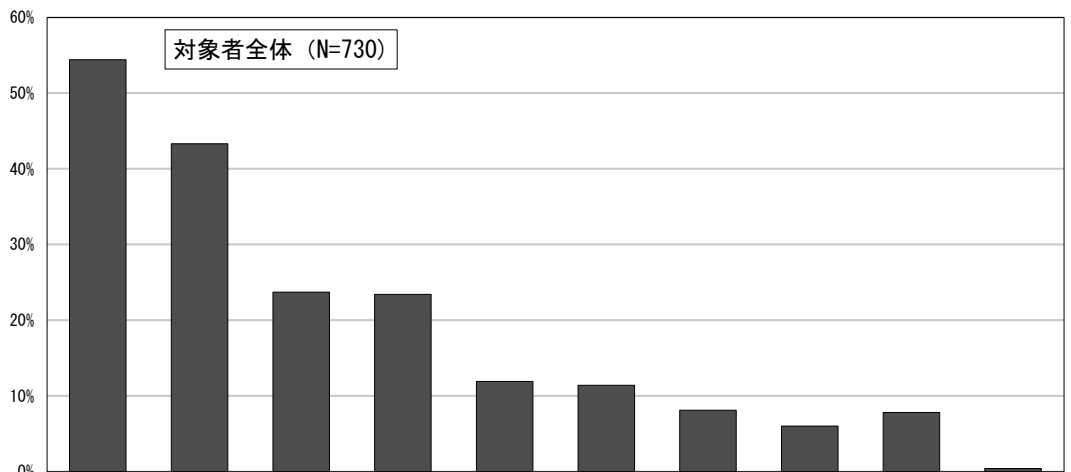
【年代別】 “支援したいと思う”が29歳以下（74.1%）で最も高く、最も低い30歳代（63.3%）と比べると10.8ポイントの差となっている。

◇ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける支援をしたいと思わない理由

《問14で「3 どちらかといえば支援したいと思わない」または「4 支援したいと思わない」と答えた方にお聞きします。》

問14-1 あなたが、支援をしたいと思わない理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける支援をしたいと思わない理由は「自分自身のことので精一杯だから」と回答した人が54.4%



対象者数		対象者数	自分自身のことので精一杯だから (%)	自分自身の体力等により難しいと思うから (%)	支援の方法がわからないから (%)	支援できるような時間が無いから (%)	行政が支援すべきだと思うから (%)	関わることで感染症が怖いから (%)	支援するのが面倒だから (%)	地域と関わりを持ちたくないから (%)	その他 (%)	無回答 (%)
対象者全体		730	54.4	43.3	23.7	23.4	11.9	11.4	8.1	6.0	7.8	0.4
性別	男性	275	52.7	36.7	18.9	28.0	17.5	9.1	9.5	7.3	7.6	0.4
	女性	450	55.3	47.1	26.2	20.4	8.4	12.4	7.3	5.1	8.0	0.4
	その他	2	50.0	50.0	100.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-
年代別	29歳以下	55	63.6	18.2	30.9	30.9	9.1	3.6	18.2	5.5	3.6	-
	30～39歳	115	65.2	19.1	23.5	32.2	15.7	11.3	10.4	10.4	9.6	-
	40～49歳	145	53.8	26.9	29.0	29.0	12.4	13.8	9.0	6.2	10.3	0.7
	50～59歳	125	50.4	35.2	20.0	29.6	12.0	12.0	9.6	6.4	7.2	-
	60～69歳	128	50.0	59.4	25.8	16.4	14.8	12.5	7.0	6.3	3.9	-
	70歳以上	157	49.7	77.1	16.6	10.2	7.0	9.6	1.9	2.5	9.6	1.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 ボランティアで地域貢献や災害時に地域住民を助ける支援をしたいと思わない理由は、「自分自身のことので精一杯だから」が54.4%、「自分自身の体力等により難しいと思うから」が43.3%、「支援の方法がわからないから」が23.7%となっている。

【性別】 「自分自身の体力等により難しいと思うから」、「支援の方法がわからないから」は女性が男性より7.0ポイント以上高くなっている。また、「支援できるような時間が無いから」、「行政が支援すべきだと思うから」は男性が女性より7.0ポイント以上高くなっている。

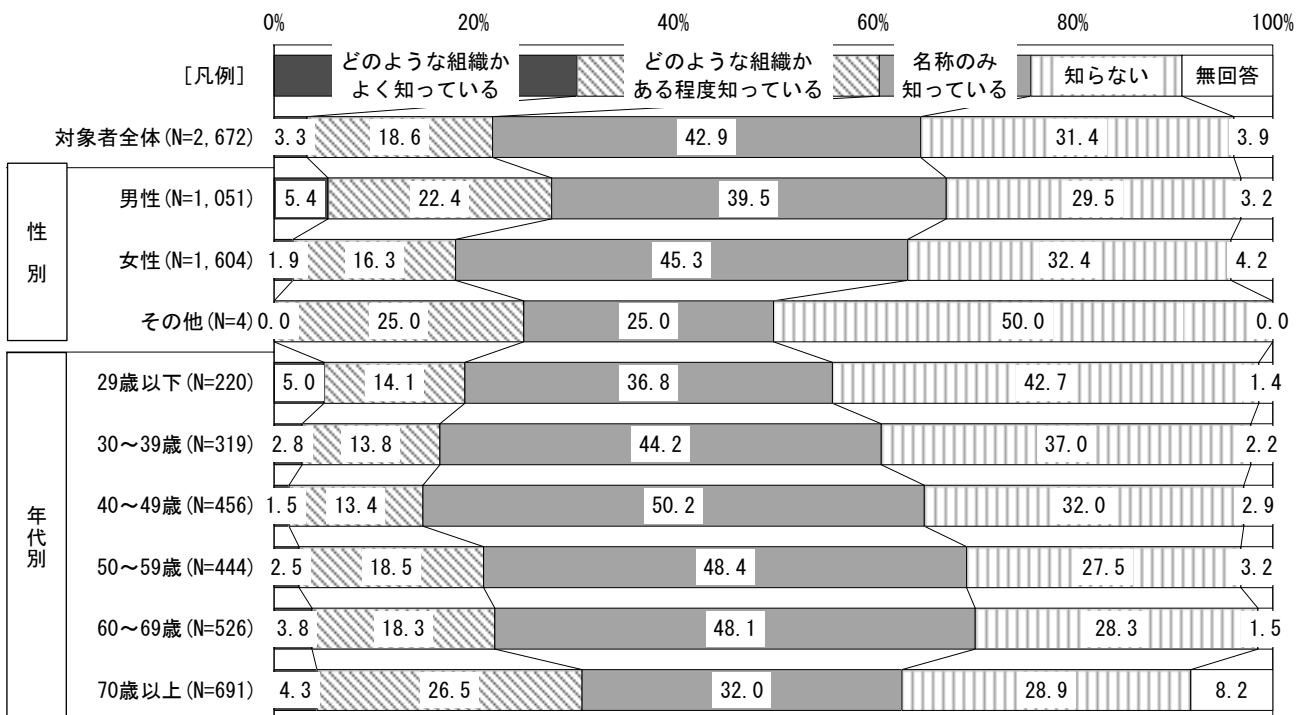
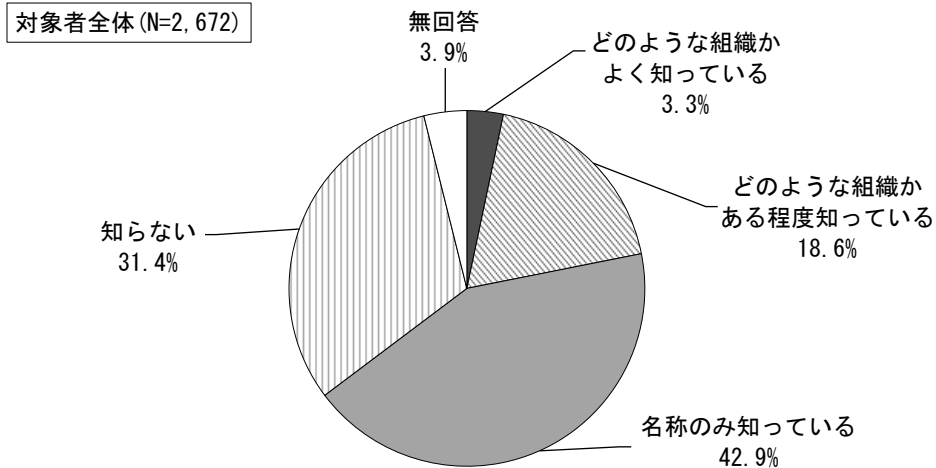
【年代別】 「自分自身のことので精いっぱいだから」は30歳代が65.2%と最も高く、70歳以上が49.7%で一番低くなっている。

## ◇消防団の認知度

問15 あなたは、地域防災の担い手として組織されている消防団の存在を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

消防団を“知っている”人は64.8%

※“知っている”（「どのような組織かよく知っている」+「どのような組織かある程度知っている」+「名称のみ知っている」）



【全体】消防団の認知度は、「どのような組織かよく知っている」が3.3%、「どのような組織かある程度知っている」が18.6%、「名称のみ知っている」が42.9%、合わせると64.8%となっている。一方、「知らない」が31.4%となっている。

【性別】「どのような組織かある程度知っている」が男性で22.4%と、女性の16.3%より6.1ポイント高くなっている。また「名称のみ知っている」が女性で45.3%と、男性の39.5%より5.8ポイント高くなっている。

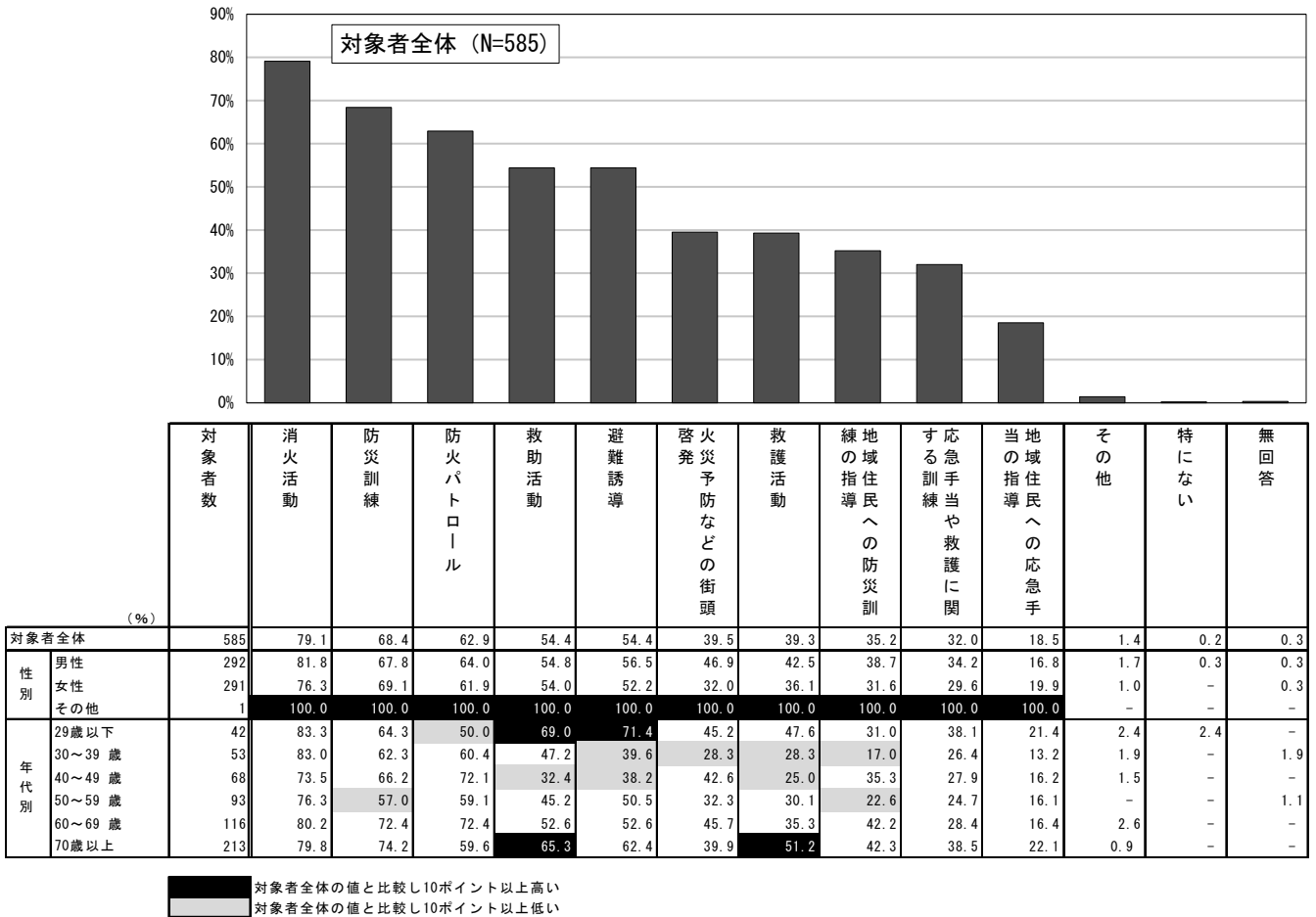
【年代別】“知っている”が60歳代(70.2%)で最も高く、次いで50歳代(69.4%)、40歳代(65.1%)となっている。

## ◇消防団の活動で認知している内容

《問15で「1 どのような組織がよく知っている」または「2 どのような組織がある程度知っている」と答えた方にお聞きします。》

**問15-1** 消防団の活動について、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものにいくつでも〇を付けてください。

消防団の活動で認知している内容は「消火活動」と回答した人が79.1%



【全体】消防団の活動で認知している内容は、「消火活動」が79.1%、「防災訓練」が68.4%、「防火パトロール」が62.9%となっている。

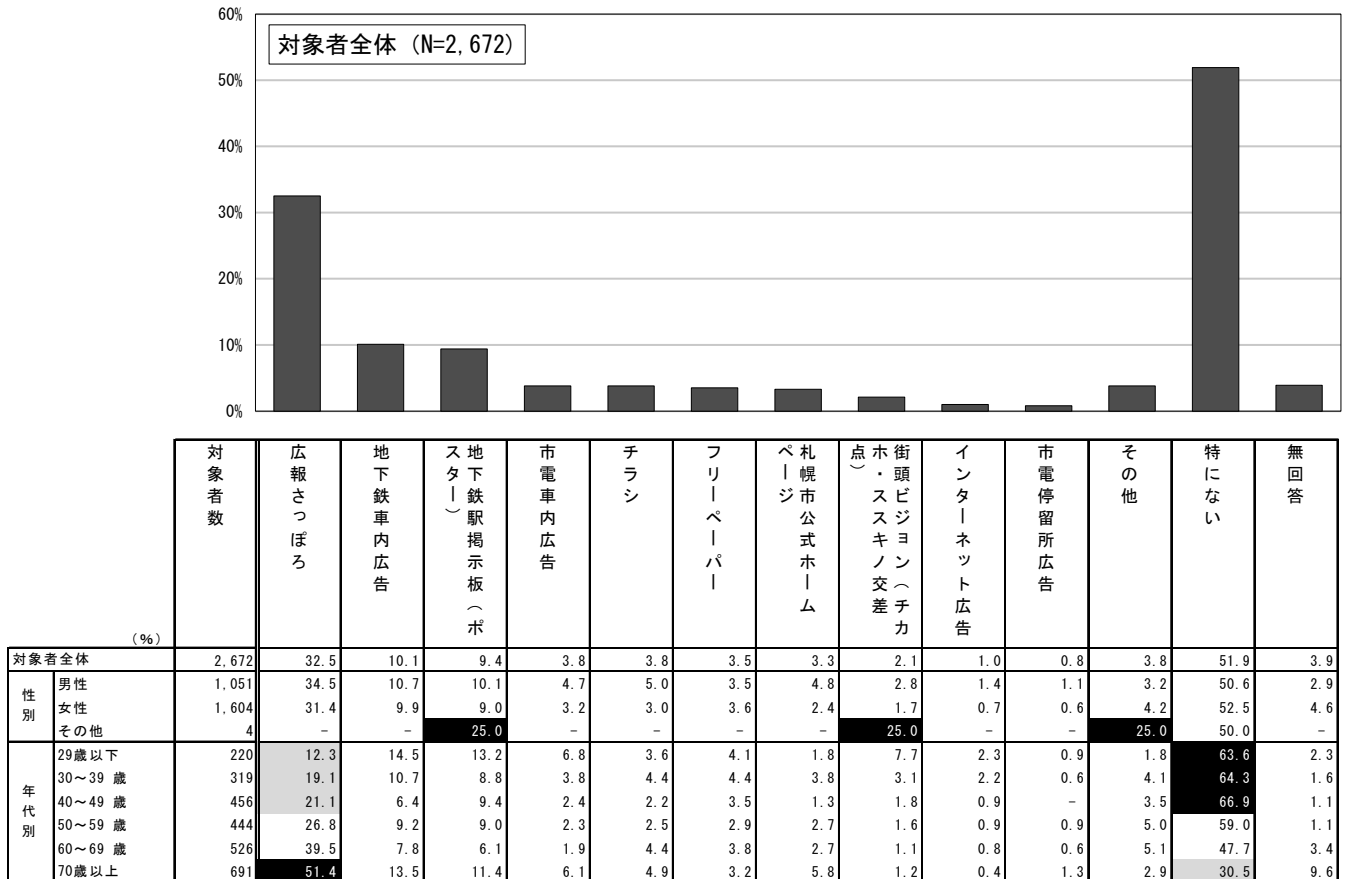
【性別】「消火活動」、「火災予防などの街頭啓発」、「救護活動」、「地域住民への防災訓練の指導」は男性が女性より5.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】「救助活動」が29歳以下(69.0%)で最も高く、最も低い40歳代(32.4%)と比べると36.6ポイントの差となっている。

## ◇消防団のPRの認知度

問16 札幌市では、様々な方法で消防団をPRしています。あなたが、見聞きしたことがあるものに、いくつでも○をつけてください。

消防団のPRで見聞きしたことがあるものは「広報さっぽろ」と回答した人が32.5%



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】消防団のPRで見聞きしたことがあるものは、「広報さっぽろ」が32.5%、「地下鉄車内広告」が10.1%、「地下鉄駅掲示板(ポスター)」が9.4%となっている。

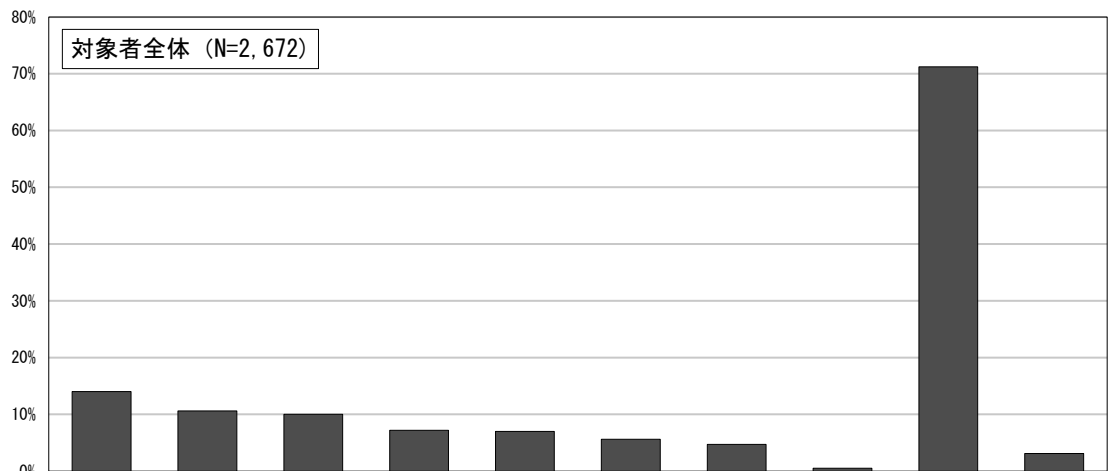
【性別】大きな差は見られない。

【年代別】「広報さっぽろ」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

## ◇消防団員の立場や待遇の認知度

問 17 あなたは、消防団員の立場や待遇について知っていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

消防団員の立場や待遇で知っていることは「活動に必要な制服等が支給される」と回答した人が14.0%



		対象者数	活動に必要な制服等が支給される (%)	報酬が支払われる (%)	非常勤の地方公務員である (%)	会社員(被雇用者)が半数以上いる (%)	怪我等を補償する制度がある (%)	入団の年齢制限に上限が無い (%)	大学生(専門学生、大学生)が短大生、大学生が入団できる (%)	その他 (%)	知らない (%)	無回答 (%)
対象者全体		2,672	14.0	10.6	10.0	7.2	7.0	5.6	4.7	0.5	71.2	3.1
性別	男性	1,051	16.7	15.1	12.7	8.4	9.4	6.6	6.5	0.7	67.5	2.5
	女性	1,604	12.3	7.7	8.2	6.5	5.4	5.0	3.5	0.4	73.7	3.4
	その他	4	-	25.0	-	-	25.0	-	25.0	-	50.0	-
年代別	29歳以下	220	10.9	7.7	6.8	8.2	5.5	5.0	5.9	0.5	75.0	0.9
	30~39歳	319	5.6	7.8	4.1	5.6	2.2	4.1	3.8	0.3	81.8	1.3
	40~49歳	456	9.0	7.2	5.0	6.6	2.6	3.5	3.5	0.2	80.7	0.2
	50~59歳	444	13.3	11.5	6.8	7.7	6.1	5.6	5.6	0.5	75.2	0.9
	60~69歳	526	14.1	10.6	9.1	7.4	6.5	6.8	3.8	0.8	71.9	1.3
	70歳以上	691	22.9	14.6	19.8	7.7	13.6	6.8	5.6	0.6	55.7	9.1

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】消防団員の立場や待遇で知っていることは、「活動に必要な制服等が支給される」が14.0%、「報酬が支払われる」が10.6%、「非常勤の地方公務員である」が10.0%となっている。

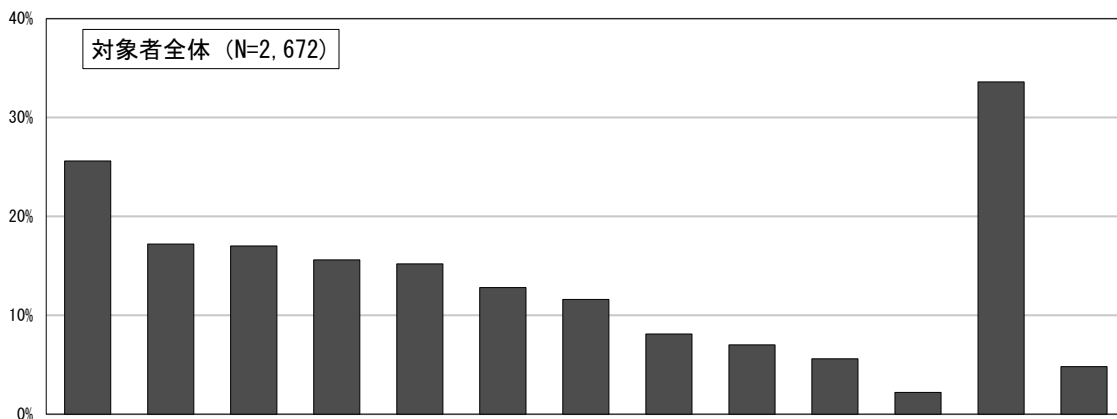
【性別】「報酬が支払われる」が男性で15.1%と、女性の7.7%より7.4ポイント高くなっている。また、「知らない」が女性で73.7%と、男性の67.5%より6.2ポイント高くなっている。

【年代別】「知らない」が30歳代(81.8%)で最も高く、最も低い70歳以上(55.7%)と比べると26.1ポイントの差となっている。

◇消防団に入団した場合に関わってみたいこと

問18 あなたが仮に消防団に入団した場合、関わってみたいことはありますか。あてはまるものにいくつかでも○をつけてください。

消防団に入団した場合に関わってみたいことは「応急手当や救護に関する訓練」と回答した人が25.6%



	対象者数	応急手当や救護に関する訓練 (%)	救護活動 (%)	避難誘導 (%)	防災訓練 (%)	救助活動 (%)	防火パトロール (%)	消火活動 (%)	地域の住民への応急手当の指導 (%)	啓発 火災予防などの街頭 (%)	地域の住民への防災訓練の指導 (%)	その他 (%)	特にな (%)	無回答 (%)
対象者全体	2,672	25.6	17.2	17.0	15.6	15.2	12.8	11.6	8.1	7.0	5.6	2.2	33.6	4.8
性別														
男性	1,051	18.8	18.2	21.4	19.0	21.6	18.8	18.2	6.3	9.3	7.1	1.5	33.5	2.2
女性	1,604	30.1	16.6	14.2	13.5	11.1	9.0	7.5	9.3	5.4	4.6	2.6	33.7	6.2
その他	4	25.0	25.0	25.0	-	50.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-
年代別														
29歳以下	220	29.5	19.5	21.4	16.4	18.2	9.1	13.2	12.3	4.1	7.3	-	31.4	0.5
30～39歳	319	32.6	17.6	15.4	13.5	17.9	9.1	14.7	12.2	6.0	7.5	1.3	36.7	0.6
40～49歳	456	33.1	19.7	16.9	19.3	18.0	11.4	11.4	9.6	5.0	5.0	1.8	32.5	0.7
50～59歳	444	27.7	18.7	15.8	16.2	16.7	11.5	14.2	6.1	8.6	5.9	1.8	34.2	1.8
60～69歳	526	23.8	19.8	17.1	15.8	13.7	12.9	8.0	6.1	6.8	5.1	1.0	34.2	3.0
70歳以上	691	16.4	12.0	17.4	13.6	11.7	17.7	11.1	6.5	8.7	4.8	4.8	32.4	13.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】消防団に入団した場合に関わってみたいことは、「応急手当や救護に関する訓練」が25.6%、「救護活動」が17.2%、「避難誘導」が17.0%となっている。

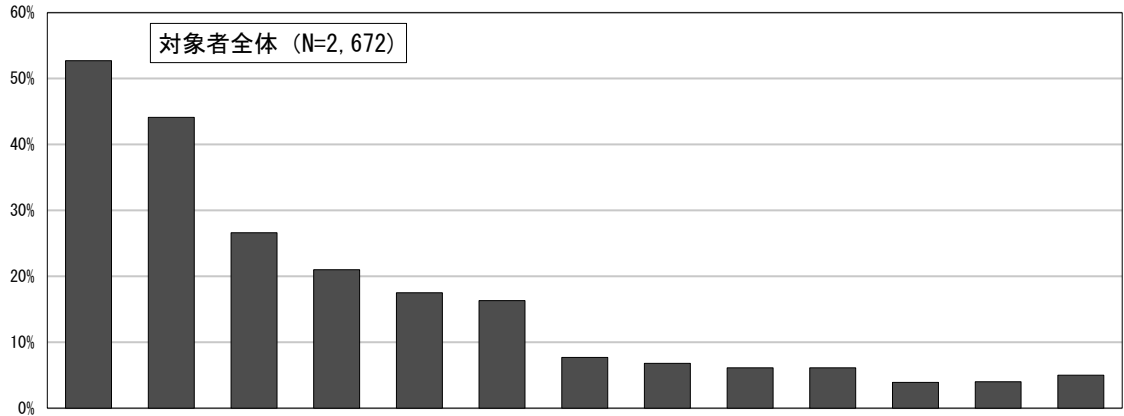
【性別】「避難誘導」、「防災訓練」、「救助活動」、「防火パトロール」、「消火活動」は男性が女性より5.0ポイント以上高くなっている。また、「応急手当や救護に関する訓練」が女性で30.1%と、男性の18.8%より11.3ポイント高くなっている。

【年代別】「応急手当や救護に関する訓練」では40歳代(33.1%)で最も高く、次いで30歳代(32.6%)、29歳以下(29.5%)となっている。

◇消防団に入団した場合に不安に感じること

問19 あなたが仮に消防団に入団した場合、どのようなことに不安を感じるとお思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

消防団に入団した場合に不安に感じることは「体力が必要そう」と回答した人が52.7%



対象者数		体力が必要そう	活動に参加する時間が取れなさそう	活動のイメージがわからない	災害活動が危険そう	活動頻度が多そう	人間関係が難しそう	職場の理解が得られなさそう	入団手続きが面倒そう	家族の理解が得られなさそう	報酬が低そう	その他	特に不安に感じることはない	無回答	
(%)															
対象者全体		2,672	52.7	44.1	26.6	21.0	17.5	16.3	7.7	6.8	6.1	6.1	3.9	4.0	5.0
性別	男性	1,051	47.0	47.0	24.0	17.1	17.8	17.4	10.5	7.5	6.1	7.9	3.9	6.0	3.0
	女性	1,604	56.5	42.4	28.3	23.4	17.3	15.5	5.9	6.2	6.0	4.8	3.9	2.7	6.1
	その他	4	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-
年代別	29歳以下	220	49.5	59.1	32.7	30.0	20.9	24.5	12.3	18.2	3.6	18.2	1.4	3.6	0.5
	30～39歳	319	43.9	65.2	37.3	27.6	24.8	23.2	13.2	11.0	8.2	12.2	2.8	3.1	0.9
	40～49歳	456	40.8	66.2	29.2	23.5	25.0	20.2	12.5	6.8	6.1	7.2	2.4	2.9	0.2
	50～59歳	444	46.4	56.3	28.8	17.3	16.9	19.4	9.0	7.2	5.2	4.3	1.8	4.7	0.7
	60～69歳	526	64.4	34.2	26.4	18.3	15.2	13.5	5.1	4.6	5.3	3.0	2.1	4.0	2.7
	70歳以上	691	61.1	14.8	16.5	17.8	10.1	8.1	1.9	2.3	7.1	2.0	9.0	4.6	15.9

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 消防団に入団した場合に不安に感じることは、「体力が必要そう」が52.7%、「活動に参加する時間が取れなさそう」が44.1%、「活動のイメージがわからない」が26.6%となっている。

【性別】 「体力が必要そう」、「災害活動が危険そう」は女性が男性より6.0ポイント以上高くなっている。

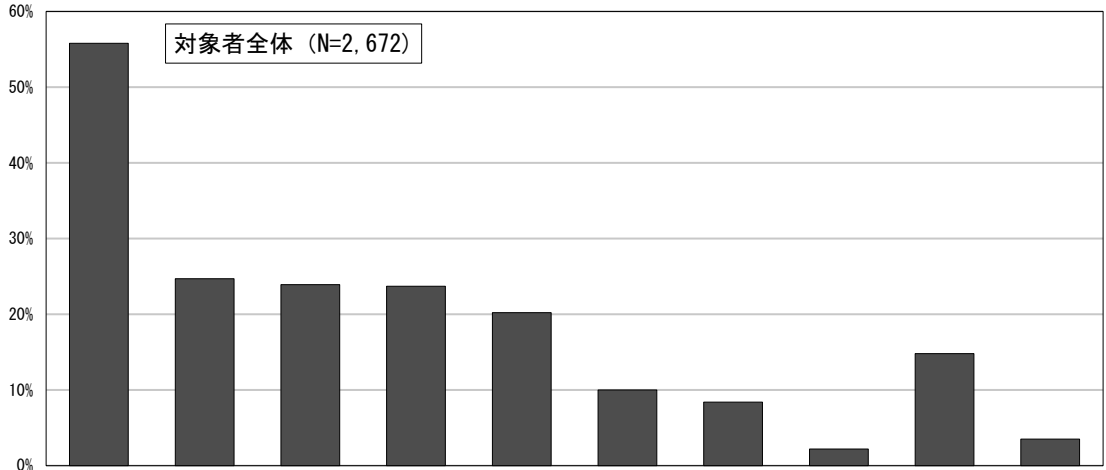
【年代別】 59歳以下では「活動に参加する時間が取れなさそう」が、60歳以上では「体力が必要そう」が最も高くなっている。



◇消防団を身近に感じるきっかけ

問20 あなたはどのようなきっかけがあれば、消防団を身近に感じると思いますか。あてはまるものについて○をつけてください。

消防団を身近に感じるきっかけは「消防団の活動や訓練を間近に見たとき」と回答した人が 55.8%



		対象者数	消防団の活動や訓練を間近に見たとき	消防団として地域行事に積極的に参加する姿を見たとき	消防団の活動や訓練を実際に体験したとき	消防団の経歴や活動を直接聞いたとき	仕事や学生生活、家事育児を行いながら、消防団の活動を両立している事例を見聞きしたとき	報酬などの待遇面について知ることができたとき	ホームページや動画などで消防団を見たとき	その他	特になし	無回答
対象者全体		2,672	55.8	24.7	23.9	23.7	20.2	10.0	8.4	2.2	14.8	3.5
性別	男性	1,051	51.8	24.3	24.5	21.1	13.9	10.2	8.9	2.1	19.9	2.7
	女性	1,604	58.7	25.2	23.6	25.4	24.2	9.9	8.0	2.2	11.5	3.9
	その他	4	100.0	-	100.0	25.0	75.0	25.0	-	-	-	-
年代別	29歳以下	220	59.5	23.6	35.9	26.8	31.4	22.7	7.7	0.9	10.0	0.9
	30～39歳	319	60.8	20.7	28.2	27.0	30.1	18.8	9.7	2.2	11.0	0.9
	40～49歳	456	54.6	21.5	29.6	24.1	30.0	15.8	10.1	2.6	11.0	1.1
	50～59歳	444	57.9	24.5	30.2	25.2	21.4	8.1	8.1	1.8	16.0	0.5
	60～69歳	526	56.8	23.6	19.6	26.4	15.2	5.9	8.0	2.1	18.3	1.3
	70歳以上	691	51.5	30.1	13.9	17.8	8.5	2.3	7.4	2.9	17.2	10.4

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 消防団を身近に感じるきっかけは、「消防団の活動や訓練を間近に見たとき」が 55.8%、「消防団として地域行事に積極的に参加する姿を見たとき」が 24.7%、「消防団の活動や訓練を実際に体験したとき」が 23.9%となっている。

【性別】 「消防団の活動や訓練を間近に見たとき」、「仕事や学生生活、家事育児を行いながら、消防団の活動を両立している事例を見聞きしたとき」は女性が男性より 6.0 ポイント以上高くなっている。

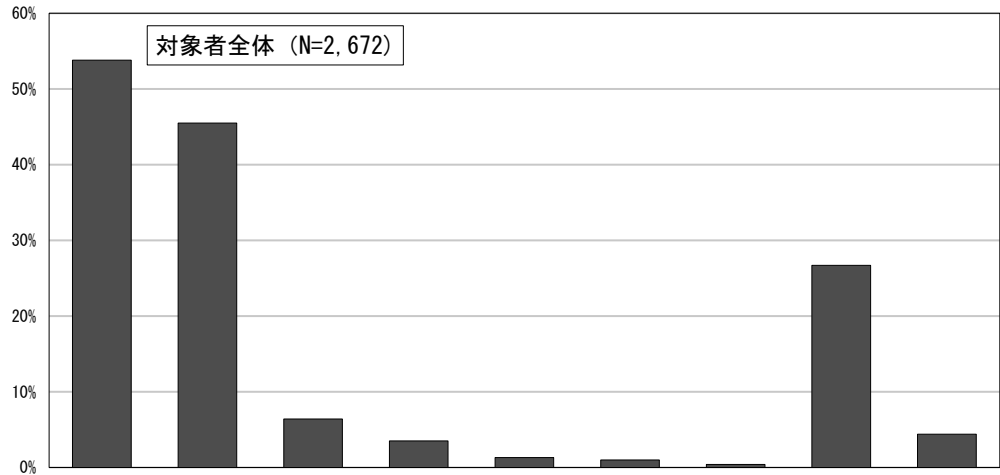
【年代別】 29歳以下では「消防団の活動や訓練を間近に見たとき」、「仕事や学生生活、家事育児を行いながら、消防団の活動を両立している事例を見聞きしたとき」、「報酬などの待遇面について知ることができたとき」が全体と比べて 11.0 ポイント以上高くなっている。

## (5) 札幌市における自殺対策について

### ◇自殺対策の取り組みの認知度

問 2 1 札幌市における次の自殺対策の取り組みのうち、あなたが知っていたものにいくつでも○をつけてください。

札幌市における自殺対策の取り組みで「北海道いのちの電話」を知っている人が 53.8%



		対象者数	北海道いのちの電話	札幌こころのセンター心の健康づくり電話相談	札幌市依存症相談窓口	Webサイトのナビ「札幌」	ゲートキーパー研修	マンガで知らう「ゲートキーパー」の役割	その他	知らない取り組み	無回答
対象者全体		2,672	53.8	45.5	6.4	3.5	1.3	1.0	0.4	26.7	4.4
性別	男性	1,051	43.0	38.4	7.6	3.6	1.3	1.0	0.3	37.4	3.8
	女性	1,604	60.8	50.2	5.6	3.4	1.2	1.1	0.4	19.6	4.7
	その他	4	100.0	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	220	45.9	54.1	6.8	5.9	2.7	2.7	-	30.0	1.8
	30~39歳	319	47.6	36.7	4.7	5.0	1.6	1.3	0.3	36.4	0.3
	40~49歳	456	52.4	47.8	4.4	5.0	1.8	1.3	0.4	29.2	1.1
	50~59歳	444	59.5	44.6	5.4	4.5	1.8	1.6	0.2	26.8	1.4
	60~69歳	526	60.8	47.5	6.7	3.0	1.0	-	0.2	24.1	2.1
	70歳以上	691	50.9	44.6	8.7	0.9	0.3	0.7	0.7	21.6	12.6

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】札幌市における自殺対策の取り組みの認知度は、「北海道いのちの電話」が 53.8%、「札幌こころのセンター心の健康づくり電話相談」が 45.5%、「札幌市依存症相談窓口」が 6.4% となっている。

【性別】「北海道いのちの電話」が女性で 60.8%と、男性の 43.0%より 17.8ポイント高くなっている。

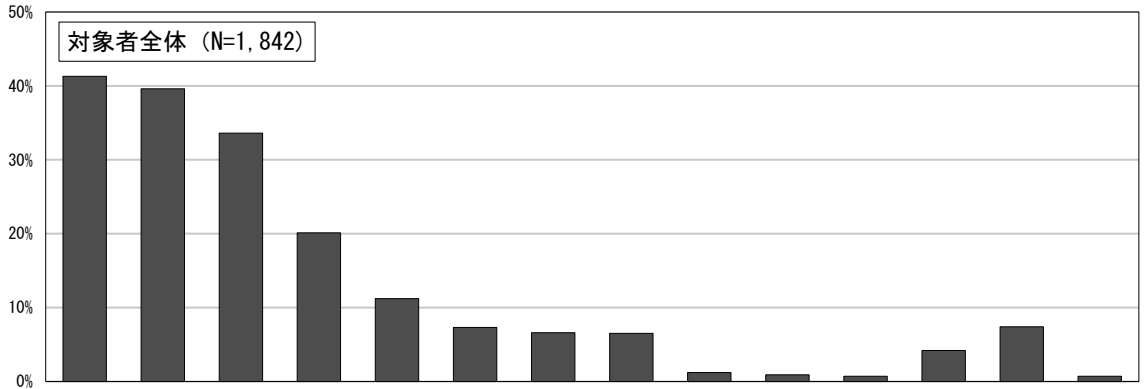
【年代別】29歳以下は「札幌こころのセンター心の健康づくり電話相談」が、30歳代以上では「北海道いのちの電話」が最も高くなっている。

## ◇自殺対策の取り組みを認知した方法

《問21で「1」～「7」のうち、一つでも自殺対策の取り組みを知っていたと答えた方にお聞きます。》

**問21-1** あなたは、札幌市の自殺対策の取り組みをどのように知りましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

自殺対策の取り組み情報を「テレビ・ラジオ」で知った人が41.3%



対象者数		テレビ・ラジオ	広報さっぽろ	ポスターやチラシ	新聞・雑誌	公共施設やその窓口	札幌市公式ホームページ	医師や医療機関	家族や知人	札幌市公式以外のホームページ	札幌市公式SNS	札幌市公式以外のSNS	その他	覚えていない	無回答
対象者全体 (N=1,842)		41.3	39.6	33.6	20.1	11.2	7.3	6.6	6.5	1.2	0.9	0.7	4.2	7.4	0.7
性別	男性	41.9	42.4	29.6	24.6	10.5	10.7	6.8	7.3	1.6	1.3	0.6	2.4	6.6	0.3
	女性	41.2	38.5	35.7	17.8	11.5	5.6	6.6	6.0	0.9	0.6	0.7	5.2	7.6	0.8
	その他	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-
年代別	29歳以下	19.3	8.7	52.0	11.3	16.7	6.0	10.7	5.3	2.0	2.7	3.3	20.7	9.3	-
	30～39歳	21.8	29.2	52.0	7.9	17.3	10.4	7.9	3.5	2.0	1.5	1.5	4.0	6.9	1.0
	40～49歳	27.0	26.7	45.0	11.3	13.2	7.5	7.5	4.7	1.9	1.3	0.3	5.0	13.2	0.3
	50～59歳	35.4	36.4	35.1	14.4	10.3	7.2	7.8	9.4	1.6	0.6	0.6	4.1	10.3	0.6
	60～69歳	57.0	47.4	24.2	23.2	7.2	7.0	4.4	6.2	0.5	0.3	0.5	0.8	4.6	0.5
	70歳以上	58.2	59.6	18.9	36.0	9.5	6.6	5.3	7.7	0.4	0.4	-	1.5	2.9	1.1

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】自殺対策の取り組みを認知した方法は、「テレビ・ラジオ」が41.3%、「広報さっぽろ」が39.6%、「ポスターやチラシ」が33.6%となっている。

【性別】「ポスターやチラシ」が女性で35.7%と、男性の29.6%より6.1ポイント高くなっている。また、「新聞・雑誌」が男性で24.6%と、女性の17.8%より6.8ポイント高くなっている。

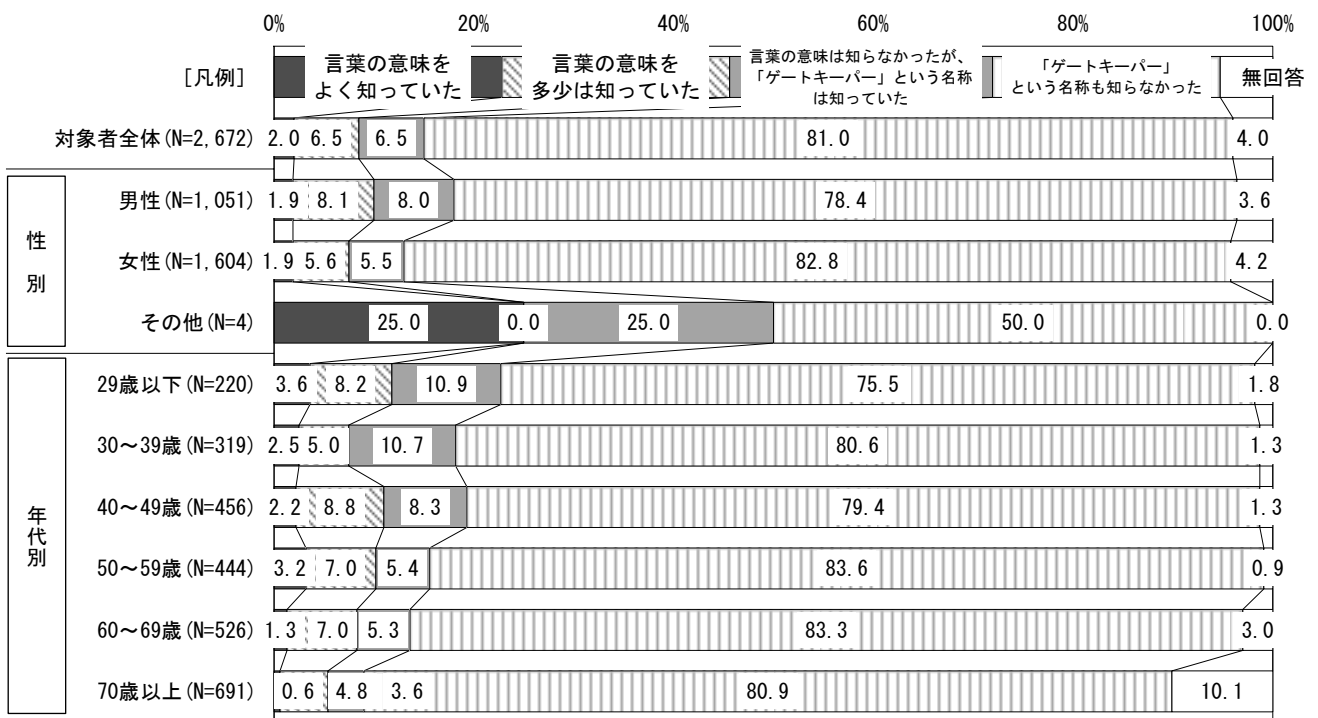
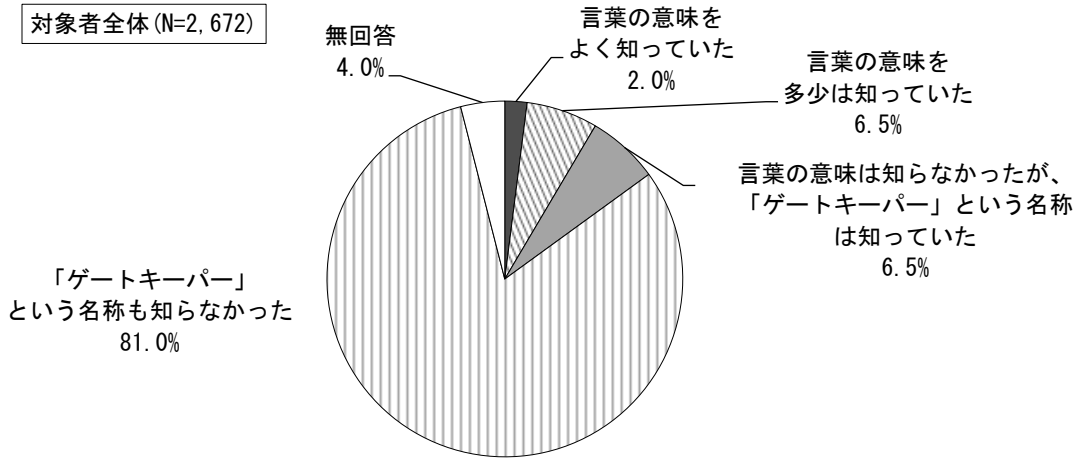
【年代別】49歳以下では「ポスターやチラシ」が、50歳代と70歳以上では「広報さっぽろ」が、60歳代では「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

◇ゲートキーパーの認知度

問22 あなたは、前記の「ゲートキーパー」の意味は知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「ゲートキーパー」の意味を“知っていた”人は8.5%

※ “知っていた”（「言葉の意味をよく知っていた」 + 「言葉の意味を多少は知っていた」）



【全体】 ゲートキーパーの認知度は、「言葉の意味をよく知っていた」が2.0%、「言葉の意味を多少は知っていた」が6.5%、「言葉の意味は知らなかったが、ゲートキーパーという名称は知っていた」が6.5%、「ゲートキーパーという名称も知らなかった」が81.0%となっている。

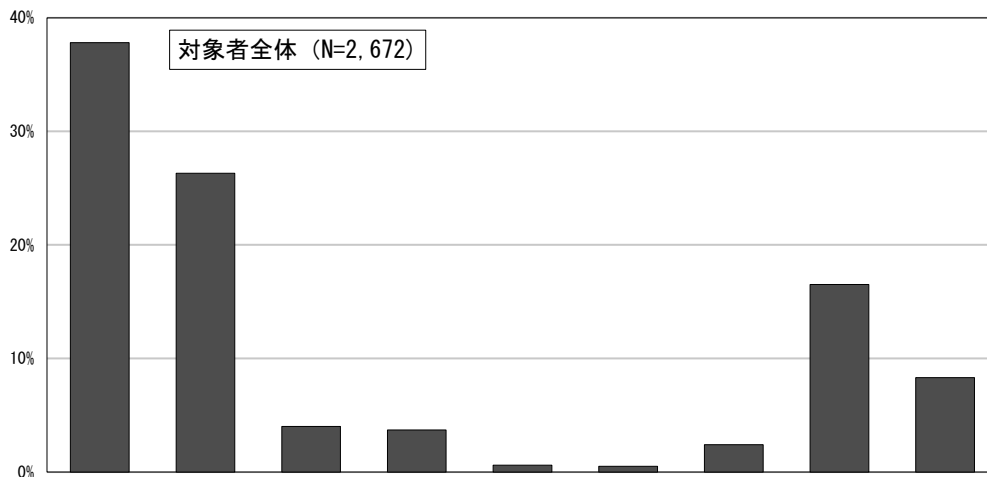
【性別】 大きな差は見られない。

【年代別】 「ゲートキーパーという言葉の意味を知っていた」が、29歳以下（11.8%）で最も高く、次いで40歳代（11.0%）、50歳代（10.2%）となっている。

## ◇悩んでいる人に気づいたときの対応方法

**問23** あなたは、周りにいる悩んでいる人に気づいたとき、どのように対応するのが最も望ましいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

悩んでいる人への対応は「声をかけてじっくりと話を聞く」人が37.8%



対象者数		と話をかけてじっくり	心配していることを伝えて見守る	話しかけず、そっと	元気を出すように励ます	理由を問いただす	気分転換のため外へ連れ出す	その他	わからない	無回答	
(%)											
対象者全体		2,672	37.8	26.3	4.0	3.7	0.6	0.5	2.4	16.5	8.3
性別	男性	1,051	40.4	18.9	5.5	4.6	1.1	1.0	2.4	18.9	7.1
	女性	1,604	36.0	31.4	3.0	3.1	0.3	0.2	2.2	14.9	8.9
	その他	4	50.0	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-
年代別	29歳以下	220	53.6	15.9	5.9	1.8	1.8	0.9	3.2	9.1	7.7
	30~39歳	319	47.6	32.9	4.4	1.9	0.3	1.3	1.6	7.8	2.2
	40~49歳	456	48.2	27.0	3.3	2.2	0.7	0.4	3.5	9.2	5.5
	50~59歳	444	38.7	31.3	3.8	2.3	0.5	0.5	2.5	15.8	4.7
	60~69歳	526	31.4	28.9	4.0	2.9	1.1	0.4	2.1	21.5	7.8
	70歳以上	691	25.8	21.3	3.8	7.5	0.1	0.3	1.7	24.3	15.2

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】悩んでいる人に気づいたときの対応方法は、「声をかけてじっくりと話を聞く」が37.8%、「心配していることを伝えて見守る」が26.3%、「話しかけず、そっとしておく」が4.0%となっている。

【性別】「心配していることを伝えて見守る」が女性で31.4%と、男性の18.9%より12.5ポイント高くなっている。

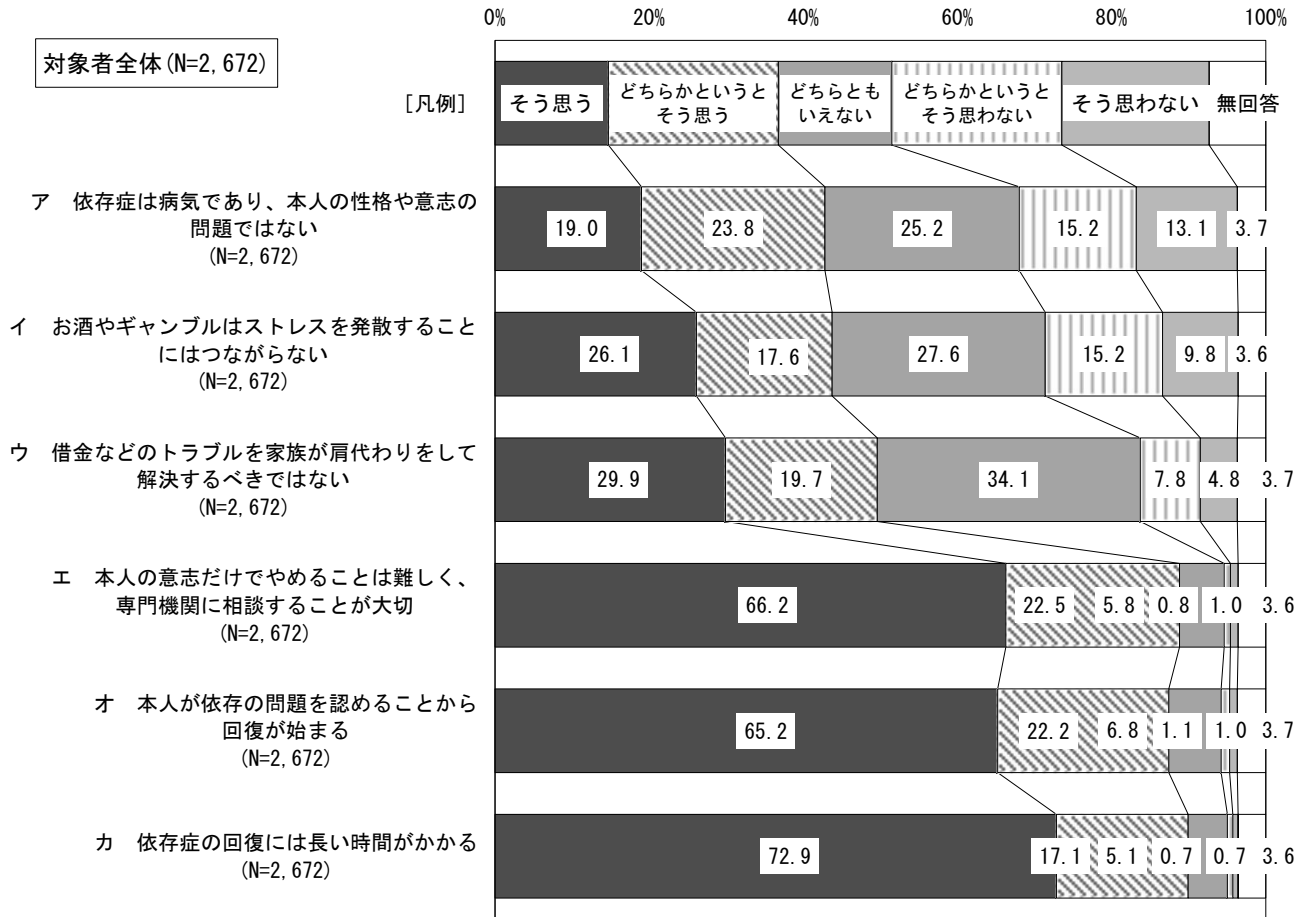
【年代別】「声をかけてじっくりと話を聞く」が29歳以下(53.6%)で最も高く、最も低い70歳以上(25.8%)と比べると27.8ポイントの差となっている。

◇依存症に関する考え方

問24 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～カのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

依存症は病気であり、本人の性格や意思の問題ではないについて“そう思う”と回答した人が42.8%

※ “そう思う”（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）



【全体】“依存症は病気であり、本人の性格や意思の問題ではない”について「そう思う」が19.0%、「どちらかというと思う」が23.8%、合わせると42.9%となっている。

“お酒やギャンブルはストレスを発散することにはつながらない”について「そう思う」が26.1%、「どちらかというと思う」が17.6%、合わせると43.8%となっている。

“借金などのトラブルを家族が肩代わりをして解決するべきではない”について「そう思う」が29.9%、「どちらかというと思う」が19.7%、合わせると49.6%となっている。

“本人の意志だけでやめることは難しく、専門機関に相談することが大切”について「そう思う」が66.2%、「どちらかというと思う」が22.5%、合わせると88.7%となっている。

“本人が依存の問題を認めることから回復が始まる”について、「そう思う」が65.2%、「どちらかというと思う」が22.2%、合わせると87.4%となっている。

“依存症の回復には長い時間がかかる”について「そう思う」が72.9%、「どちらかというと思う」が17.1%、合わせると90.0%となっている。

◇悩みや苦勞、ストレスの不満を感じる問題

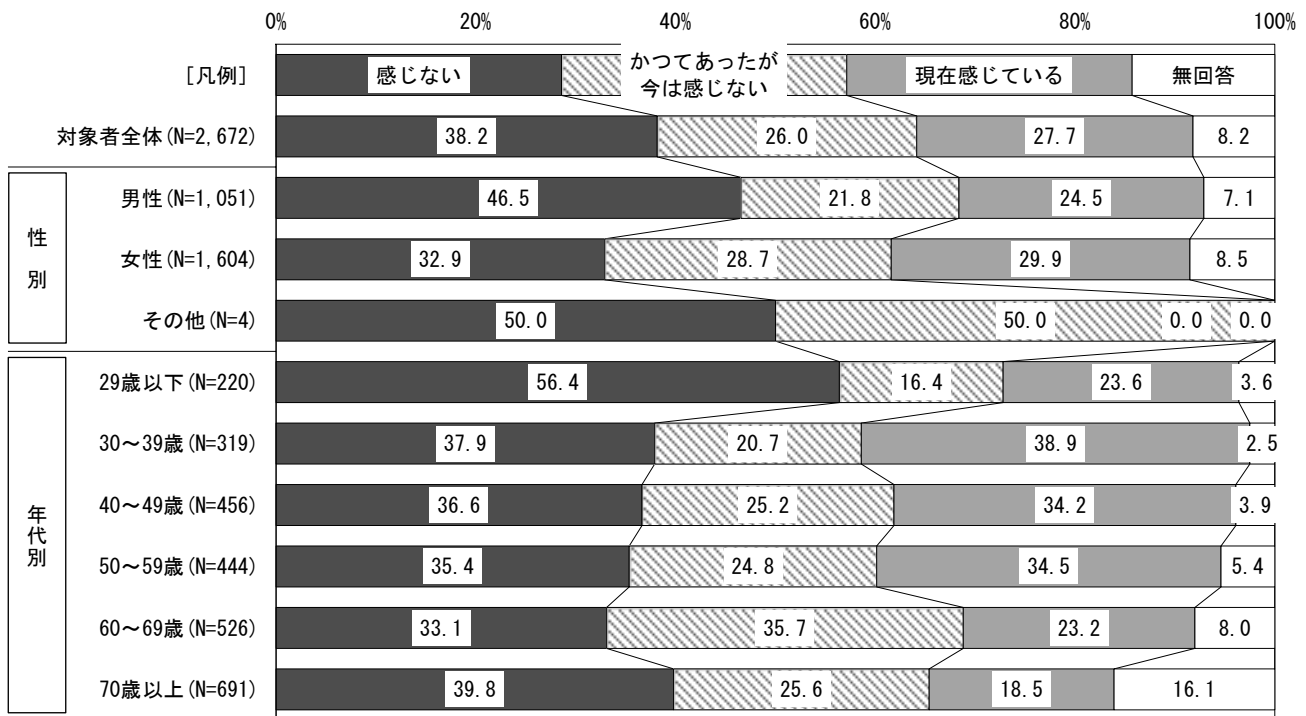
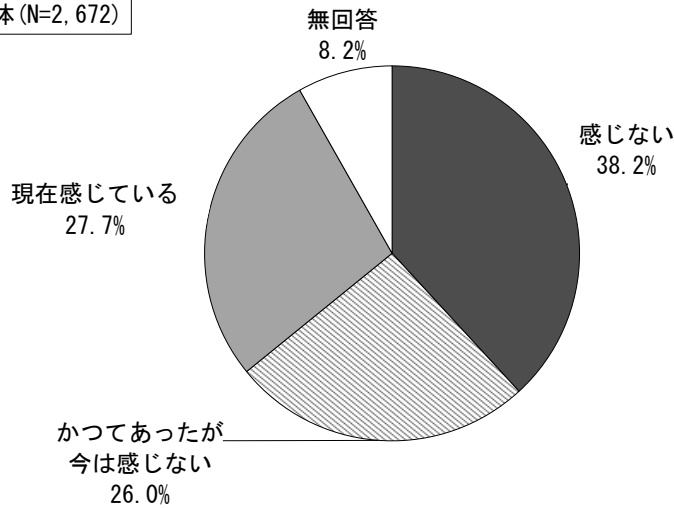
問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

ア 家庭の問題・・・家族の不和、子育て、介護・看病など

家族の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が64.2%

※ “感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）

対象者全体 (N=2,672)



【全体】 家庭の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が38.2%、「かつてあったが今は感じない」が26.0%、合わせると64.2%となっている。一方、「現在感じている」が27.7%となっている。

【性別】 “感じない”が男性で68.3%と、女性の61.6%より6.7ポイント高くなっている。また、「現在感じている」は女性が29.9%と、男性の24.5%より5.4ポイント高くなっている。

【年代別】 “感じない”が29歳以下(72.7%)で最も高く、次いで60歳代(68.8%)、70歳代(65.4%)となっている。

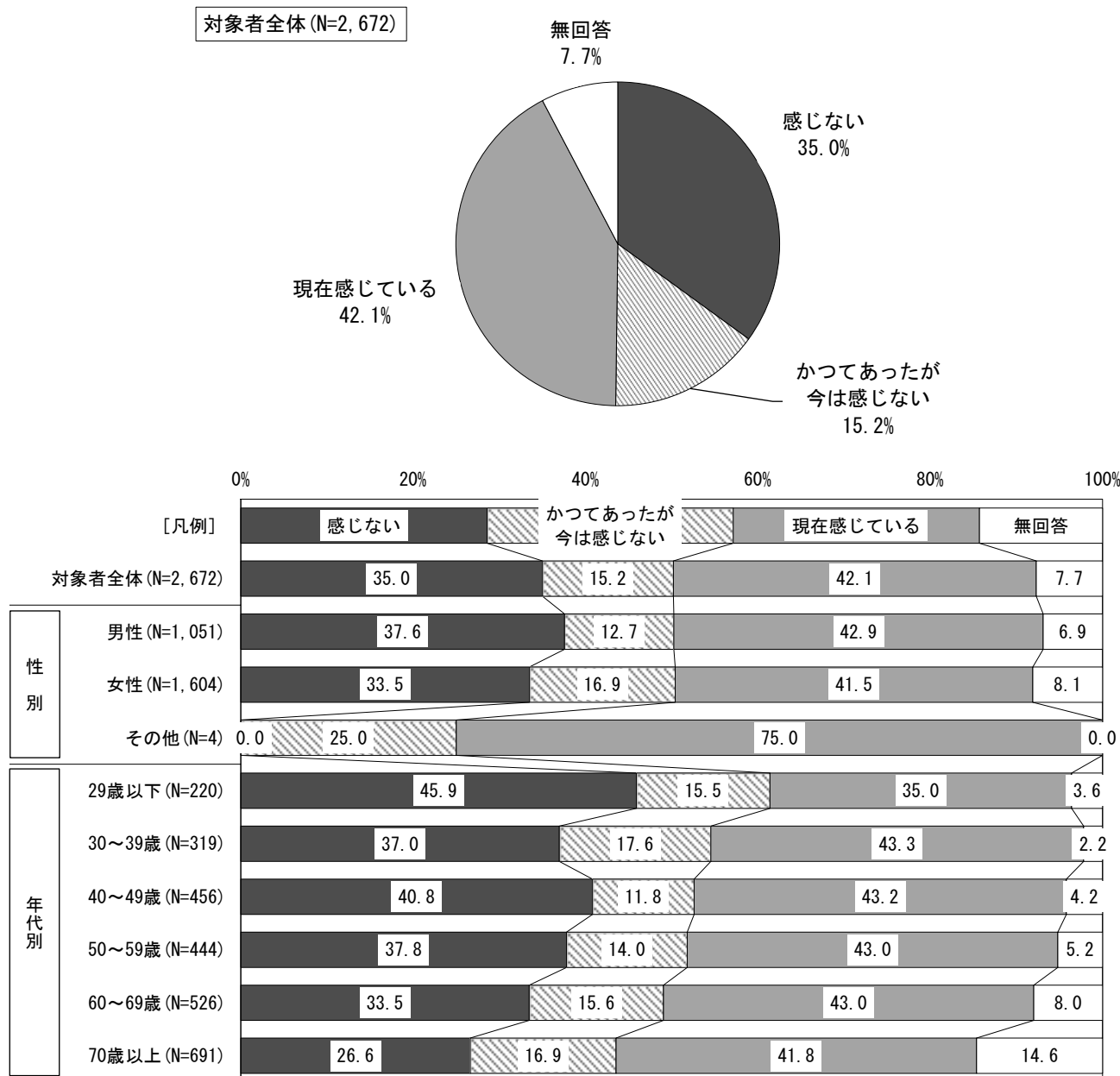
## ◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

### イ 健康の問題・・・自分の病気、体の悩み、心の悩みなど

健康の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が50.1%

※ “感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）



【全体】健康の問題に悩み苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が35.0%、「かつてあったが今は感じない」が15.2%、合わせると50.1%となっている。一方、「現在感じている」が42.1%となっている。

【性別】大きな差は見られない。

【年代別】“感じない”が29歳以下(61.4%)で最も高く、次いで30歳代(54.5%)、40歳代(52.6%)となっている。



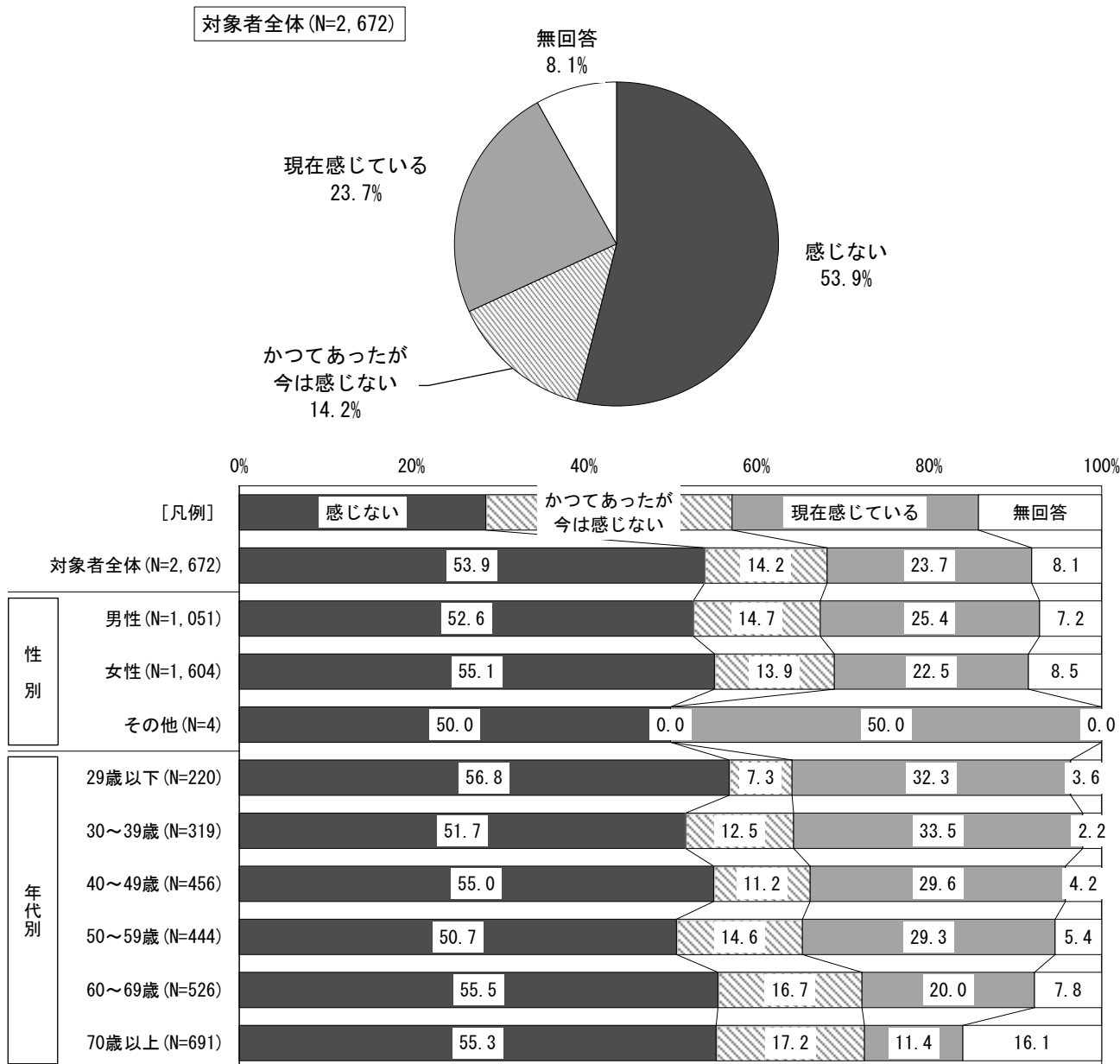
## ◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

### ウ 経済的な問題・・・倒産、借金、失業、生活困窮など

経済的な問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が68.2%

※ “感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）



【全体】 経済的な問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が53.9%、「かつてあったが今は感じない」が14.2%、合わせると68.2%となっている。一方、「現在感じている」が23.7%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

【年代別】 “感じない”が70歳以上(72.5%)で最も高く、次いで60歳代(72.2%)、40歳代(66.2%)となっている。

◇悩みや苦労、ストレス、不満を感じる問題

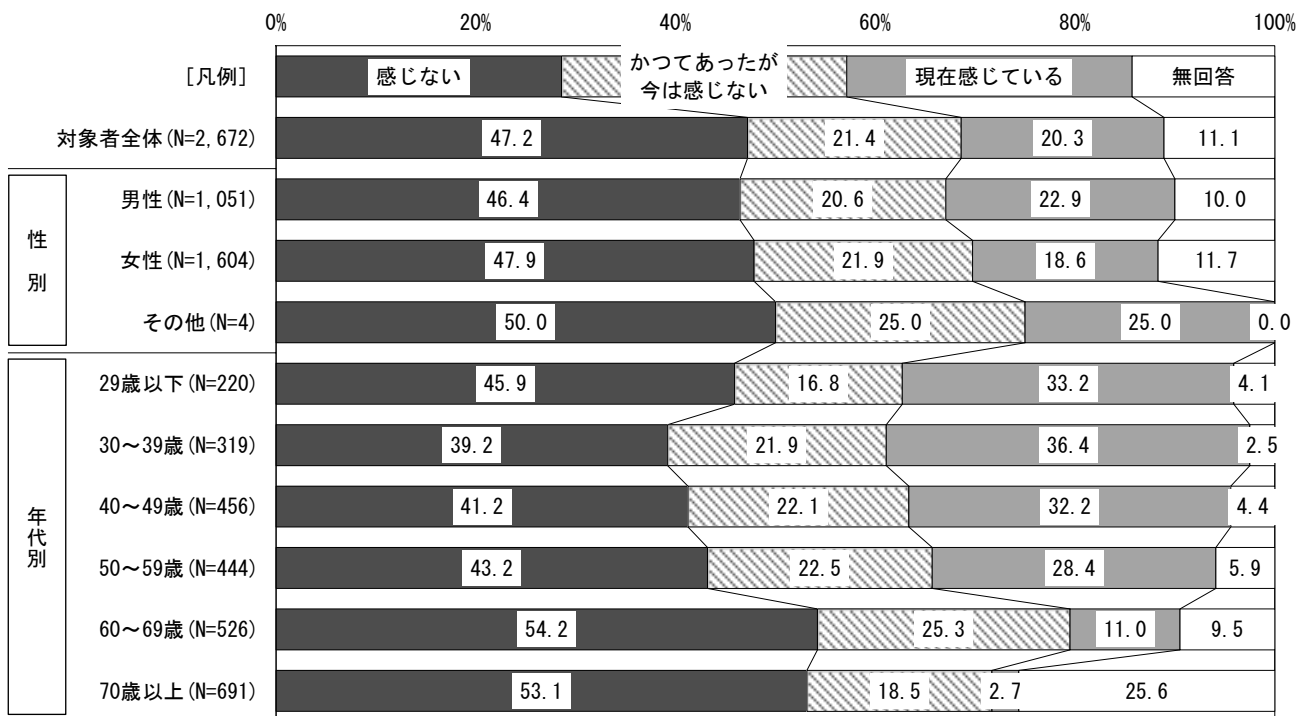
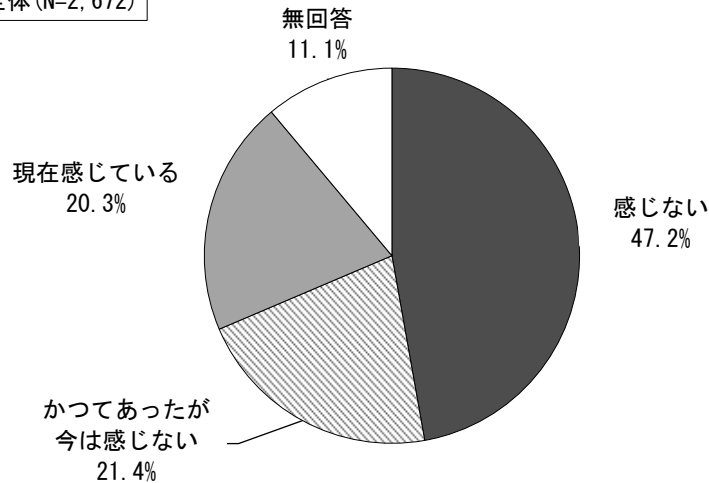
問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦労、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

エ 勤務関係の問題・・・転勤、仕事不振、職場の人間関係など

勤務関係の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が68.6%

※ “感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）

対象者全体 (N=2,672)



【全 体】 勤務関係の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が47.2%、「かつてあったが今は感じない」が21.4%、合わせると68.6%となっている。一方、「現在感じている」が20.3%となっている。

【性 別】 大きな差は見られない。

【年代別】 “感じない”が60歳代(79.5%)で最も高く、次いで70歳以上(71.6%)、50歳代(65.8%)となっている。

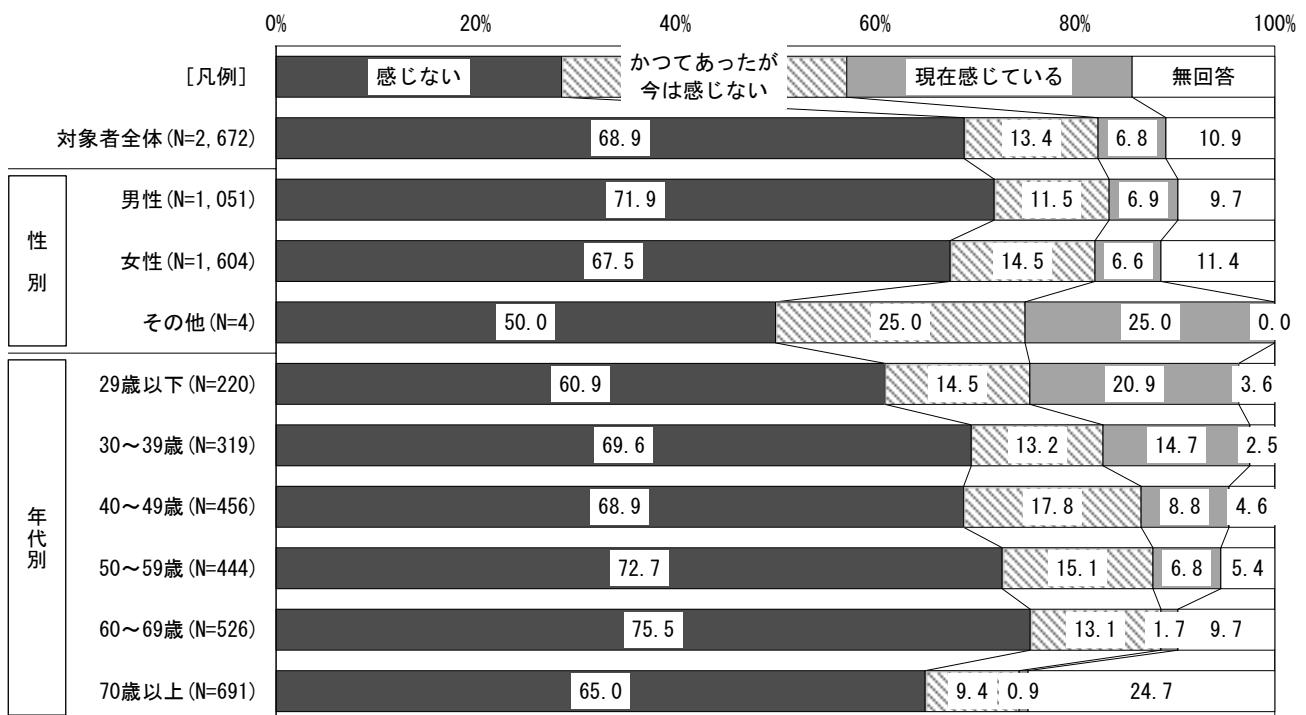
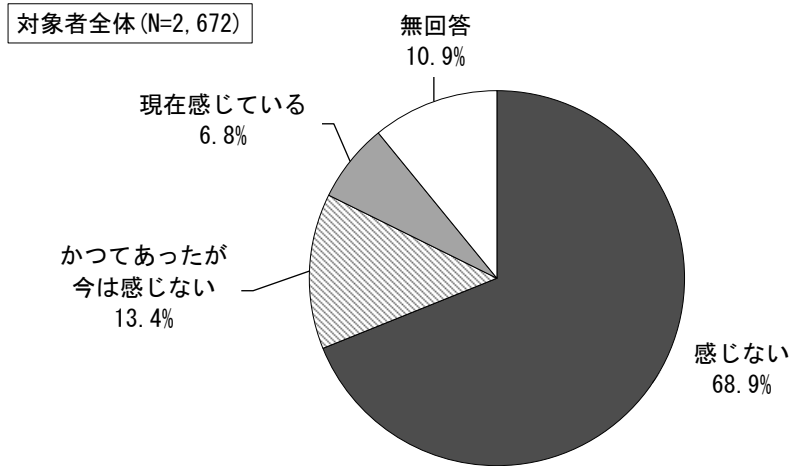
◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

オ 恋愛関係の問題・・・失恋、結婚の悩みなど

恋愛関係の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が82.4%

※ “感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）



【全体】 恋愛関係の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が68.9%、「かつてあったが今は感じない」が13.4%、合わせると82.4%となっている。一方、「現在感じている」が6.8%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

【年代別】 “感じない”が60歳代(88.6%)で最も高く、次いで50歳代(87.8%)、40歳代(86.6%)となっている。

◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

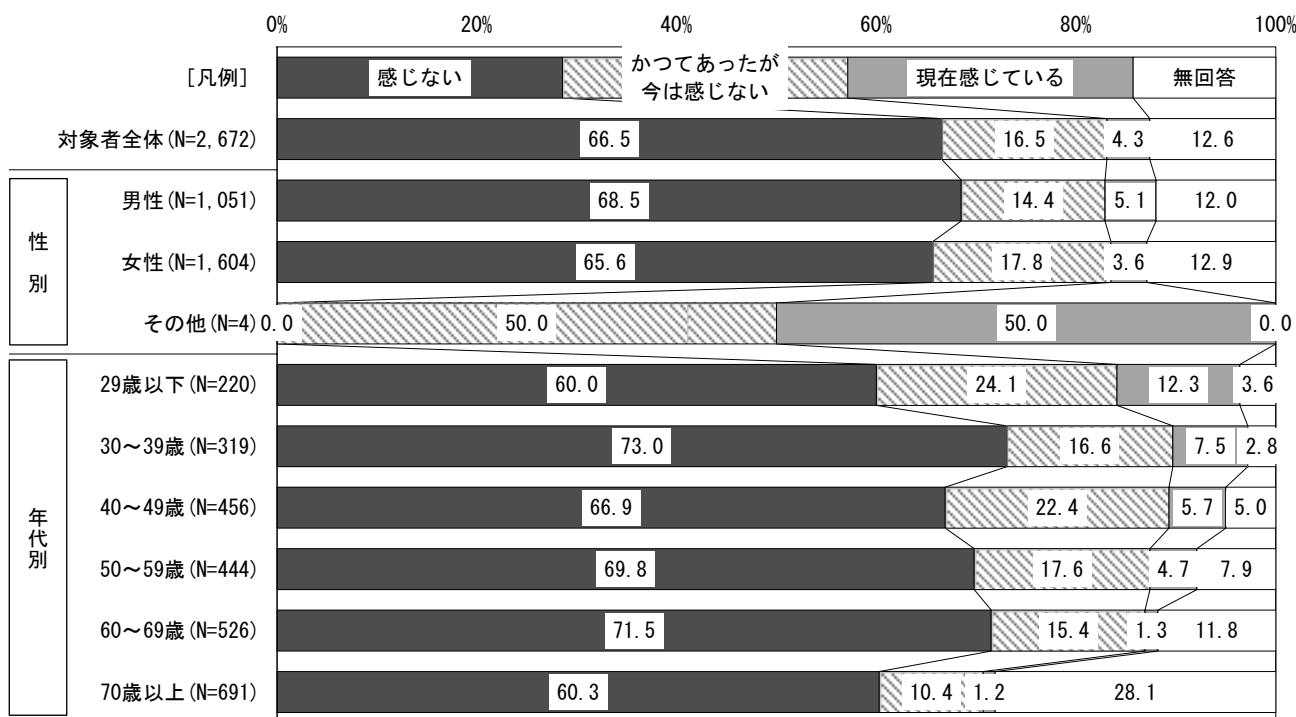
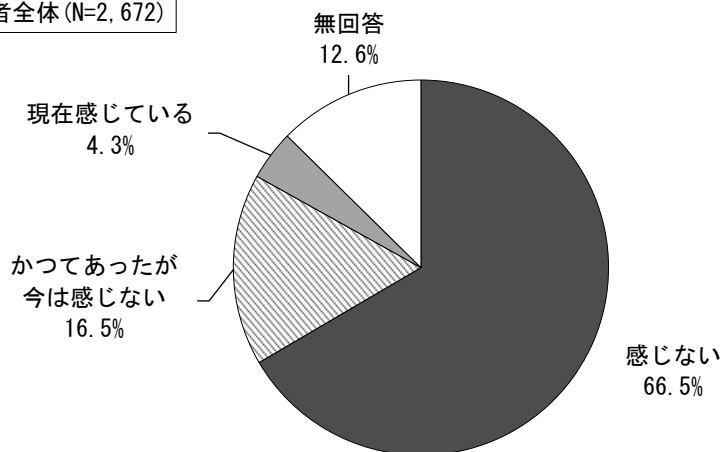
問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

カ 学校の問題・・・いじめ、学業不振、進路、学校での人間関係など

学校の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が 83.0%

※ “感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）

対象者全体 (N=2,672)



【全体】 学校の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が 66.5%、「かつてあったが今は感じない」が 16.5%、合わせると 83.0%となっている。一方、「現在感じている」が 4.3%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

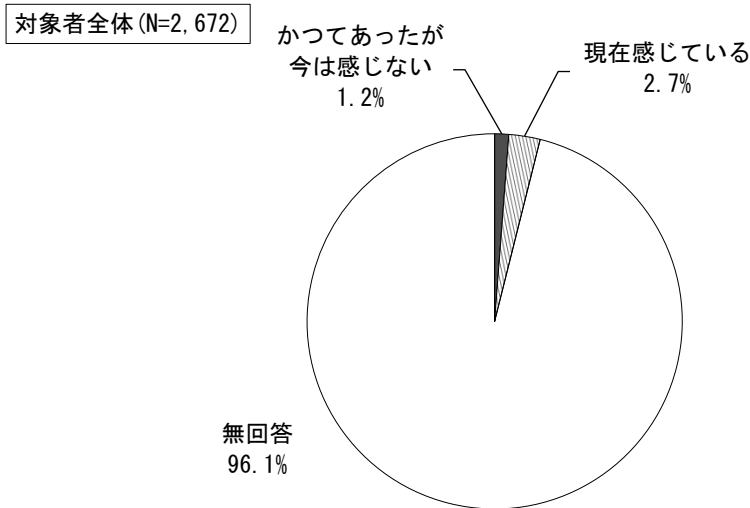
【年代別】 “感じない”が 30 歳代 (89.7%) で最も高く、次いで 40 歳代 (89.3%)、50 歳代 (87.4%) となっている。

◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

キ その他

その他について不満を「かつてあったが今は感じない」と回答した人が1.2%



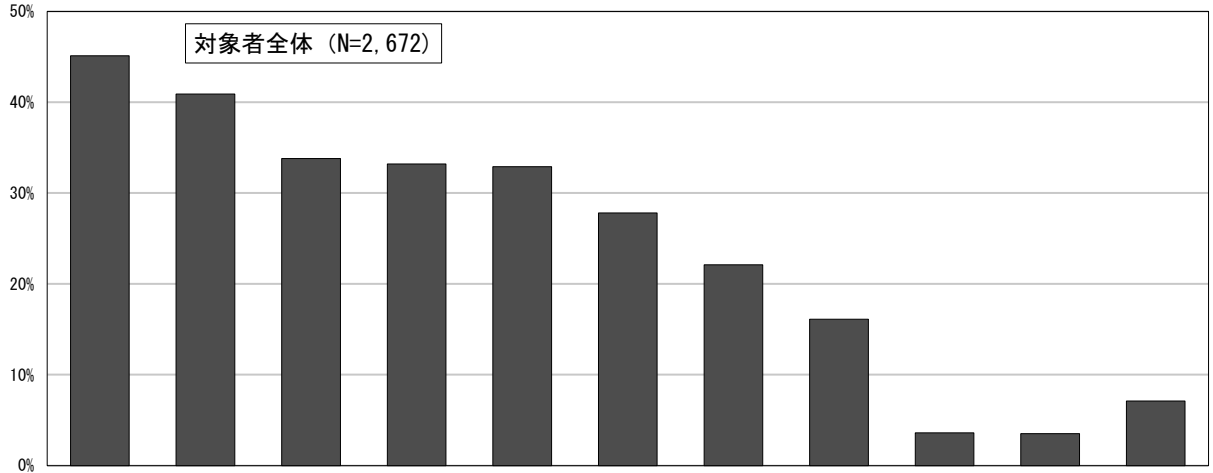
		0%	20%	40%	60%	80%	100%
[凡例]		かつてあったが今は感じない		現在感じている		無回答	
対象者全体 (N=2,672)		1.2	2.7	96.0			
性別	男性 (N=1,051)	1.5	2.2	96.3			
	女性 (N=1,604)	1.1	3.0	95.9			
	その他 (N=4)	0.0	25.0	75.0			
年代別	29歳以下 (N=220)	1.4	2.3	96.4			
	30～39歳 (N=319)	1.3	4.4	94.4			
	40～49歳 (N=456)	2.0	3.3	94.7			
	50～59歳 (N=444)	1.4	2.9	95.7			
	60～69歳 (N=526)	0.8	2.7	96.6			
	70歳以上 (N=691)	1.0	1.4	97.5			

【全体】 その他の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「かつてあったが今は感じない」が1.2%、「現在感じている」が2.7%となっている。

◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときの対処方法

問26 あなたは日頃、悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたとき、どのように対処していますか。あてはまるものいくつでも○をつけてください。

悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときは「睡眠をとる」と回答した人が45.1%



		対象者数	睡眠をとる	趣味やレジャーを楽しむ	友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する	家族に話を聞いてもらう・相談する	体を動かす・運動する	食事をする	お酒を飲む	我慢する、何もしない	その他	日頃、悩みや苦勞、ストレス、不満を感じない	無回答
		(%)											
対象者全体		2,672	45.1	40.9	33.8	33.2	32.9	27.8	22.1	16.1	3.6	3.5	7.1
性別	男性	1,051	45.1	44.2	19.7	24.1	36.3	23.3	28.5	16.2	2.6	5.2	6.7
	女性	1,604	45.0	38.7	43.1	39.2	30.5	30.9	18.0	16.0	4.2	2.4	7.2
	その他	4	75.0	75.0	50.0	-	25.0	25.0	25.0	50.0	-	-	-
年代別	29歳以下	220	66.4	49.1	43.6	31.8	30.0	55.5	24.5	12.3	5.0	0.5	3.6
	30~39歳	319	61.8	51.4	42.6	44.2	27.6	47.6	26.3	13.5	3.1	0.6	2.8
	40~49歳	456	51.5	45.6	41.9	41.7	30.9	36.8	30.3	14.5	3.9	2.2	4.6
	50~59歳	444	50.5	40.3	33.1	32.7	27.0	27.0	27.5	18.9	3.2	1.6	5.2
	60~69歳	526	35.6	36.7	31.2	31.7	32.7	16.3	17.9	16.7	4.4	3.2	6.7
	70歳以上	691	30.4	34.3	23.9	24.3	41.5	13.2	14.2	17.1	2.6	8.1	12.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときの対処方法は、「睡眠をとる」が45.1%、「趣味やレジャーを楽しむ」が40.9%、「友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する」が33.8%となっている。

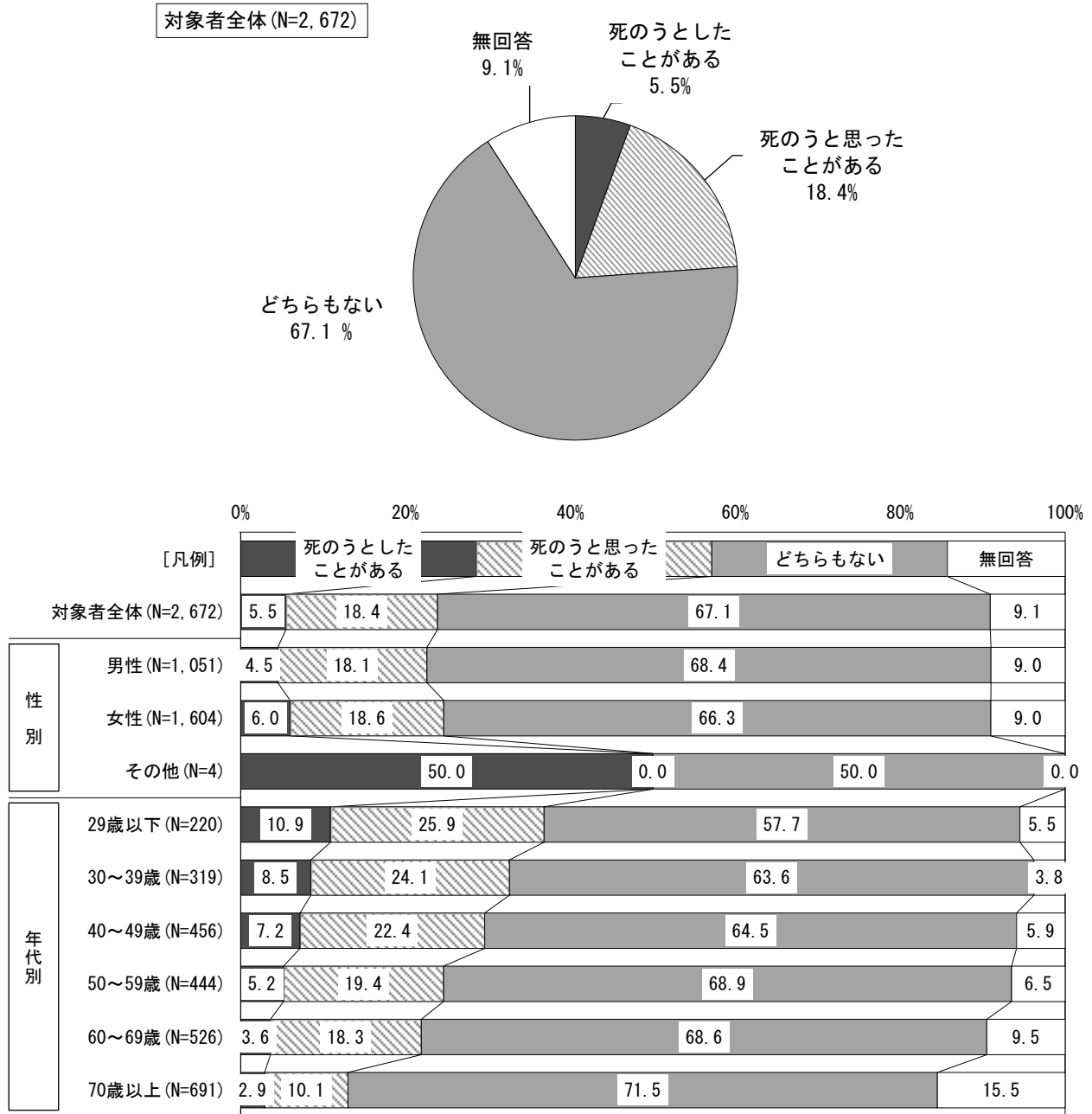
【性別】「趣味やレジャーを楽しむ」、「体を動かす・運動する」、「お酒を飲む」は男性が女性より5.0ポイント以上高くなっている。また、「友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する」、「家族に話を聞いてもらう・相談する」、「食事をする」は女性が男性より7.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】59歳以下では「睡眠をとる」が、60歳以上は「趣味やレジャーを楽しむ」が最も高くなっている。また、「睡眠をとる」、「食事をする」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇死のうとした、死のうと思った経験

問27 あなたは今まで、死のうとした、または死のうと思ったことはありますか。あてはまるものに1だけ○をつけてください。

死のうとした、死のうと思った経験は「死のうと思ったことがある」と回答した人が18.4%



【全体】 死のうとした、死のうと思った経験は、「死のうとしたことがある」が5.5%、「死のうと思ったことがある」が18.4%、「どちらもない」が67.1%となっている。

【性別】 大きな差は見られない。

【年代別】 「死のうと思ったことがある」、「死のうとしたことがある」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。また、「どちらもない」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

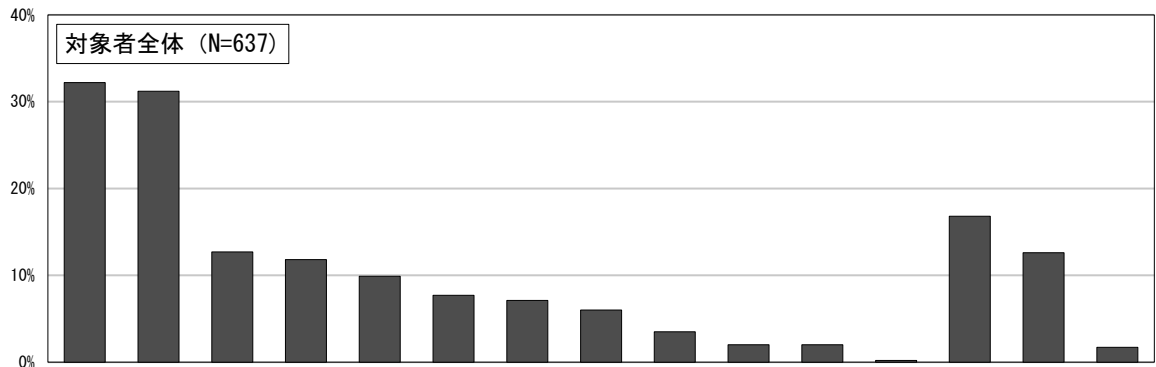




◇死のうとした、死のうと思った際に思いとどまった理由

問27-2 あなたが、死のうとした、または死のうと思った際に、思いとどまったのはなぜですか。あてはまるものいくつでも○をつけてください。

死のうとした、死のうと思った際に思いとどまった理由は「死ぬのが怖かったから」と回答した人が32.2%



対象者数		死ぬのが怖かったから	家族や恋人の事を考えたから	家族に相談したから	友人に相談したから	医療機関を受診したから	体験談や心に響くことばに触れたから	書籍を読んだから	自殺を考えた原因となつた問題(借金や健康問題など)が解決したから	仕事の事を考えたから	「いのちの電話」など、相談窓口を利用したから	テレビ・ラジオやインターネットの情報を見たから	自殺防止のポスターやCM、ステッカーを見たから	その他	特に理由はない	無回答
対象者全体 (N=637)		32.2	31.2	12.7	11.8	9.9	7.7	7.1	6.0	3.5	2.0	2.0	0.2	16.8	12.6	1.7
性別	男性	30.8	27.8	13.1	8.4	8.9	6.8	6.3	5.5	4.2	-	3.0	0.4	13.5	17.3	2.1
	女性	32.9	33.2	12.7	13.7	10.6	8.4	7.3	6.3	3.0	3.3	1.5	-	18.5	9.9	1.5
	その他	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
年代別	29歳以下	44.4	29.6	14.8	12.3	4.9	7.4	6.2	3.7	1.2	-	2.5	-	25.9	9.9	1.2
	30～39歳	37.5	29.8	11.5	13.5	9.6	6.7	6.7	3.8	-	1.9	2.9	-	18.3	15.4	1.0
	40～49歳	36.3	35.6	14.1	13.3	10.4	12.6	5.2	5.2	2.2	1.5	1.5	-	13.3	14.1	0.7
	50～59歳	30.3	28.4	11.9	9.2	11.9	1.8	8.3	4.6	2.8	4.6	1.8	0.9	24.8	13.8	2.8
	60～69歳	26.1	33.9	9.6	13.0	7.8	6.1	6.1	7.8	6.1	2.6	2.6	-	8.7	13.0	1.7
	70歳以上	18.9	27.8	15.6	8.9	14.4	11.1	10.0	11.1	8.9	1.1	1.1	-	12.2	7.8	3.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】死のうとした、死のうと思った際に思いとどまった理由は、「死ぬのが怖かったから」が32.2%、「家族や恋人の事を考えたから」が31.2%、「家族に相談したから」が12.7%となっている。

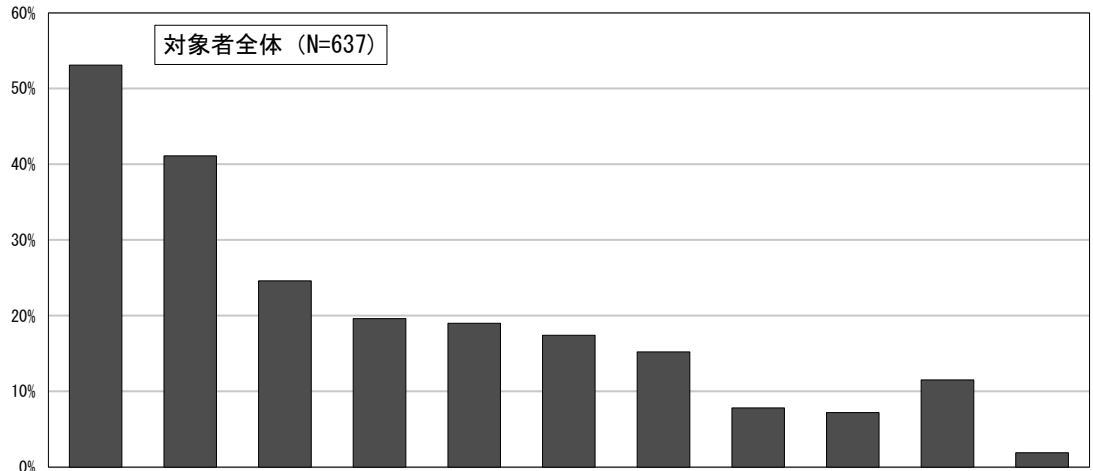
【性別】「家族や恋人の事を考えたから」、「友人に相談したから」は女性が男性より5.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】59歳以下では「死ぬのが怖かったから」が、60歳以上では「家族や恋人の事を考えたから」が最も高くなっている。

◇死のうとした、死のうと思った際にあればよかった(もの)こと

問27-3 今振り返ると、その際にどのようなことがあれば、よかったと思いますか。すでにあったものや利用したものも含め、あてはまるものいくつでも○をつけてください。

死のうとした、死のうと思った際にあればよかった(もの)ことは「心の支えとなるような日頃の人間関係」と回答した人が53.1%



		対象者数	日常の心の支えとなるような人間関係 (%)	相談にのってくれる人 (%)	休みをとれる環境 (%)	死にたいという気持ちに気づいて声をかけてくれる人 (%)	具体的援助(例:金銭、食料、住居の提供など) (%)	問題に合った専門機関・相談窓口の情報 (%)	精神科医療機関(クリニックや病院) (%)	体験談や心に響くこと(インタビューなど) (%)	その他 (%)	特になし (%)	無回答 (%)
対象者全体		637	53.1	41.1	24.6	19.6	19.0	17.4	15.2	7.8	7.2	11.5	1.9
性別	男性	237	52.7	40.9	20.3	18.1	18.6	13.1	13.9	5.1	8.4	13.5	1.7
	女性	395	52.9	41.3	27.1	20.3	19.0	20.0	15.9	9.4	6.6	10.1	2.0
	その他	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
年代別	29歳以下	81	51.9	44.4	46.9	30.9	25.9	12.3	17.3	11.1	7.4	12.3	-
	30~39歳	104	57.7	44.2	31.7	24.0	22.1	21.2	17.3	9.6	10.6	14.4	-
	40~49歳	135	59.3	45.2	25.9	21.5	24.4	21.5	16.3	9.6	5.2	11.1	0.7
	50~59歳	109	46.8	38.5	24.8	17.4	16.5	19.3	18.3	8.3	10.1	8.3	1.8
	60~69歳	115	47.8	34.8	14.8	13.0	10.4	17.4	10.4	5.2	3.5	13.0	1.7
	70歳以上	90	53.3	40.0	6.7	12.2	14.4	8.9	11.1	2.2	7.8	8.9	7.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】死のうとした、死のうと思った際にあればよかった(もの)ことについては、「心の支えとなるような日頃の人間関係」が53.1%と最も高く、次いで「相談にのってくれる人」が41.1%、「休みをとれる環境」が24.6%となっている。

【性別】「休みをとれる環境」、「問題に合った専門機関・相談窓口の情報」は女性が男性より6.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】「休みをとれる環境」、「死にたいという気持ちに気づいて声をかけてくれる人」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

# 調査票



## 令和3年度第1回市民意識調査票

「市民意識調査」へのご協力のお願い

～あなたの声をまちづくりに～

日頃から、札幌市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

札幌市では、市民の皆さまのお考えやご要望を市政に反映させるために、札幌市民5千人の方々にご回答をお願いする調査を実施しております。

突然のお願いで恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

● **あなたにお願いしたいこと**

「市民意識調査票」にご記入のうえ、同封の返信用封筒に入れて返送してください。

● **5千人の選び方**

18歳以上の市民の皆さまの中から、無作為抽出法（くじ引きのような方法）で選ばせていただきました。

● **今回お送りしたもの**

市民意識調査票、返信用封筒、チラシ（※）

（※ チラシはPR用で市民意識調査とは関係ありません。）

● **プライバシーの保護について**

この調査は、皆さまから無記名でご回答いただくものであり、また、回答結果は統計的に処理し、「こういうご意見が何%」というように数値、表にまとめますので、個人のお名前が公表されることは、決してございません。

また、調査をお願いした方の名簿は、この調査以外には使用いたしません。

【ご回答にあたって】

ご使用いただく筆記用具は、どのようなものでも構いません。

ご回答は、あてはまる番号に○印をつけるか、あるいは具体的な内容をご記入ください。

記入されました市民意識調査票は、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ、**無記名のまま切手を貼らずに令和3年7月9日（金）までに、郵便ポストへ投函してください。**

ご不明な点やお問い合わせは

札幌市総務局広報部市民の声を聞く課

担当 井上 ☎ 011-211-2045 まで

## テーマ1 さっぽろえきバスナビについて

札幌市では、利用しやすい公共交通を目指して、「さっぽろえきバスナビ」を運営し、公共交通機関に関する情報を提供しています。

今後もより多くの利用者には有益な情報提供を行っていくため、皆さまの公共交通の情報提供に関する意識などをお聞きし、今後のサイト運営の参考とさせていただきます。

### 【さっぽろえきバスナビの主な機能について】

パソコンやスマートフォンなどから、市内の地下鉄・路面電車(市電)・バス・JRの時刻、運賃、乗継ルート、バスの現在位置などの情報を手軽に検索することができます。



えきバスナビは  
コチラから

**問1** あなたが、普段利用している交通手段は何ですか。よく利用しているものに3つまで○をつけてください。

- |            |          |
|------------|----------|
| 1 地下鉄      | 2 バス     |
| 3 路面電車(市電) | 4 JR(鉄道) |
| 5 タクシー     | 6 自家用車   |
| 7 自転車      | 8 その他( ) |
| 9 利用していない  |          |

**問2** あなたは、さっぽろえきバスナビを知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                  |   |             |             |             |             |   |
|------------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|---|
| 1 知っていて、利用している   | ⇒ | <b>問2-1</b> | <b>問2-2</b> | <b>問2-3</b> | <b>問2-4</b> | へ |
| 2 知っていたが、利用していない | ⇒ | <b>問2-5</b> | へ           |             |             |   |
| 3 知らなかった         | ⇒ | <b>問3</b>   | へ           |             |             |   |

《**問2**で「1 知っていて、利用している」と答えた方にお聞きします。》

**問2-1** あなたは、どのような場面でさっぽろえきバスナビを利用していますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 買い物    | 2 レジャー・外食 |
| 3 通勤・通学  | 4 通院      |
| 5 仕事上の外出 | 6 その他( )  |

**問2-2** あなたは、さっぽろえきバスナビをどのくらいの頻度で利用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1 週5日以上   | 2 週1～4日程度 |
| 3 月1～3日程度 | 4 年に数回以下  |

**問 2-3** あなたが札幌市内を移動するにあたって、さっぽろえきバスナビは役に立っていると思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1 とても役に立っている | 2 役に立っている     |
| 3 どちらともいえない  | 4 あまり役に立っていない |
| 5 役に立っていない   |               |

**問 2-4** あなたが、さっぽろえきバスナビでよく利用する、または便利と感じる機能は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 発着地を自分で入力して乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能
- 2 発着地を地図から選択し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能
- 3 発着地を路線図から選択し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能
- 4 施設や住所を発着地に設定し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能
- 5 G P S機能を活用して近くの駅や停留所を発着地に設定し、乗継経路や時刻・運賃などを検索する機能
- 6 特定の停留所や駅の時刻表を検索する機能
- 7 バスの現在位置や到着予測時間を検索する機能
- 8 停留所の位置を地図上に表示する機能
- 9 よく利用する検索内容をお気に入り登録する機能
- 10 地下鉄運休情報を配信する機能
- 11 その他 ( )
- 12 特になし

《**問 2**で「2 知っていたが、利用していない」と答えた方にお聞きします。》

**問 2-5** あなたが、さっぽろえきバスナビを利用していない理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 紙の時刻表を利用しているため
- 2 他の検索アプリなどを利用しているため
- 3 利用方法がわからないため
- 4 過去に利用したが、利用しにくかったため
- 5 経路や時刻などを覚えており、利用する必要がないため
- 6 公共交通機関を利用しないため
- 7 インターネットを利用していないため
- 8 その他 ( )

《皆さまにお聞きします。》

**問3** あなたが、今後さっぽろえきバスナビを利用する、または利用しようとする場合に、必要な機能等は何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

- 1 より簡単に乗継経路や時刻・運賃などが検索できる操作性の向上
- 2 ダイヤ改正日の数日前から、新しいダイヤを検索できる機能の追加
- 3 現在位置から駅や停留所までの経路の表示など地図機能との連動強化
- 4 よく利用する検索内容をお気に入りに登録する機能の追加（現在アプリ版のみ提供）
- 5 大型ディスプレイなどによる公共交通機関の運行情報等の提供
- 6 発着地に設定できる施設の充実
- 7 情報掲載範囲を札幌市近郊まで拡大
- 8 対話（チャット）型の検索など最新の情報技術を活用した検索機能の追加
- 9 タクシーや公共施設などの予約や決済ができる機能の追加
- 10 その他（）
- 11 現状どおりで良い（特にない）


**【市政広告】** ※この広告は、市民意識調査とは関係ありません。

## 新型コロナウイルスと闘う医療従事者に感謝とエールを送ろう！

札幌市では、医療従事者としての誇りを胸に市民の生命を守るため、日夜奮闘する医療従事者の皆さまに対し、心からの感謝の気持ちを伝えるとともに、少しでも心の支えとなっただけできるよう応援メッセージを募集しています。

### 札幌市医療従事者応援プロジェクト

「新型コロナウイルスと闘う医療従事者に応援メッセージを！」

札幌市 応援メッセージ  検索 



なくそう！  
やめよう！  
新型コロナによる  
いじめや偏見。



## テーマ2 さぽーとほっと基金について

札幌市のさぽーとほっと基金は、皆さまからの寄付を募り、町内会・ボランティア団体・NPO などが行うまちづくり活動に助成することで、札幌のまちづくり活動を支えています。

そこで、市民の皆さまの基金に関する意識や関心のある活動分野をお聞きし、今後の施策の参考とさせていただきます。

**問4** あなたは、さぽーとほっと基金を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |  |   |                             |
|--|---|-----------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 よく知っている</li><li>2 どのような内容の基金か、ある程度知っている</li><li>3 名称は知っているが、どのような内容の基金か知らない</li><li>4 知らない ⇒ <b>問5</b> へ</li></ol> | } | ⇒ <b>問4-1</b> <b>問4-2</b> へ |
|--|---|-----------------------------|

《**問4**で「1 よく知っている」、「2 どのような内容の基金か、ある程度知っている」、「3 名称は知っているが、どのような内容の基金か知らない」と答えた方にお聞きします。》

**問4-1** あなたが、さぽーとほっと基金を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 札幌市が発行している冊子やパンフレット</li><li>2 札幌市公式ホームページ</li><li>3 さぽーとほっと基金に寄付している企業の活動を通じて</li><li>4 市民まちづくり活動を行っている団体から紹介された</li><li>5 イベントや展示など</li><li>6 テレビ・ラジオ・新聞</li><li>7 家族や知人からの口コミ</li><li>8 他の窓口などで紹介された</li><li>9 その他 ( )</li></ol> |
|--|

**問4-2** あなたは、さぽーとほっと基金に寄付をしたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 はい</li><li>2 いいえ</li></ol> |
|--|

さぽーとほっと基金では、寄付の行き先として、さぽーとほっと基金登録団体や分野、テーマを指定することができます。

《皆さまにお聞きます。》

**問5** あなたは、今後さぽーとほっと基金に寄付をしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 寄付したい
- 2 共感する活動・団体・テーマがあれば寄付したい
- 3 制度について理解を進めてから検討したい
- 4 寄付したくない

**問6** あなたが、寄付をする際に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つまで○をつけてください。

- 1 使い道の透明性が担保されている
- 2 情報発信・報告がしっかりしている
- 3 活動内容に共感できる
- 4 活動成果が具体的である
- 5 身近に活動していて親しみが持てる
- 6 寄付することで感謝状などの特典がある
- 7 その他 ( )
- 8 特にない

**問7** あなたが、寄付をする先として興味・関心の高いまちづくり活動の分野・テーマを教えてください。あてはまるものをいくつでも○をつけてください。

- 1 保健、医療、福祉の増進を図る活動
- 2 まちづくりの推進を図る活動
- 3 文化・スポーツ・観光・経済等の振興を図る活動
- 4 子どもの健全育成を図る活動
- 5 新型コロナウイルス感染症対策市民活動
- 6 東日本大震災被災者支援
- 7 北海道胆振東部地震被災者支援
- 8 その他の災害被災者支援
- 9 その他 ( )
- 10 興味のある活動はない





## テーマ4 消防団について

札幌市では、自然災害などへの対応策として、地域防災体制の強化に力を入れています。この地域防災を担う組織の一つに消防団がありますが、近年、消防団員のなり手不足が問題となっています。

そこで、皆さまの消防団への関心度などについてお聞きし、今後の消防団活動促進の参考にさせていただきます。

○「地域防災」とは、地域や近隣の方々が互いに協力し合って取り組む防災活動のことをいいます。  
○「消防団」とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために集まった組織です。

**問13** あなたは、地域防災について関心がありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                 |   |                  |
|-----------------|---|------------------|
| 1 関心がある         | } | ⇒ <b>問14</b> へ   |
| 2 どちらかといえば関心がある |   |                  |
| 3 どちらかといえば関心がない | } | ⇒ <b>問13-1</b> へ |
| 4 関心がない         |   |                  |

《**問13**で「3 どちらかといえば関心がない」または「4 関心がない」と答えた方にお聞きします。》

**問13-1** あなたが、関心がない理由はなんですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 地域防災についてイメージがわからないから
- 2 地域防災について考える時間がないから
- 3 行政が行うべき業務だから
- 4 災害は起こらないと思っているから
- 5 災害が起きてから考えようと思っているから
- 6 地域と関わりを持ちたくないから
- 7 その他 ( )

《皆さまにお聞きします。》

**問14** あなたは、ボランティアで地域貢献をしたり、災害時に地域住民を助ける支援をしたいと思いませんか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                      |   |                  |
|----------------------|---|------------------|
| 1 支援したいと思う           | } | ⇒ <b>問15</b> へ   |
| 2 どちらかといえば支援したいと思う   |   |                  |
| 3 どちらかといえば支援したいと思わない | } | ⇒ <b>問14-1</b> へ |
| 4 支援したいと思わない         |   |                  |

《問14で「3 どちらかといえば支援したいと思わない」または「4 支援したいと思わない」と答えた方にお聞きします。》

問14-1 あなたが、支援をしたいと思わない理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1 支援の方法がわからないから   | 2 支援するのが面倒だから         |
| 3 自分自身のことで精一杯だから  | 4 自分自身の体力等により難しいと思うから |
| 5 支援できるような時間が無いから | 6 行政が支援すべきだと思うから      |
| 7 関わることで感染症が怖いから  | 8 地域と関わりを持ちたくないから     |
| 9 その他 ( )         |                       |

《皆さまにお聞きします。》

問15 あなたは、地域防災の担い手として組織されている消防団の存在を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| 1 どのような組織がよく知っている   | } ⇒ 問15-1 へ |
| 2 どのような組織がある程度知っている |             |
| 3 名称のみ知っている         | } ⇒ 問16 へ   |
| 4 知らない              |             |

《問15で「1 どのような組織がよく知っている」または「2 どのような組織がある程度知っている」と答えた方にお聞きします。》

問15-1 消防団の活動について、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |                 |                 |           |
|-----------------|-----------------|-----------|
| 1 消火活動          | 2 救助活動          | 3 救護活動    |
| 4 避難誘導          | 5 防災訓練          | 6 防火パトロール |
| 7 応急手当や救護に関する訓練 | 8 地域住民への防災訓練の指導 |           |
| 9 地域住民への応急手当の指導 | 10 火災予防などの街頭啓発  |           |
| 11 その他 ( )      | 12 特にない         |           |

《皆さまにお聞きします。》

問16 札幌市では、様々な方法で消防団をPRしています。あなたが、見聞きしたことがあるものに、いくつでも○をつけてください。

- |                         |             |               |
|-------------------------|-------------|---------------|
| 1 市電車内広告                | 2 市電停留所広告   | 3 地下鉄車内広告     |
| 4 地下鉄駅掲示板 (ポスター)        | 5 チラシ       | 6 フリーペーパー     |
| 7 広報さっぽろ                | 8 インターネット広告 | 9 札幌市公式ホームページ |
| 10 街頭ビジョン (チカホ・ススキノ交差点) | 11 その他 ( )  |               |
| 12 特にない                 |             |               |



## テーマ5 札幌市における自殺対策について

札幌市では、「札幌市自殺総合対策行動計画 2019」に基づき、「ひとりでも多くの命を救う」ことを目標に自殺総合対策事業を行っています。

そこで、市民の皆さまの自殺に関する意識をお聞きし、今後の自殺対策の参考とさせていただきます。

自殺は全国的な社会問題であり、札幌市においても年間 300 人を超える方が自ら命を絶っています。そのため、札幌市では以下のような相談窓口を開設しています。

○札幌こころのセンター 心の健康づくり電話相談 ※12月29日～1月3日はお休みです。

011-622-0556（平日 9 時～17 時）

0570-064-556（平日 17 時～21 時、土日祝休日 10 時～16 時）

**問 2 1** 札幌市における次の自殺対策の取り組みのうち、あなたが知っていたものにいくつでも○をつけてください。

- 1 札幌こころのセンター 心の健康づくり電話相談
- 2 札幌市依存症相談窓口
- 3 Webサイト「札幌こころのナビ」
- 4 ゲートキーパー研修会
- 5 マンガで知ろう「ゲートキーパー」の役割
- 6 北海道いのちの電話
- 7 その他（ ）
- 8 知っている取り組みはない ⇒ **問 2 2** へ

⇒ **問 2 1 - 1** へ

《**問 2 1**で「1」～「7」のうち、一つでも自殺対策の取り組みを知っていたと答えた方にお聞きします。》

**問 2 1 - 1** あなたは、札幌市の自殺対策の取り組みをどのように知りましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1 ポスターやチラシ    | 2 新聞・雑誌          |
| 3 テレビ・ラジオ     | 4 広報さっぽろ         |
| 5 札幌市公式ホームページ | 6 札幌市公式以外のホームページ |
| 7 札幌市公式SNS（※） | 8 札幌市公式以外のSNS（※） |
| 9 家族や知人       | 10 公共施設やその窓口など   |
| 11 医師や医療機関    | 12 その他（ ）        |
| 13 覚えていない     |                  |

※ Facebook、Twitter、Instagramなどのソーシャル・ネットワーキング・サービスのこと

札幌市では「市民一人ひとりがゲートキーパーになること」を目指して自殺対策に取り組んでいます。「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人にきづき、声をかけ、話をきいて、必要な支援につなげ、みまもる人のことです。特別な資格は必要なく、さまざまな立場の方が、それぞれの立場においてゲートキーパーになることができます。





《皆さまにお聞きします。》

問22 あなたは、前記の「ゲートキーパー」の意味は知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 言葉の意味をよく知っていた
- 2 言葉の意味を多少は知っていた
- 3 言葉の意味は知らなかったが、「ゲートキーパー」という名称は知っていた
- 4 「ゲートキーパー」という名称も知らなかった

問23 あなたは、周りにいる悩んでいる人にきづいたとき、どのように対応するのが最も望ましいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 話しかけず、そっとしておく
- 2 気分転換のために無理にでも外へ連れ出す
- 3 元気を出すように励ます
- 4 理由を問いたです
- 5 心配していることを伝えて見守る
- 6 声をかけてじっくりと話を聞く
- 7 その他 ( )
- 8 わからない

自ら命を絶たれた方の多くは、さまざまな悩みにより心理的に追い込まれ、直前には精神疾患が考えられる状態にあったことが明らかになっています。その中でも、アルコールなどの依存症は、自殺のリスクを高めることが指摘されています。

問24 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～カのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

依存症に関する考え方	そう思う	どちらかという そう思う	どちらともいえない	どちらかという そう思わない	そう思わない
ア 依存症は病気であり、本人の性格や意志の問題ではない	1	2	3	4	5
イ お酒やギャンブルはストレスを発散することにはつながらない	1	2	3	4	5
ウ 借金などのトラブルを家族が肩代わりをして解決するべきではない	1	2	3	4	5
エ 本人の意志だけでやめることは難しく、専門機関に相談することが大切	1	2	3	4	5
オ 本人が依存の問題を認めることから回復が始まる	1	2	3	4	5
カ 依存症の回復には長い時間がかかる	1	2	3	4	5

悩んだときのこころの状態では、追いつめられたり、自分の周りが見えなくなってしまうますが、このような感情は、悩みを抱えてストレスがかかっている状態のときには、だれでも感じてしまう可能性のある、自然な反応です。

**問25** あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦労、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

悩みや苦労、ストレス、不満の種類	感じない	かつてあったが今は感じない	現在感じている
ア 家庭の問題 …… 家族の不和、子育て、介護・看病 など	1	2	3
イ 健康の問題 …… 自分の病気、体の悩み、心の悩み など	1	2	3
ウ 経済的な問題 …… 倒産、借金、失業、生活困窮 など	1	2	3
エ 勤務関係の問題 …… 転勤、仕事不振、職場の人間関係 など	1	2	3
オ 恋愛関係の問題 …… 失恋、結婚の悩み など	1	2	3
カ 学校の問題 …… いじめ、学業不振、進路、学校での人間関係 など	1	2	3
キ その他 ( )		2	3

**問26** あなたは日頃、悩みや苦労、ストレス、不満を感じたとき、どのように対処していますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 1 体を動かす・運動する       | 2 睡眠をとる                  |
| 3 食事をする            | 4 お酒を飲む                  |
| 5 家族に話を聞いてもらう・相談する | 6 友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する    |
| 7 趣味やレジャーを楽しむ      | 8 我慢する、何もしない             |
| 9 その他 ( )          | 10 日頃、悩みや苦労、ストレス、不満を感じない |

**問27** あなたは今まで、死のうとした、または死のうと思ったことはありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                           |  |
|---------------------------|--|
| 1 死のうとしたことがある             | } ⇒ <b>問27-1</b> <b>問27-2</b> <b>問27-3</b> へ |
| 2 死のうと思ったことがある            |  |
| 3 どちらもない ⇒ <b>16ページ</b> へ |  |

《問27で「1 死のうとしたことがある」または「2 死のうと思ったことがある」と答えた方にお聞きします。》

問27-1 あなたが、死のうとした、または死のうと思った原因は何ですか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

- 1 家庭の問題…………… 家族の不和、子育て、介護・看病 など
- 2 健康の問題…………… 自分の病気、体の悩み、心の悩み など
- 3 経済的な問題…………… 倒産、借金、失業、生活困窮 など
- 4 勤務関係の問題…………… 転勤、仕事不振、職場の人間関係 など
- 5 恋愛関係の問題…………… 失恋、結婚の悩み など
- 6 学校の問題…………… いじめ、学業不振、進路、学校での人間関係 など
- 7 その他 ( )

問27-2 あなたが、死のうとした、または死のうと思った際に、思いとどまったのはなぜですか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

- 1 家族に相談したから
- 2 友人に相談したから
- 3 家族や恋人の事を考えたから
- 4 仕事の事を考えたから
- 5 医療機関を受診したから
- 6 死ぬのが怖かったから
- 7 書籍を読んだから
- 8 体験談や心に響くことばに触れたから
- 9 「いのちの電話」など、相談窓口を利用したから
- 10 自殺防止のポスターやCM、ステッカーを見たから
- 11 自殺を考える原因となった問題（借金や健康問題など）が解決したから
- 12 テレビ・ラジオやインターネットの情報を見たから
- 13 その他 ( )
- 14 特に理由はない

問27-3 今振り返ると、その際にどのようなことがあれば、よかったと思いますか。すでにあつたものや利用したものも含め、あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

- 1 心の支えとなるような日頃の人間関係
- 2 死にたいという気持ちに気づいて声をかけてくれる人
- 3 相談にのってくれる人
- 4 問題に合った専門機関・相談窓口の情報
- 5 具体的援助（例：金銭の貸与、子どもの預かり、食事・住居の提供など）
- 6 体験談や心に響くことば（インターネットサイトなど）
- 7 休みをとれる環境
- 8 精神科医療機関（クリニックや病院）
- 9 その他 ( )
- 10 特にない

悩んでいる人にきづいたとき、「死にたい」と打ち明けられたときの望ましい対応について

○ こころの健康（札幌こころのセンター）「知って欲しい、自殺について」

(URL) <https://www.city.sapporo.jp/eisei/gyomu/seisin/knows/index.html>

○ 「札幌こころのナビ」

(URL) <http://www2.city.sapporo.jp/hottokenai-kokoro/hottokenai-kokoro.html>



最後にあなたご自身のことについておたずねします。あてはまるものに○をつけてください。

**F 1** あなたの性別は

- 1 男性                      2 女性                      3 その他

**F 2** あなたの年齢は(令和3年6月1日現在)

- 1 18～19 歳              2 20～29 歳              3 30～39 歳              4 40～49 歳  
5 50～59 歳              6 60～69 歳              7 70～74 歳              8 75 歳以上

**F 3** あなたは現在何区にお住まいですか

- 1 中央区              2 北区              3 東区              4 白石区              5 厚別区  
6 豊平区              7 清田区              8 南区              9 西区              10 手稲区

**F 4** あなたのご職業は(もっとも近いもの1つに○をつけてください。)

- 1 会社員              2 公務員              3 自営業              4 パート・アルバイト  
5 主婦・主夫              6 学生              7 無職              8 その他

**F 5** あなたの同居しているご家族は(あてはまるものにいくつでも○をつけてください。)

- 1 配偶者    2 乳幼児 (0～2歳程度)  
3 就学前児童 (3～5歳程度)                      4 小学生 (6～12歳程度)  
5 中学生 (13～15歳程度)                      6 高校生 (16～18歳程度)  
7 大学(院)・専門学校生                      8 65歳以上の高齢者  
9 上記「1」～「8」以外の方                      10 いない

調査は以上で終了です。長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

記入されました市民意識調査票は、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに令和3年7月9日(金)までに、郵便ポストへ投函してください。